

不登校・いじめ対策等の効果的な活用の 推進に向けた調査研究

参考：学校新規アンケート調査結果に関する
単純集計
—中学校—

2025年3月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

目次

1	調査概要.....	1
2	調査結果.....	2
2-1	貴校の管理職(校長、副校長、教頭)のうち、令和4年度に在籍していた方はいらっしゃいますか。.....	2
2-2	令和4年度に配置されていたスクールカウンセラーの、貴校での勤務年数をお答えください(令和4年5月1日時点).....	3
2-3	貴校のスクールカウンセラーが、令和4年度中に相談等を行った人数(延べ人数)をお答えください。／人.....	4
2-4	貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください.....	5
2-5	貴校のスクールカウンセラーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください.....	7
2-6	令和4年度に配置されていたスクールソーシャルワーカーの、貴校での勤務年数をお答えください(令和4年5月1日時点).....	8
2-7	貴校のスクールソーシャルワーカーが、令和4年度中に支援を行った児童生徒数の人数(実人数)をお答えください。／人.....	9
2-8	貴校のスクールソーシャルワーカーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください.....	10
2-9	貴校では、生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に教員が配置されていましたが(令和4年5月1日時点).....	11
2-10	生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください(令和4年5月1日時点).....	12
2-11	貴校で、教員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・学習指導員・特別支援教育支援員・日本語支援員・母語支援員以外で、不登校やいじめの対応に当たる独自のスタッフやボランティアを配置していた場合、人数をお答えください(令和4年5月1日時点).....	13
2-12	貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の教育課程による指導を受けていた児童生徒数をお答えください(令和4年5月1日時点).....	14
2-13	貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の配慮に基づき、在籍学級や放課後等に何らかの日本語指導を受けていた児童生徒数をお答えください(令和4年5月1日時点).....	15
2-14	貴校に在籍していた、要保護児童対策地域協議会の支援対象となっている児童生徒数をお答えください(令和4年5月1日時点).....	16
2-15	令和4年度に貴校を所管する教育委員会が主催する生徒指導(不登校・いじめ等)の研修について、貴校の教員のうち何割が受講されましたか.....	17
2-16	貴校では、令和4年度に学校における全教職員を対象とした生徒指導(不登校・いじめ等)の研修は、どの程度の頻度で実施していましたか.....	18
2-17	貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題(不登校・いじめ等)について情報共有や対応の検討のために、定期的に生徒指導部会や教育相談部会等は開催されていましたか.....	19
2-18	貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題(不登校・いじめ等)が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください.....	20
2-19	貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールの見直しの状況についておうかがいします。校則や児童生徒の学校生活上のルールを見直した実績はありましたか.....	22
2-20	貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールに関する取組について、当てはまるものを全てお答えください.....	23
2-21	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／人権教育の授業.....	24

2-22	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／子どもの主体的な意見表明を主な目的とした授業.....	25
2-23	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／SEL教育に特化した授業.....	26
2-24	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／障害への理解に特化した授業.....	27
2-25	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／異文化等の国際理解に特化した授業.....	28
2-26	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／体験活動への組織的な取り組み.....	29
2-27	貴校が、令和4年度に同一学年内の全てのクラスにおいて、学級を超えて児童生徒が交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。.....	30
2-28	貴校が、令和4年度に異なる学年間の全てのクラスで交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。.....	31
2-29	貴校が、令和4年度に地域の方々と交流しながら行う学習活動を、組織的に取り組んでいた頻度をお答えください。.....	32
2-30	貴校では、令和4年度に一つの学級を複数の教員が担任として受け持つ仕組み(学年担任制・チーム担任制等)を導入していましたか。.....	33
2-31	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／ティーム・ティーチング.....	34
2-32	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／習熟度別指導.....	35
2-33	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／少人数指導.....	36
2-34	貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／自由進度学習.....	37
2-35	貴校では、令和4年度に自由課題学習に取り組みましたか。.....	38
2-36	貴校では、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を実施していましたか。.....	39
2-37	貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。.....	40
2-38	貴校では、一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察によって、児童生徒に個別に生徒相談を実施していましたか。令和4年度に個別に生徒相談を実施した人数をお答えください。 42	
2-39	令和4年度に、貴校には、学校運営協議会が設置されていましたか。学校運営協議会が設置されていた場合、その委員の属性について、当てはまるものを全てお答えください。.....	43
2-40	令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／A:学校全体の発生・対応状況等の報告.....	44
2-41	令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／B:個別の事案の報告.....	45
2-42	令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／C:課題解決に向けた協議.....	46
2-43	貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの.....	47
2-44	貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／前問	

	で選択した中で、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたもの	49
2-45	貴校では、重大事態が発生した場合の対応フローは策定されていましたか(令和4年5月1日時点)。	51
2-46	令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、定期的に会議を行っていましたか。	52
2-47	令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。	53
2-48	令和4年度に、貴校で実施したいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。	54
2-49	貴校では、令和4年度に不登校や長期欠席の児童生徒の情報を関係者間で共有するための資料(児童生徒理解・支援シート等)を作成していましたか。	55
2-50	貴校では、令和4年度に校内教育支援センターを設置していましたか。	56
2-51	貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの開室日時について、最も当てはまるものをお答えください。	57
2-52	貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。 58	
2-53	貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの1日当たりの平均的な児童生徒利用数をお答えください。	59
2-54	貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。	60
2-55	貴校の、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外の学校内の居場所で日中過ごしていた1日当たりの平均的な児童生徒数をお答えください。	61
2-56	貴校では、令和4年度に不登校の児童生徒が、学校外(自宅や教育支援センター等)で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信を行っていましたか。	62
2-57	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。	63
2-58	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。	64
2-59	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等(オンライン含む)で学習した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。	65
2-60	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等(オンライン含む)で学習した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。	66
2-61	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。	67
2-62	上記の質問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／前問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携をお答えください。	68
2-63	貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください。／2-4 ⑪その他	69
2-64	生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください(令和4年5月1日時点)。／2-10 ⑥その他	70
2-65	前問(2-11)の質問に関して、令和4年度の独自のスタッフやボランティアの業務内容についてお答えください。	71
2-66	貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題(不登校・いじめ等)が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／2-18 ⑧その他	76
2-67	貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。／2-37 ⑥その他	78
2-68	貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものに	

	ついて、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの／ 2-43 ⑧その他.....	78
2-69	令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／ 2-47 ⑦その他.....	80
2-70	令和4年度に、貴校で実施していたいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／ 2-48 ⑤その他.....	82
2-71	貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。／ 2-52 ⑥その他.....	82
2-72	貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-54 ⑤その他の教室.....	83
2-73	貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-61 ⑦その他.....	86
2-74	連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／ 2-61 連携の具体的内容.....	89

1 調査概要

(1) 調査対象

令和4年度の勤務実態調査における回答内容と本アンケートの回答内容を紐づけて分析するため、本アンケート調査は、令和4年度勤務実態調査の対象校（中学校1,186校）を調査対象とした。

(2) 調査方法

WEBアンケート調査を実施した。文部科学省より都道府県教育委員会を通じ（※政令指定都市は文部科学省より直接送付）、市区町村教育委員会にメールにてアンケート調査への協力依頼及び調査対象校への転送依頼を行った。依頼状に記載されたWEB回答フォームのURLより調査対象校から回答を得た。

(3) 調査期間

令和6（2024）年6月10日（月）～令和6（2024）年7月1日（月）

（※7月9日（火）まで回答延長）

(4) 回収状況

有効回答数は1,135件であり、回収率は95.7%であった。

(5) 分析対象

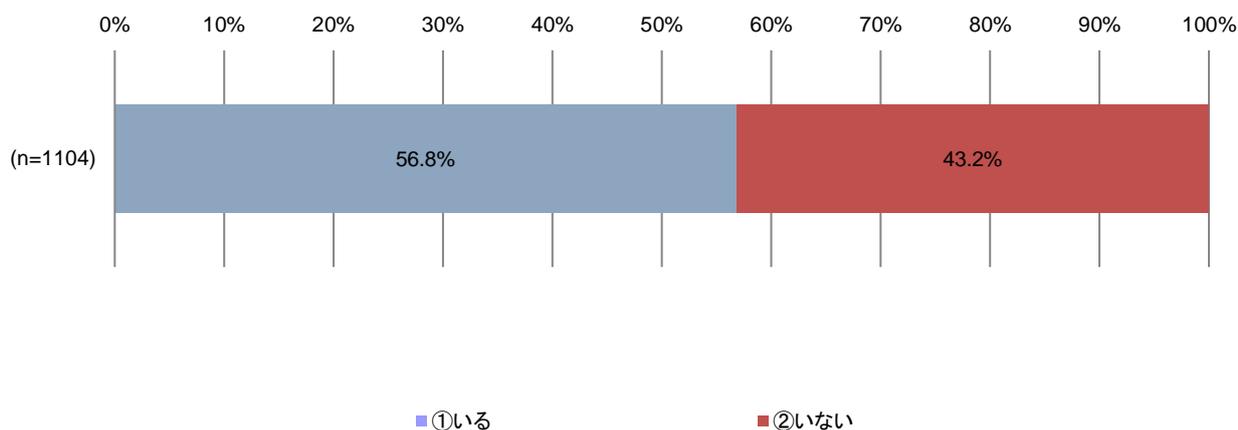
回答が得られた1,135校のうち、学校規模が下位2.5%に当てはまる学校を除いた1,104校を分析対象とした。

2 調査結果¹²³⁴

2-1 貴校の管理職（校長、副校長、教頭）のうち、令和4年度に在籍していた方はいらっしゃいますか。

「①いる」の割合が最も高く56.8%である。次いで、「②いない(43.2%)」である。

図表 2-1 貴校の管理職（校長、副校長、教頭）のうち、令和4年度に在籍していた方はいらっしゃいますか。



	合計	①いる	②いない
合計	1104	627	477
	100.0%	56.8%	43.2%

¹ アンケートの設問文をそのまま記載している。

² 学校規模が下位 2.5%に当てはまる学校を除いた 1,104 校の回答結果。設問によって、一部の学校のみ回答している。

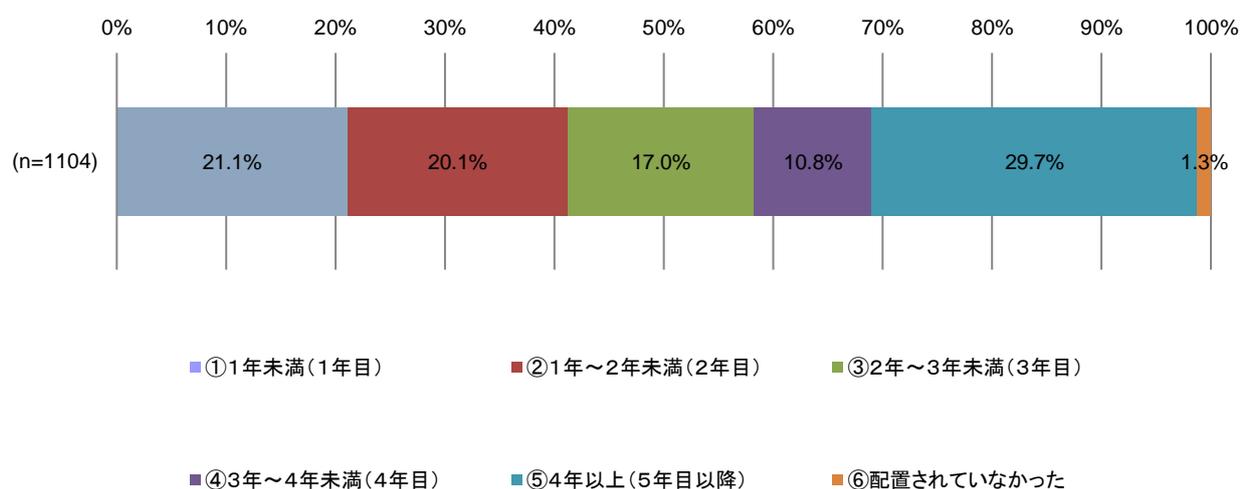
³ (n=)は回答数を表している。

⁴ 「その他」など、自由回答について、基本的に学校の回答をそのまま記載しているが、自治体名や自治体が特定されるような固有名詞や記述は削除、または、内容や意味を損なわない程度で一般化・抽象化した。明らかな誤字・脱字は修正した。

2-2 令和4年度に配置されていたスクールカウンセラーの、貴校での勤務年数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

「⑤4年以上（5年目以降）」の割合が最も高く29.7%である。次いで、「①1年未満（1年目）」、「②1年～2年未満（2年目）」である。

図表 2-2 令和4年度に配置されていたスクールカウンセラーの、貴校での勤務年数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

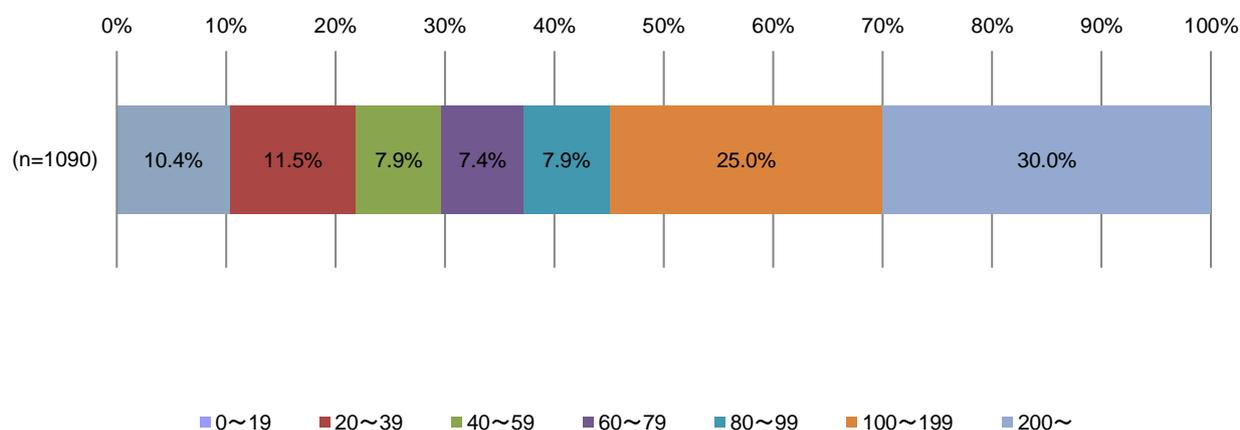


	合計	①1年未満(1年目)	②1年～2年未満(2年目)	③2年～3年未満(3年目)	④3年～4年未満(4年目)	⑤4年以上(5年目以降)	⑥配置されていなかった
合計	1104	233	222	188	119	328	14
	100.0%	21.1%	20.1%	17.0%	10.8%	29.7%	1.3%

2-3 貴校のスクールカウンセラーが、令和4年度中に相談等を行った人数（延べ人数）をお答えください。／人¹²

平均値 164.3、最小値 0.0、最大値 2024.0、標準偏差 169.1 である。

図表 2-3 貴校のスクールカウンセラーが、令和4年度中に相談等を行った人数（延べ人数）をお答えください。／人



	合計	0～19	20～39	40～59	60～79	80～99	100～199	200～
合計	1090	113	125	86	81	86	272	327
	100%	10.4%	11.5%	7.9%	7.4%	7.9%	25.0%	30.0%

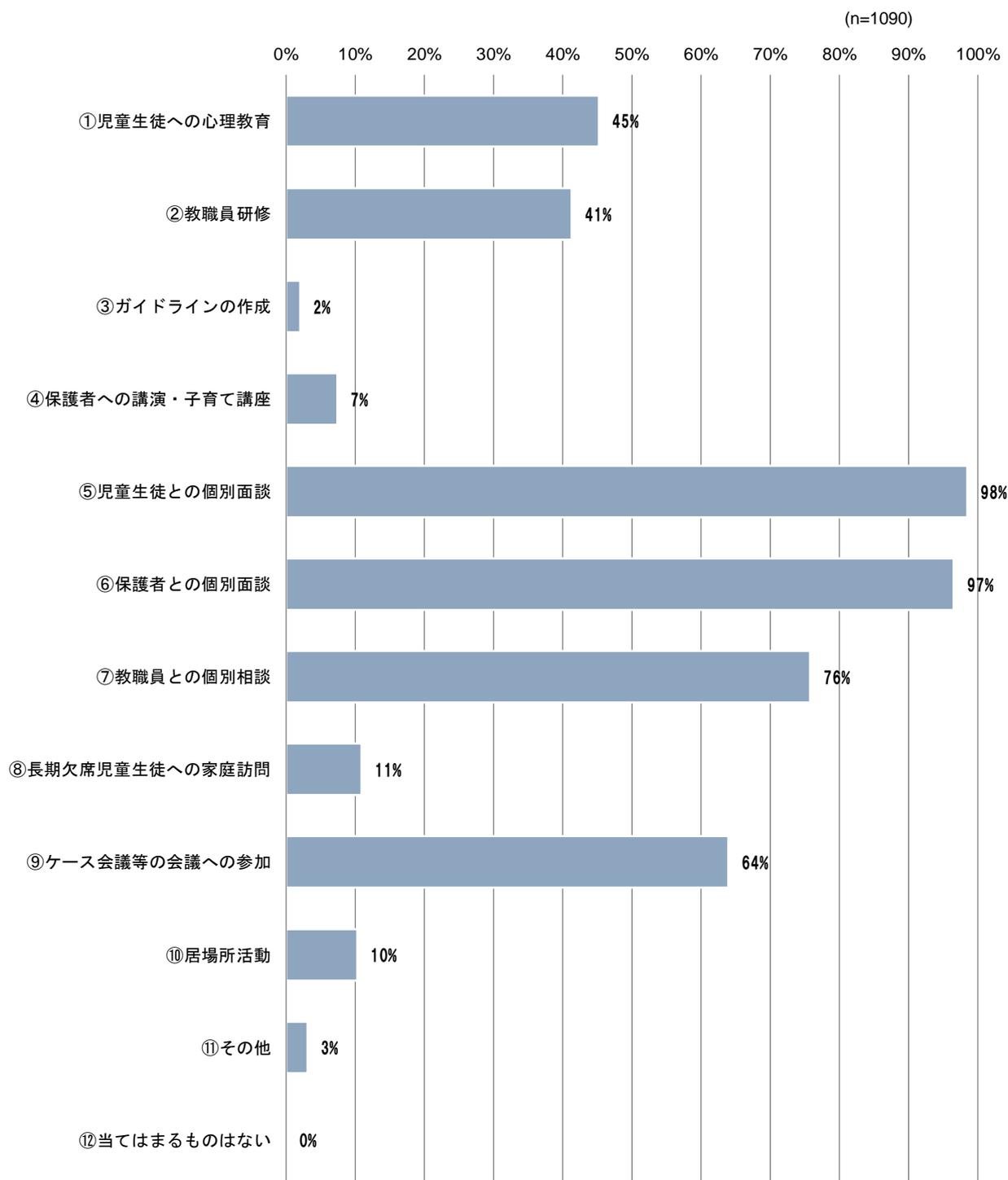
¹ スクールカウンセラーが「配置されていなかった」と回答した 14 校を除いた回答。

²「0～19」に 0 人と回答した 3 校が含まれている。

2-4 貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください。¹

「⑤児童生徒との個別面談」の割合が最も高く98%である。次いで、「⑥保護者との個別面談(97%)」、「⑦教職員との個別相談(76%)」である。

図表 2-4 貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください。



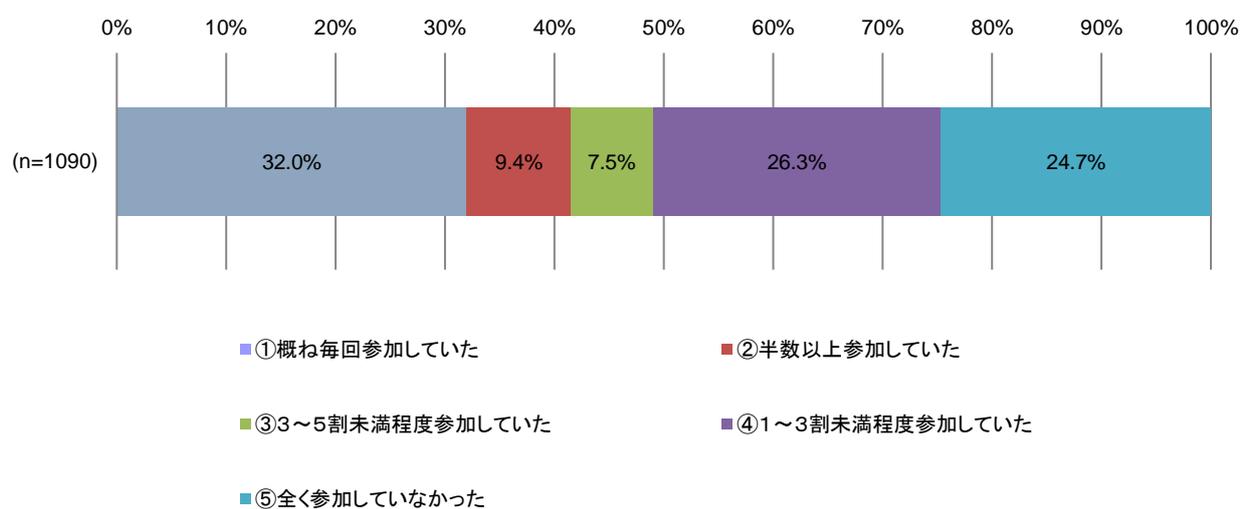
¹ スクールカウンセラーが「配置されていない」と回答した14校を除いた回答。

	合計	① 児童生徒への心理教育	② 教職員研修	③ ガイドラインの作成	④ 保護者への講演・子育て講座	⑤ 児童生徒との個別面談	⑥ 保護者との個別面談	⑦ 教職員との個別相談	⑧ 長期欠席児童生徒への家庭訪問	⑨ ケース会議等の会議への参加	⑩ 居場所活動	⑪ その他	⑫ 当てはまるものはない
合計	1090	493	450	22	81	1073	1052	826	119	697	112	34	0
	100%	45%	41%	2%	7%	98%	97%	76%	11%	64%	10%	3%	0%

2-5 貴校のスクールカウンセラーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。¹

「①概ね毎回参加していた」の割合が最も高く32.0%である。次いで、「④1～3割未満程度参加していた(26.3%)」、「⑤全く参加していなかった(24.7%)」である。

図表 2-5 貴校のスクールカウンセラーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。



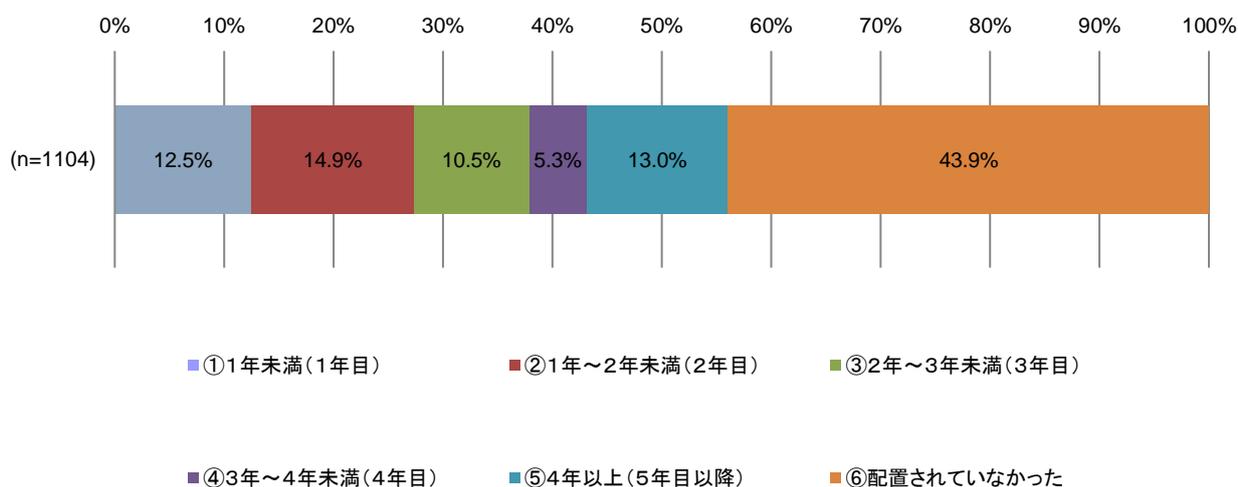
	合計	①概ね毎回参加していた	②半数以上参加していた	③3～5割未満程度参加していた	④1～3割未満程度参加していた	⑤全く参加していなかった
合計	1090	349	103	82	287	269
	100.0%	32.0%	9.4%	7.5%	26.3%	24.7%

¹ スクールカウンセラーが「配置されていない」と回答した14校を除いた回答。

2-6 令和4年度に配置されていたスクールソーシャルワーカーの、貴校での勤務年数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

「⑥配置されていなかった」の割合が最も高く43.9%である。次いで、「②1年～2年未満(2年目) (14.9%)」、「⑤4年以上(5年目以降) (13.0%)」である。

図表 2-6 令和4年度に配置されていたスクールソーシャルワーカーの、貴校での勤務年数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

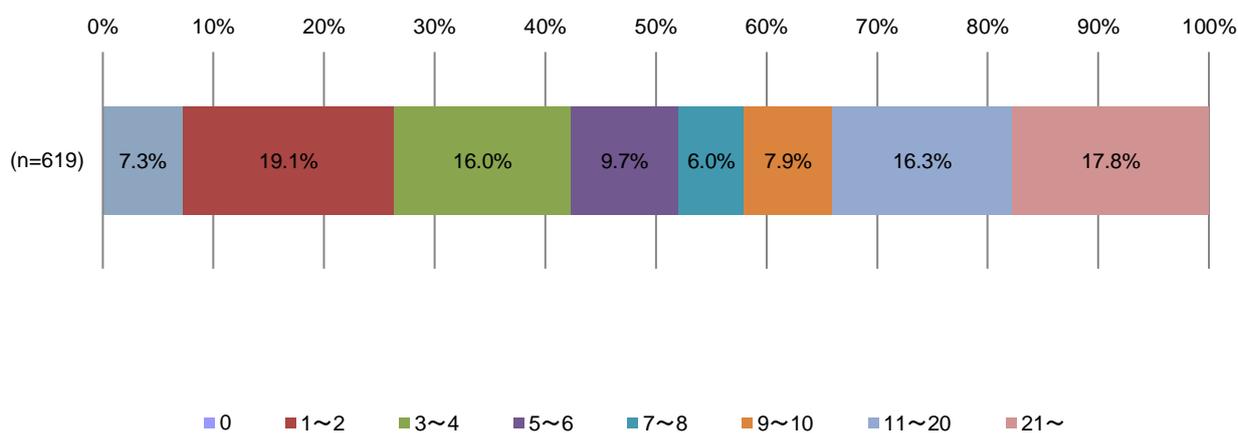


	合計	①1年未 満(1年 目)	②1年～ 2年未 満 (2年目)	③2年～ 3年未 満 (3年目)	④3年～ 4年未 満 (4年目)	⑤4年以 上(5年 目以降)	⑥配置さ れていな かった
合計	1104	138	164	116	58	143	485
	100.0%	12.5%	14.9%	10.5%	5.3%	13.0%	43.9%

2-7 貴校のスクールソーシャルワーカーが、令和4年度中に支援を行った児童生徒数の人数（実人数）をお答えください。／人¹

平均値 17.3、最小値 0.0、最大値 562.0、標準偏差 45.7 である。

図表 2-7 貴校のスクールソーシャルワーカーが、令和4年度中に支援を行った児童生徒数の人数（実人数）をお答えください。／人



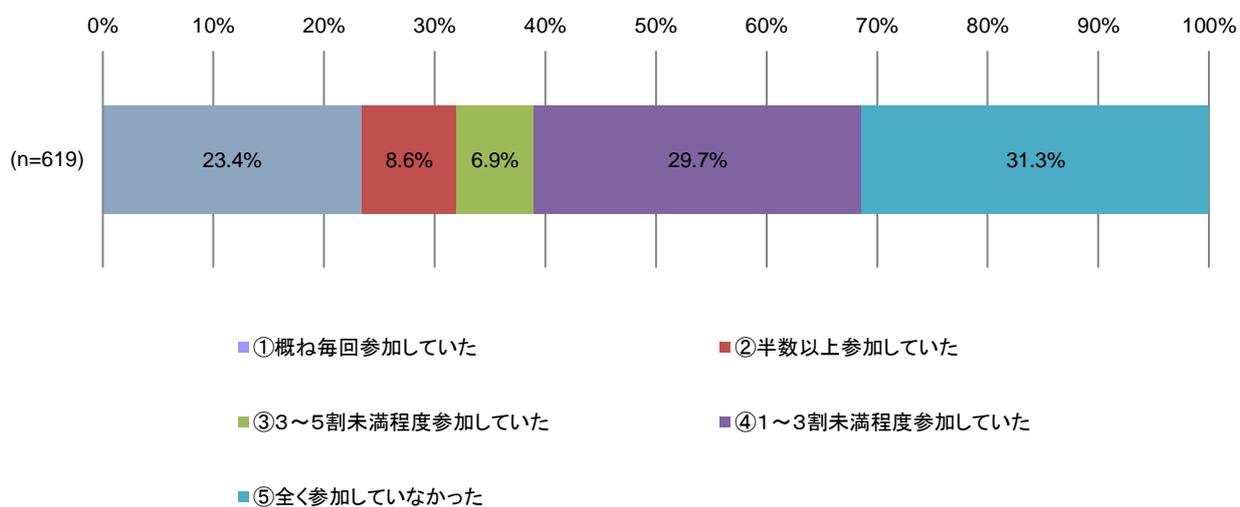
	合計	0	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~20	21~
合計	619	45	118	99	60	37	49	101	110
	100%	7.3%	19.1%	16.0%	9.7%	6.0%	7.9%	16.3%	17.8%

¹ スクールソーシャルワーカーが「配置されていなかった」と回答した 485 校を除いた回答。

2-8 貴校のスクールソーシャルワーカーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。¹

「⑤全く参加していなかった」の割合が最も高く31.3%である。次いで、「④1～3割未満程度参加していた(29.7%)」、「①概ね毎回参加していた(23.4%)」である。

図表 2-8 貴校のスクールソーシャルワーカーの、令和4年度の生徒指導に関する生徒指導部会・教育相談部会等の会議への参加状況について、最も当てはまるものをお答えください。



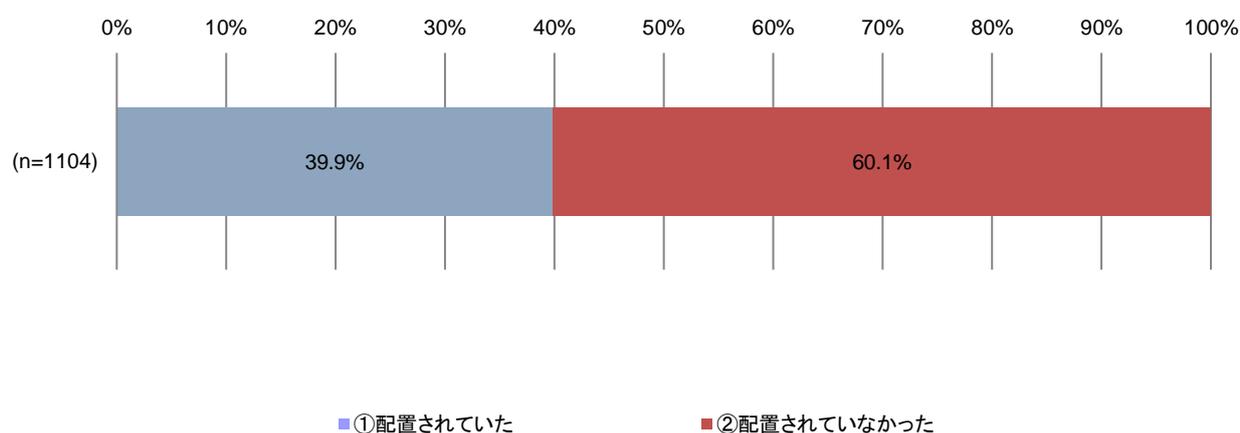
	合計	①概ね毎回参加していた	②半数以上参加していた	③3～5割未満程度参加していた	④1～3割未満程度参加していた	⑤全く参加していなかった
合計	619	145	53	43	184	194
	100.0%	23.4%	8.6%	6.9%	29.7%	31.3%

¹ スクールソーシャルワーカーが「配置されていない」と回答した485校を除いた回答。

2-9 貴校では、生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に教員が配置されていましたか（令和4年5月1日時点）。

「②配置されていなかった」の割合が最も高く60.1%である。次いで、「①配置されていた(39.9%)」である。

図表 2-9 貴校では、生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に教員が配置されていましたか（令和4年5月1日時点）。

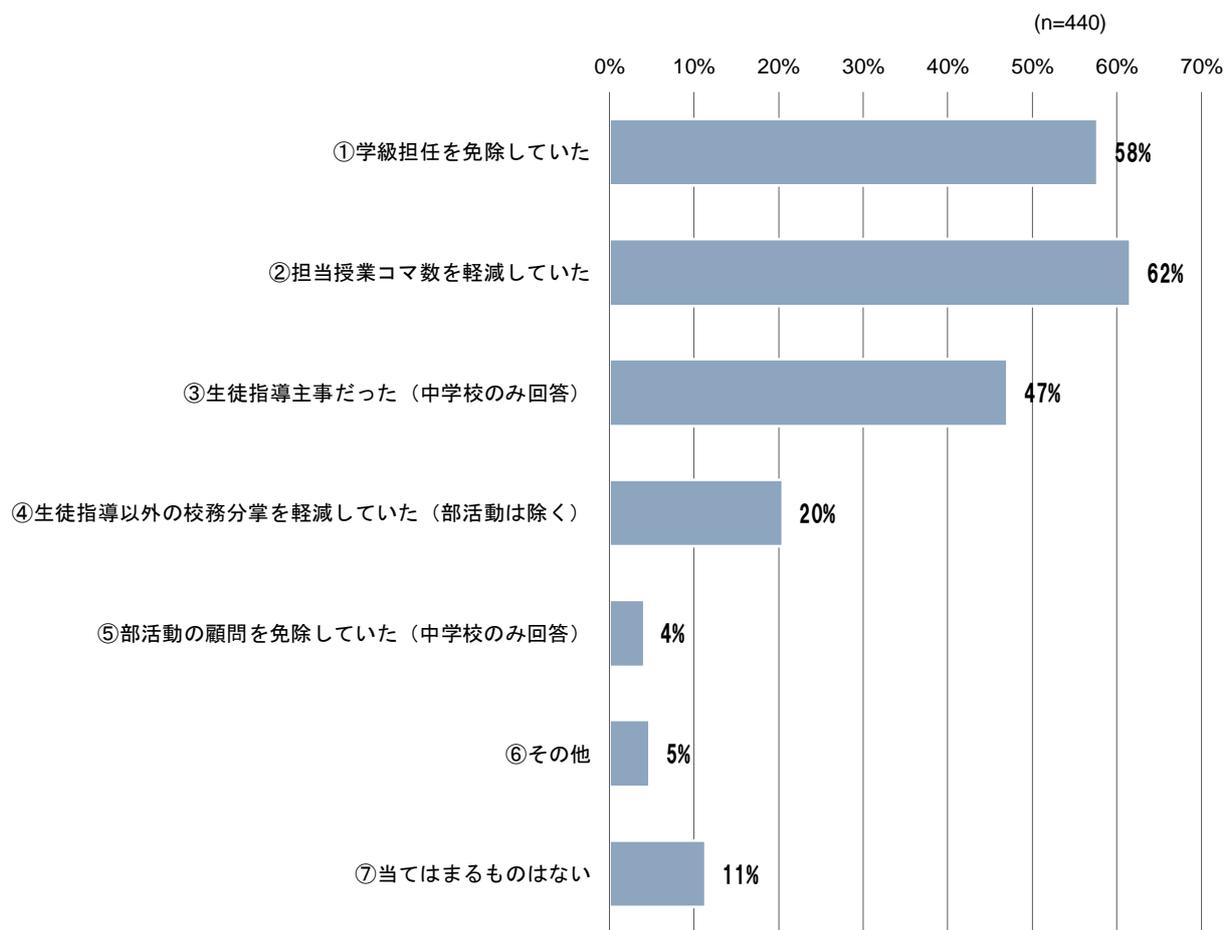


	合計	①配置されていた	②配置されていなかった
合計	1104	440	664
	100.0%	39.9%	60.1%

2-10 生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください（令和4年5月1日時点）。¹

「②担当授業コマ数を軽減していた」の割合が最も高く62%である。次いで、「①学級担任を免除していた(58%)」、「③生徒指導主事だった(中学校のみ回答)(47%)」である。

図表 2-10 生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください（令和4年5月1日時点）。



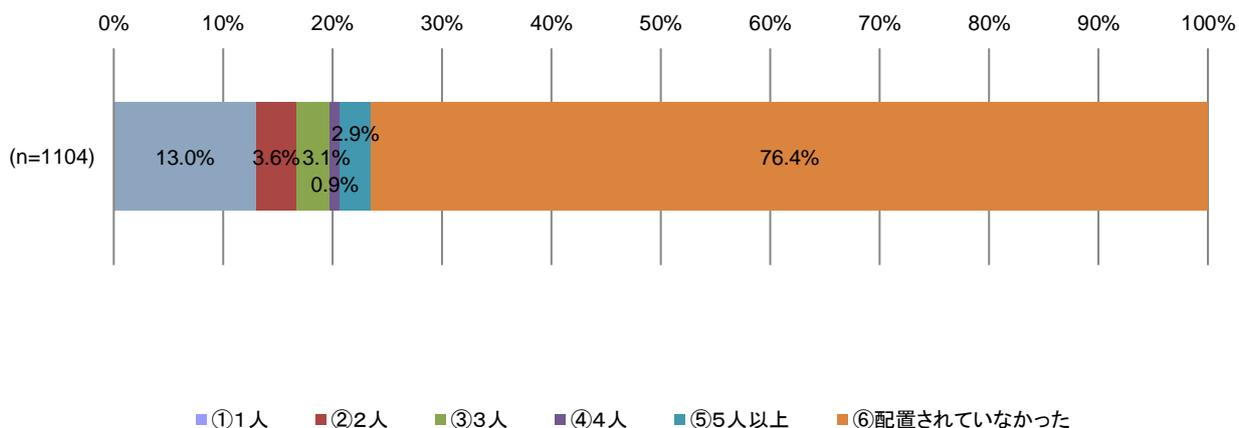
	合計	①学級担任を免除していた	②担当授業コマ数を軽減していた	③生徒指導主事だった(中学校のみ回答)	④生徒指導以外の校務分掌を軽減していた(部活動は除く)	⑤部活動の顧問を免除していた(中学校のみ回答)	⑥その他	⑦当てはまるものはない
合計	440	254	271	207	90	18	21	50
	100%	58%	62%	47%	20%	4%	5%	11%

¹ 生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に教員が「配置されていた」と回答した440校のみの回答。

2-11 貴校で、教員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・学習指導員・特別支援教育支援員・日本語支援員・母語支援員以外で、不登校やいじめの対応に当たる独自のスタッフやボランティアを配置していた場合、人数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

「⑥配置されていなかった」の割合が最も高く76.4%である。次いで、「①1人(13.0%)」、「②2人(3.6%)」である。

図表 2-11 貴校で、教員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・学習指導員・特別支援教育支援員・日本語支援員・母語支援員以外で、不登校やいじめの対応に当たる独自のスタッフやボランティアを配置していた場合、人数をお答えください（令和4年5月1日時点）。

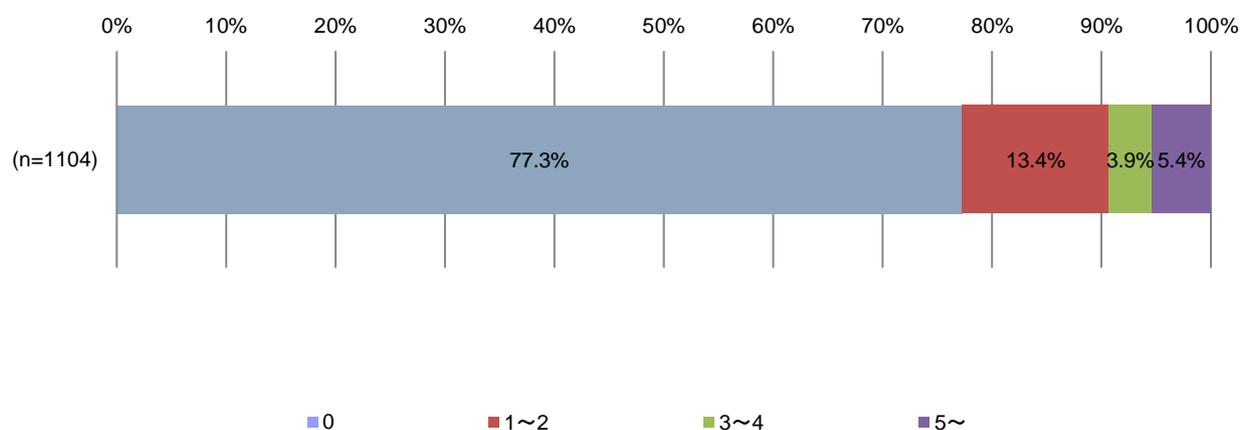


	合計	①1人	②2人	③3人	④4人	⑤5人以上	⑥配置されていなかった
合計	1104	144	40	34	10	32	844
	100.0%	13.0%	3.6%	3.1%	0.9%	2.9%	76.4%

2-12 貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の教育課程による指導を受けていた児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

平均値 1.1、最小値 0.0、最大値 60.0、標準偏差 4.6 である。

図表 2-12 貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の教育課程による指導を受けていた児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

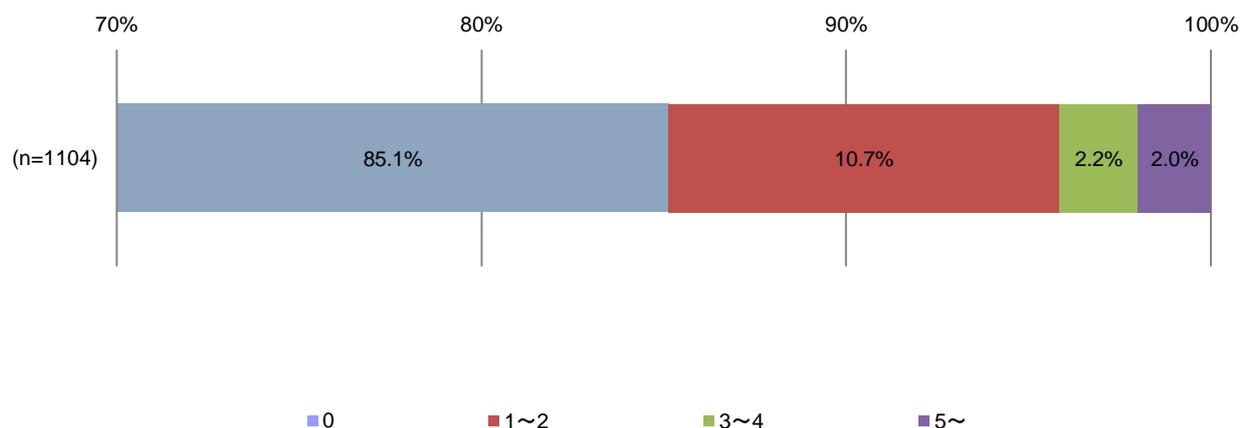


	合計	0	1~2	3~4	5~
合計	1104	853	148	43	60
	100%	77.3%	13.4%	3.9%	5.4%

2-13 貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の配慮に基づき、在籍学級や放課後等に何らかの日本語指導を受けていた児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。
／人

平均値 0.5、最小値 0.0、最大値 99.0、標準偏差 3.3 である。

図表 2-13 貴校に在籍していた、日本語指導のための特別の配慮に基づき、在籍学級や放課後等に何らかの日本語指導を受けていた児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

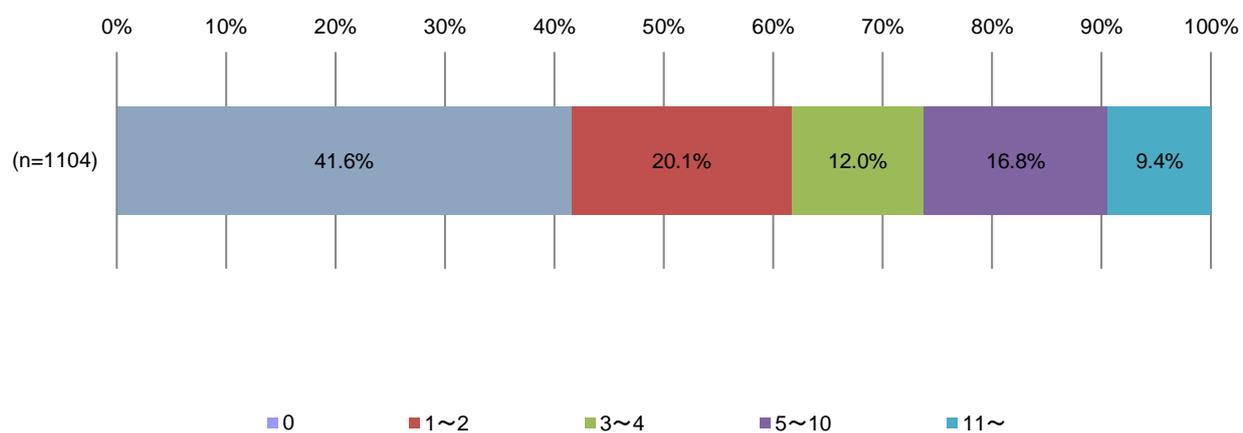


	合計	0	1~2	3~4	5~
合計	1104	940	118	24	22
	100%	85.1%	10.7%	2.2%	2.0%

2-14 貴校に在籍していた、要保護児童対策地域協議会の支援対象となっている児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

平均値 4.4、最小値 0.0、最大値 210.0、標準偏差 11.4 である。

図表 2-14 貴校に在籍していた、要保護児童対策地域協議会の支援対象となっている児童生徒数をお答えください（令和4年5月1日時点）。／人

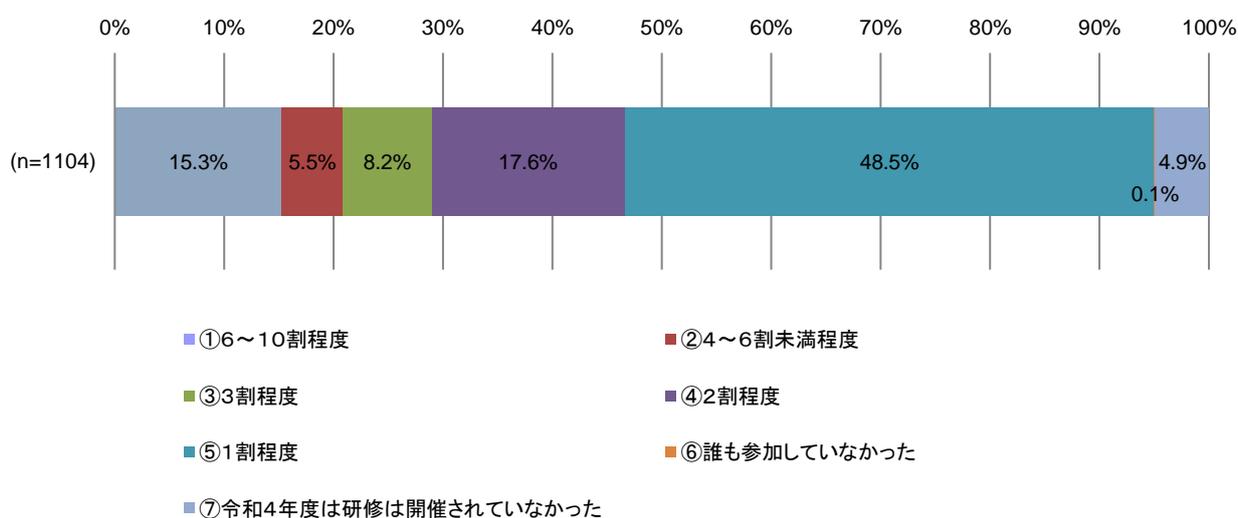


	合計	0	1~2	3~4	5~10	11~
合計	1104	459	222	133	186	104
	100%	41.6%	20.1%	12.0%	16.8%	9.4%

2-15 令和4年度に貴校を所管する教育委員会が主催する生徒指導（不登校・いじめ等）の研修について、貴校の教員のうち何割が受講されましたか。

「⑤1割程度」の割合が最も高く48.5%である。次いで、「④2割程度(17.6%)」、「①6～10割程度(15.3%)」である。

図表 2-15 令和4年度に貴校を所管する教育委員会が主催する生徒指導（不登校・いじめ等）の研修について、貴校の教員のうち何割が受講されましたか。

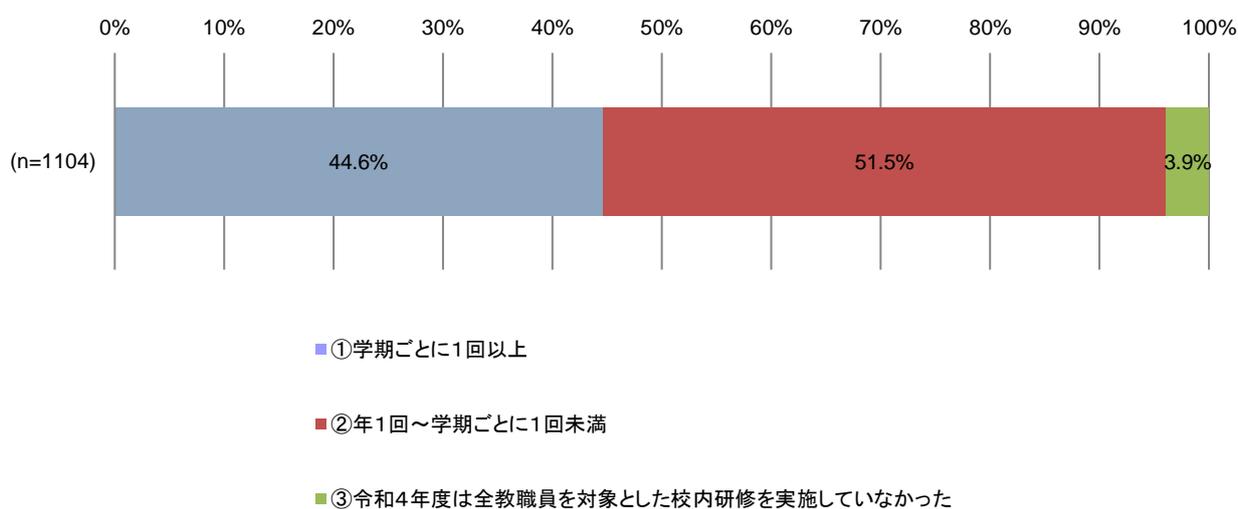


	合計	①6～10割程度	②4～6割未満程度	③3割程度	④2割程度	⑤1割程度	⑥誰も参加していなかった	⑦令和4年度は研修は開催されていなかった
合計	1104	169	61	90	194	535	1	54
	100.0%	15.3%	5.5%	8.2%	17.6%	48.5%	0.1%	4.9%

2-16 貴校では、令和4年度に学校における全教職員を対象とした生徒指導（不登校・いじめ等）の研修は、どの程度の頻度で実施していましたか。

「②年1回～学期ごとに1回未満」の割合が最も高く51.5%である。次いで、「①学期ごとに1回以上（44.6%）」、「③令和4年度は全教職員を対象とした校内研修を実施していなかった（3.9%）」である。

図表 2-16 貴校では、令和4年度に学校における全教職員を対象とした生徒指導（不登校・いじめ等）の研修は、どの程度の頻度で実施していましたか。

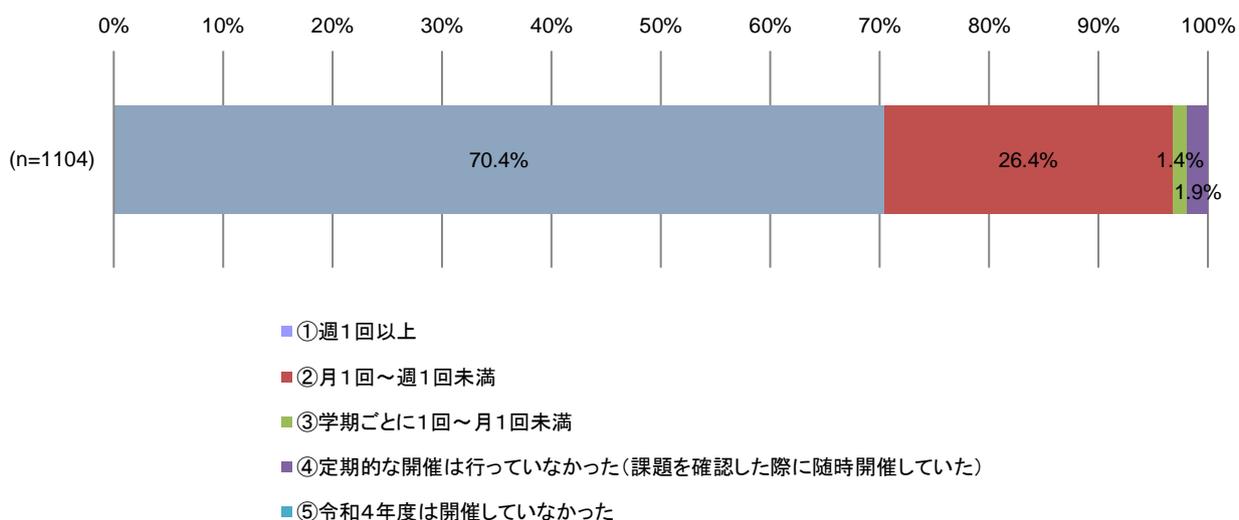


	合計	①学期ごとに1回以上	②年1回～学期ごとに1回未満	③令和4年度は全教職員を対象とした校内研修を実施していなかった
合計	1104	492	569	43
	100.0%	44.6%	51.5%	3.9%

2-17 貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）について情報共有や対応の検討のために、定期的に生徒指導部会や教育相談部会等は開催されていましたか。

「①週1回以上」の割合が最も高く70.4%である。次いで、「②月1回～週1回未満(26.4%)」、「④定期的な開催は行っていなかった(課題を確認した際に随時開催していた)(1.9%)」である。

図表 2-17 貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）について情報共有や対応の検討のために、定期的に生徒指導部会や教育相談部会等は開催されていましたか。

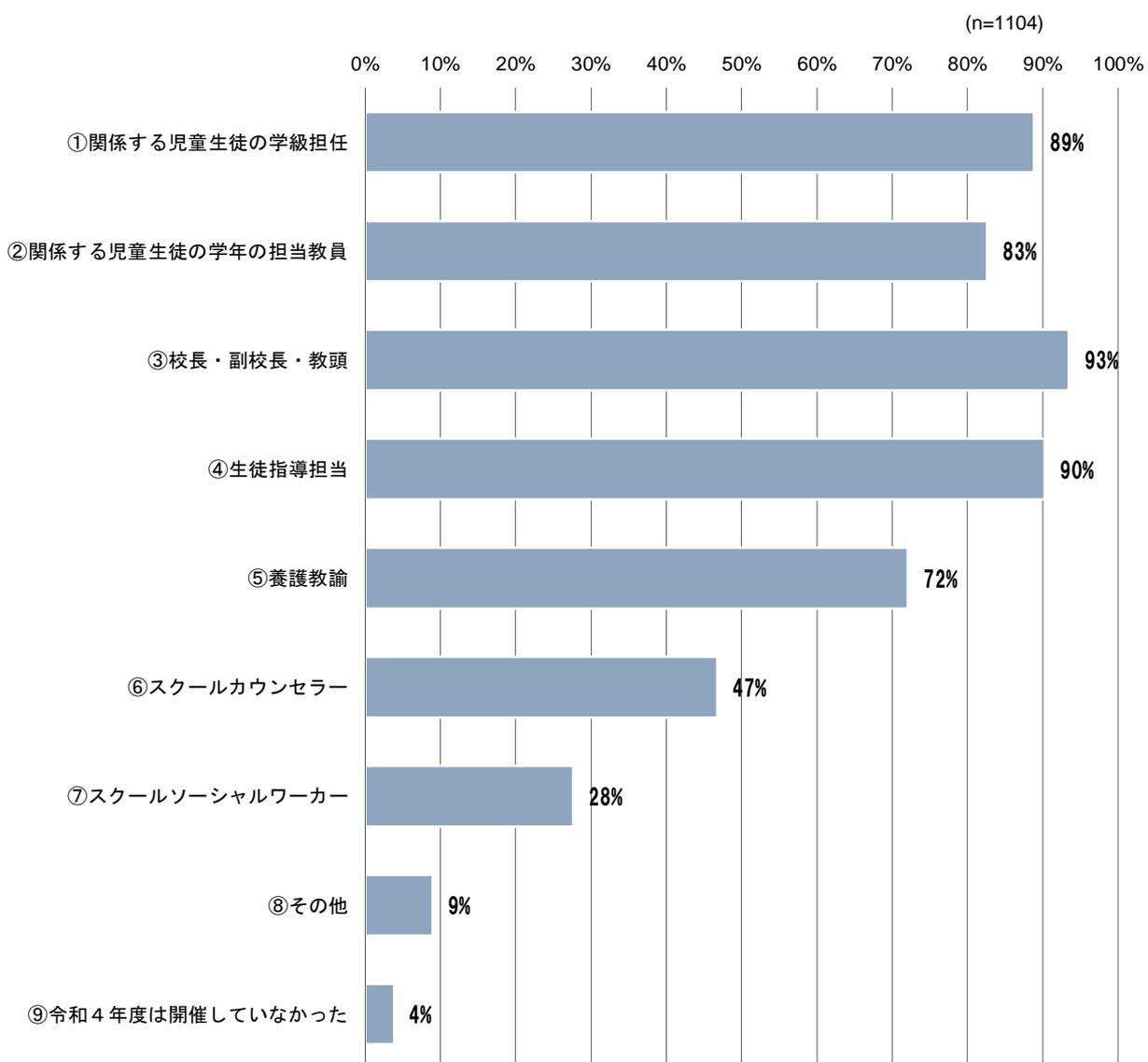


	合計	①週1回以上	②月1回～週1回未満	③学期ごとに1回～月1回未満	④定期的な開催は行っていなかった(課題を確認した際に随時開催していた)	⑤令和4年度は開催してなかった
合計	1104	777	291	15	21	0
	100.0%	70.4%	26.4%	1.4%	1.9%	0.0%

2-18 貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。

「③校長・副校長・教頭」の割合が最も高く93%である。次いで、「④生徒指導担当(90%)」、「①関係する児童生徒の学級担任(89%)」である。

図表 2-18 貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。

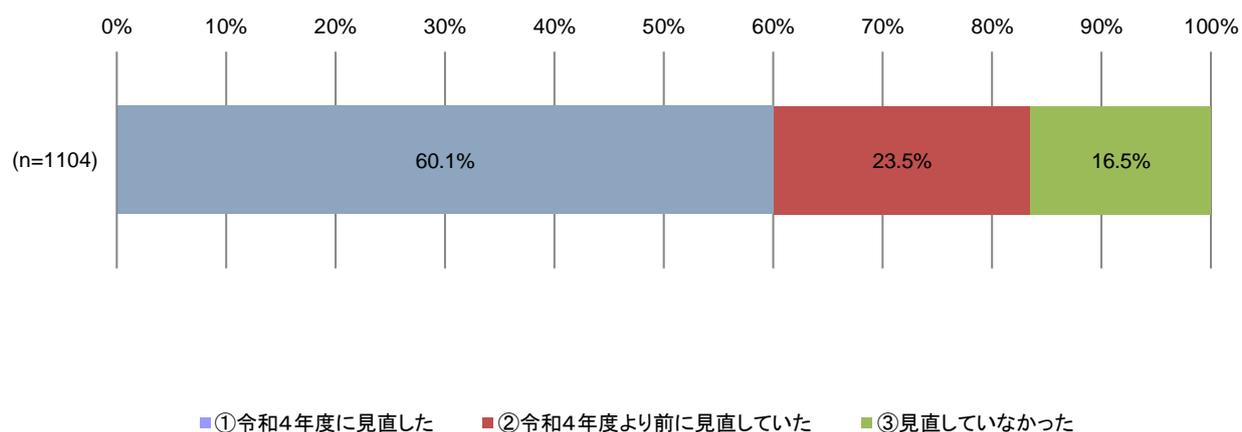


	合計	①関係する児童生徒の学級担任	②関係する児童生徒の学年の担当教員	③校長・副校長・教頭	④生徒指導担当	⑤養護教諭	⑥スクールカウンセラー	⑦スクールソーシャルワーカー	⑧その他	⑨令和4年度は開催しなかった
合計	1104	981	912	1032	996	796	516	305	99	42
	100%	89%	83%	93%	90%	72%	47%	28%	9%	4%

2-19 貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールの見直しの状況についてお
 かがいします。校則や児童生徒の学校生活上のルールを見直した実績はありましたか。

「①令和4年度に見直した」の割合が最も高く60.1%である。次いで、「②令和4年度より前
 に見直していた(23.5%)」、「③見直していなかった(16.5%)」である。

図表 2-19 貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールの見直しの状況につ
 いておかがいします。校則や児童生徒の学校生活上のルールを見直した実績はありました
 か。

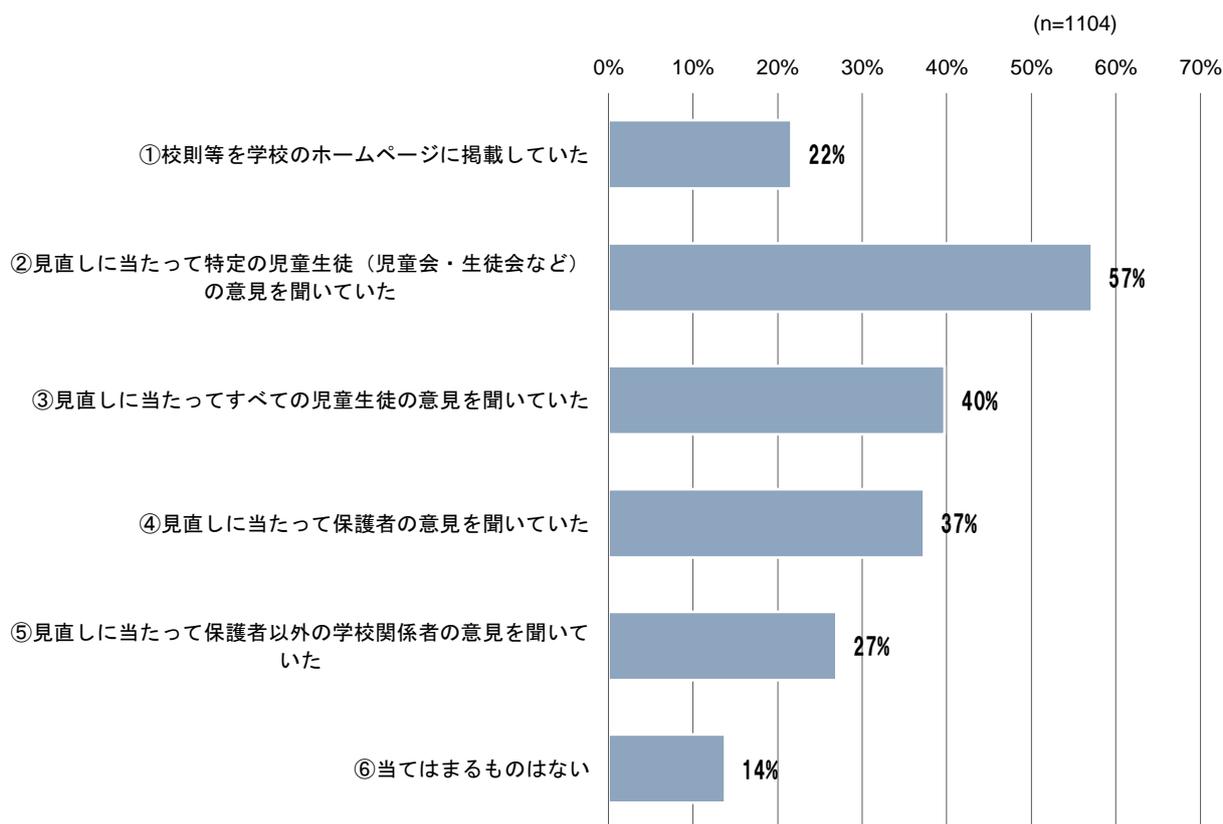


	合計	①令和4年 度に見直し た	②令和4年 度より前 に見直してい た	③見直して いなかった
合計	1104	663	259	182
	100.0%	60.1%	23.5%	16.5%

2-20 貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールに関する取組について、当てはまるものを全てお答えください。

「②見直しに当たって特定の児童生徒(児童会・生徒会など)の意見を聞いていた」の割合が最も高く57%である。次いで、「③見直しに当たってすべての児童生徒の意見を聞いていた(40%)」、「④見直しに当たって保護者の意見を聞いていた(37%)」である。

図表 2-20 貴校の、令和4年度の校則や児童生徒の学校生活上のルールに関する取組について、当てはまるものを全てお答えください。

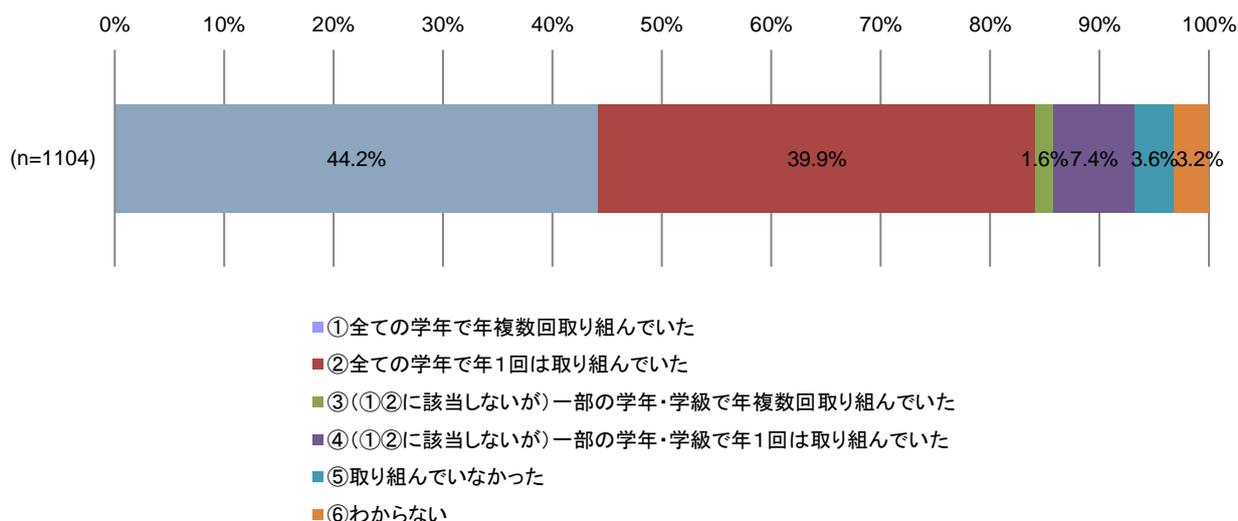


	合計	①校則等を学校のホームページに掲載していた	②見直しに当たって特定の児童生徒（児童会・生徒会など）の意見を聞いていた	③見直しに当たってすべての児童生徒の意見を聞いていた	④見直しに当たって保護者の意見を聞いていた	⑤見直しに当たって保護者以外の学校関係者の意見を聞いていた	⑥当てはまるものはない
合計	1104	239	631	439	412	298	152
	100%	22%	57%	40%	37%	27%	14%

2-21 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／人権教育の授業

「①全ての学年で年複数回取り組んでいた」の割合が最も高く44.2%である。次いで、「②全ての学年で年1回は取り組んでいた(39.9%)」、「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた(7.4%)」である。

図表 2-21 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／人権教育の授業

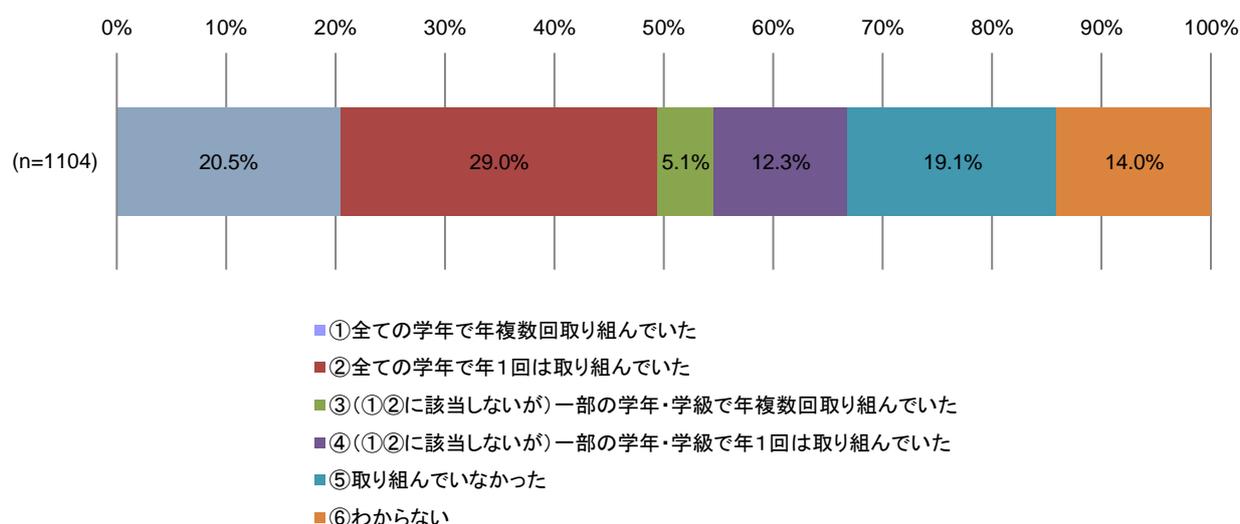


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1104	488	441	18	82	40	35
	100.0%	44.2%	39.9%	1.6%	7.4%	3.6%	3.2%

2-22 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／子どもの主体的な意見表明を主な目的とした授業

「②全ての学年で年1回は取り組んでいた」の割合が最も高く29.0%である。次いで、「①全ての学年で年複数回取り組んでいた(20.5%)」、「⑤取り組んでいなかった(19.1%)」である。

図表 2-22 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／子どもの主体的な意見表明を主な目的とした授業

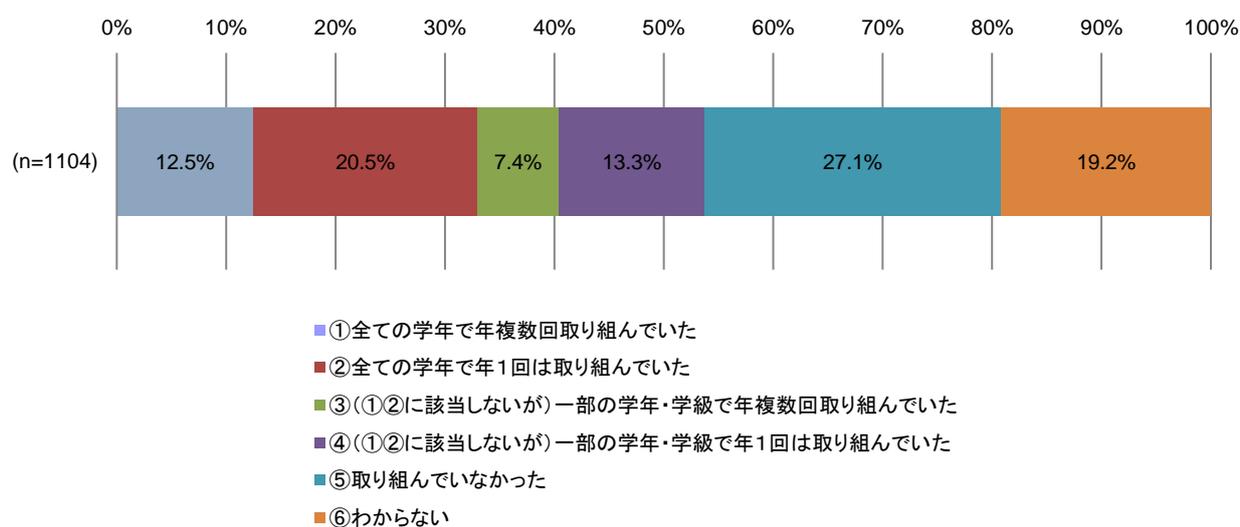


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1104	226	320	56	136	211	155
	100.0%	20.5%	29.0%	5.1%	12.3%	19.1%	14.0%

2-23 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／SEL教育に特化した授業

「⑤取り組んでいなかった」の割合が最も高く27.1%である。次いで、「②全ての学年で年1回は取り組んでいた(20.5%)」、「⑥わからない(19.2%)」である。

図表 2-23 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／SEL教育に特化した授業

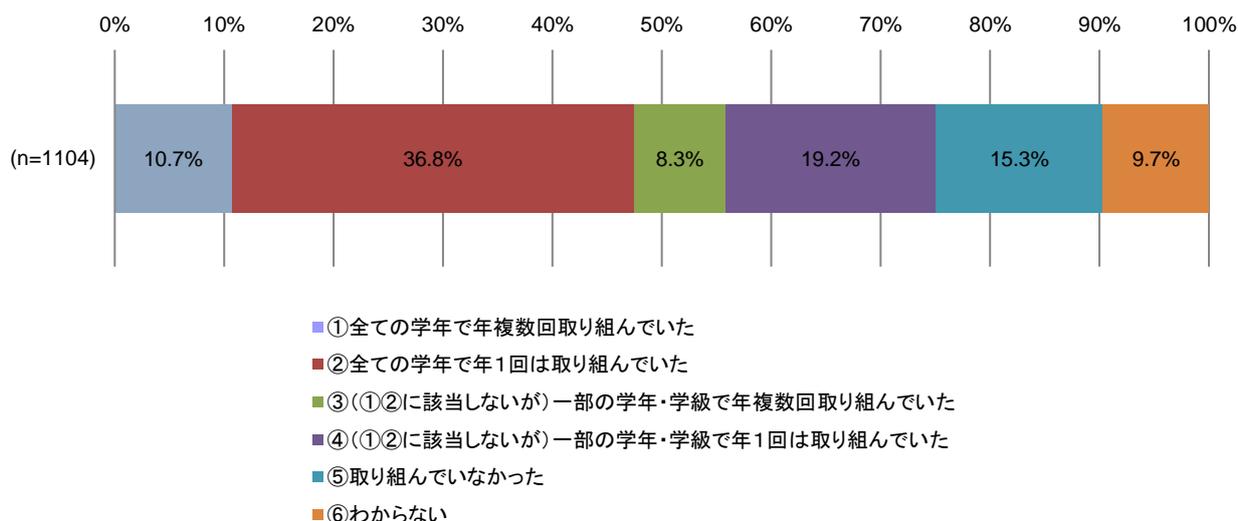


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1104	138	226	82	147	299	212
	100.0%	12.5%	20.5%	7.4%	13.3%	27.1%	19.2%

2-24 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／障害への理解に特化した授業

「②全ての学年で年1回は取り組んでいた」の割合が最も高く36.8%である。次いで、「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた(19.2%)」、「⑤取り組んでいなかった(15.3%)」である。

図表 2-24 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／障害への理解に特化した授業

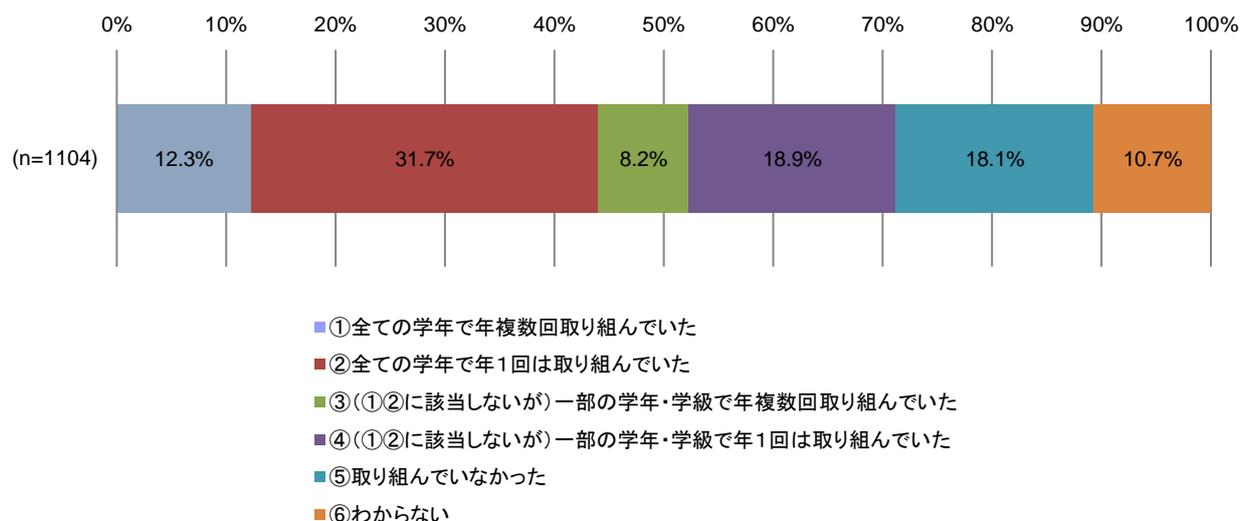


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1104	118	406	92	212	169	107
	100.0%	10.7%	36.8%	8.3%	19.2%	15.3%	9.7%

2-25 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／異文化等の国際理解に特化した授業

「②全ての学年で年1回は取り組んでいた」の割合が最も高く31.7%である。次いで、「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた(18.9%)」、「⑤取り組んでいなかった(18.1%)」である。

図表 2-25 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／異文化等の国際理解に特化した授業

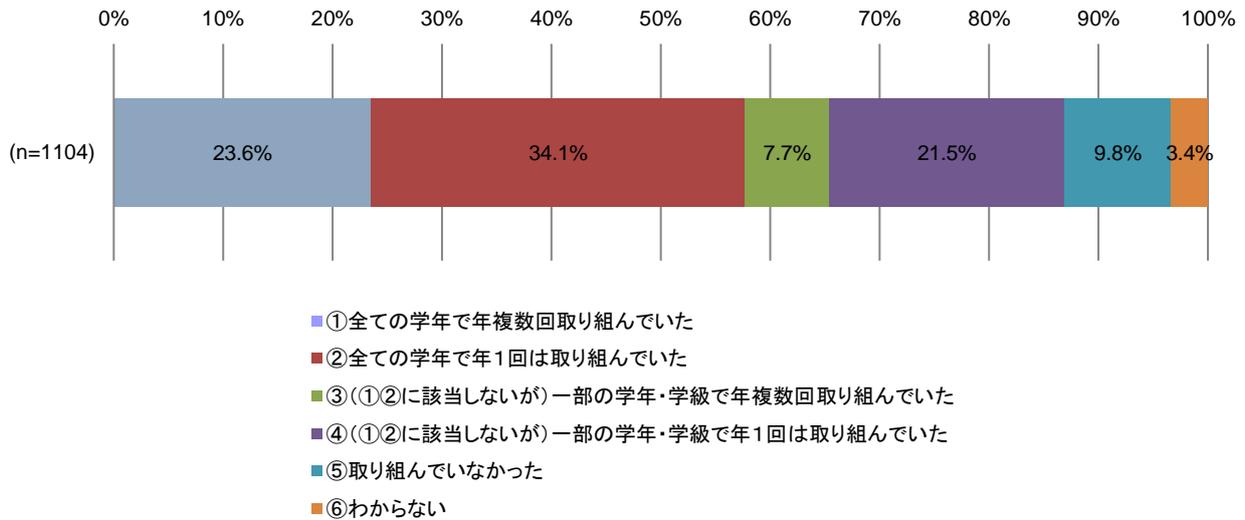


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1104	136	350	91	209	200	118
	100.0%	12.3%	31.7%	8.2%	18.9%	18.1%	10.7%

2-26 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／体験活動への組織的な取り組み

「②全ての学年で年1回は取り組んでいた」の割合が最も高く34.1%である。次いで、「①全ての学年で年複数回取り組んでいた(23.6%)」、「④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた(21.5%)」である。

図表 2-26 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように実施していましたか。／体験活動への組織的な取り組み

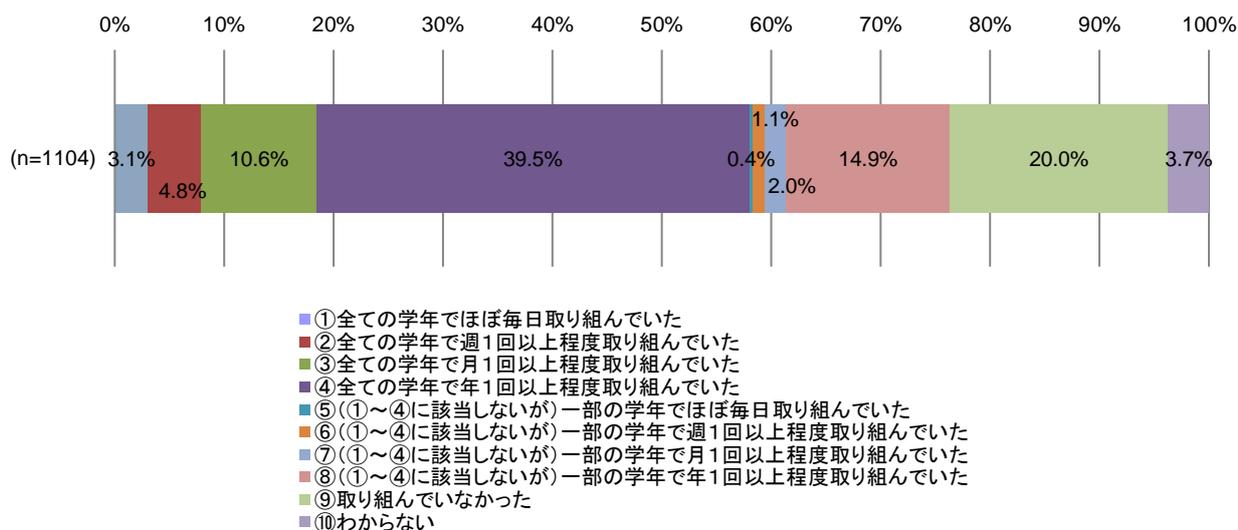


	合計	①全ての学年で年複数回取り組んでいた	②全ての学年で年1回は取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年複数回取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年・学級で年1回は取り組んでいた	⑤取り組んでいなかった	⑥わからない
合計	1104	260	377	85	237	108	37
	100.0%	23.6%	34.1%	7.7%	21.5%	9.8%	3.4%

2-27 貴校が、令和4年度に同一学年内の全てのクラスにおいて、学級を超えて児童生徒が交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。

「④全ての学年で年1回以上程度取り組んでいた」の割合が最も高く39.5%である。次いで、「⑨取り組んでいなかった(20.0%)」、「⑧(①～④に該当しないが)一部の学年で年1回以上程度取り組んでいた(14.9%)」である。

図表 2-27 貴校が、令和4年度に同一学年内の全てのクラスにおいて、学級を超えて児童生徒が交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。

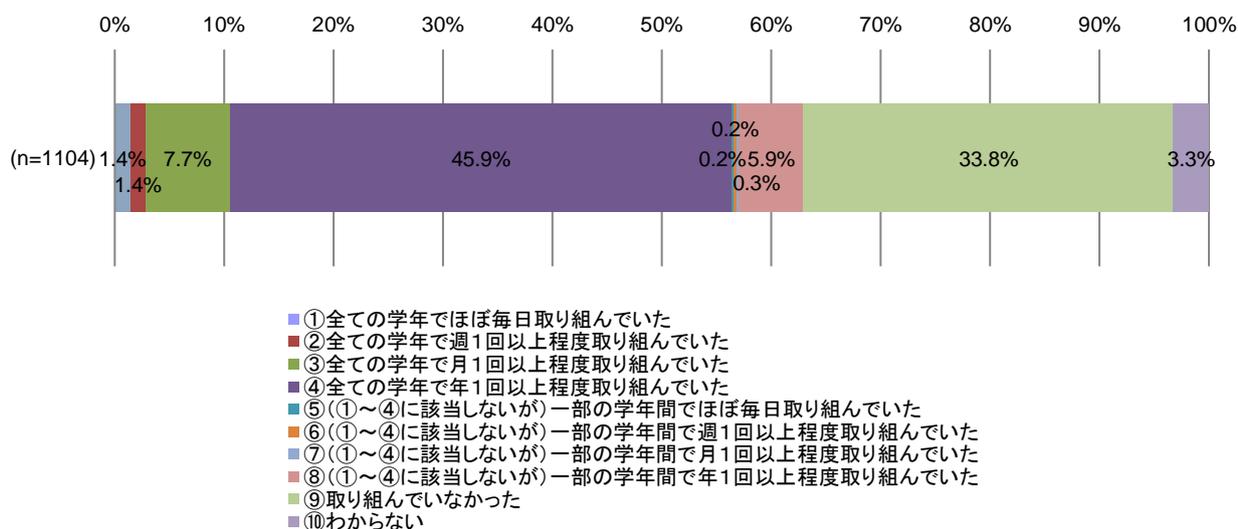


	合計	①全 ての 学年 でほ ぼ毎 日取 り組 んで いた	②全 ての 学年 で週 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	③全 ての 学年 で月 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	④全 ての 学年 で年 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	⑤ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年で ほぼ 毎日 取り 組ん でい た	⑥ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年で 週1 回以 上程 度取 り組 んで いた	⑦ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年で 月1 回以 上程 度取 り組 んで いた	⑧ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年で 年1 回以 上程 度取 り組 んで いた	⑨取 り組 んで いな かつ た	⑩わ から ない
合計	1104	34	53	117	436	4	12	22	164	221	41
	100.0%	3.1%	4.8%	10.6%	39.5%	0.4%	1.1%	2.0%	14.9%	20.0%	3.7%

2-28 貴校が、令和4年度に異なる学年間の全てのクラスで交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。

「④全ての学年で年1回以上程度取り組んでいた」の割合が最も高く45.9%である。次いで、「⑨取り組んでいなかった(33.8%)」、「③全ての学年で月1回以上程度取り組んでいた(7.7%)」である。

図表 2-28 貴校が、令和4年度に異なる学年間の全てのクラスで交流しながら行う学習活動を、取り組んでいた頻度をお答えください。

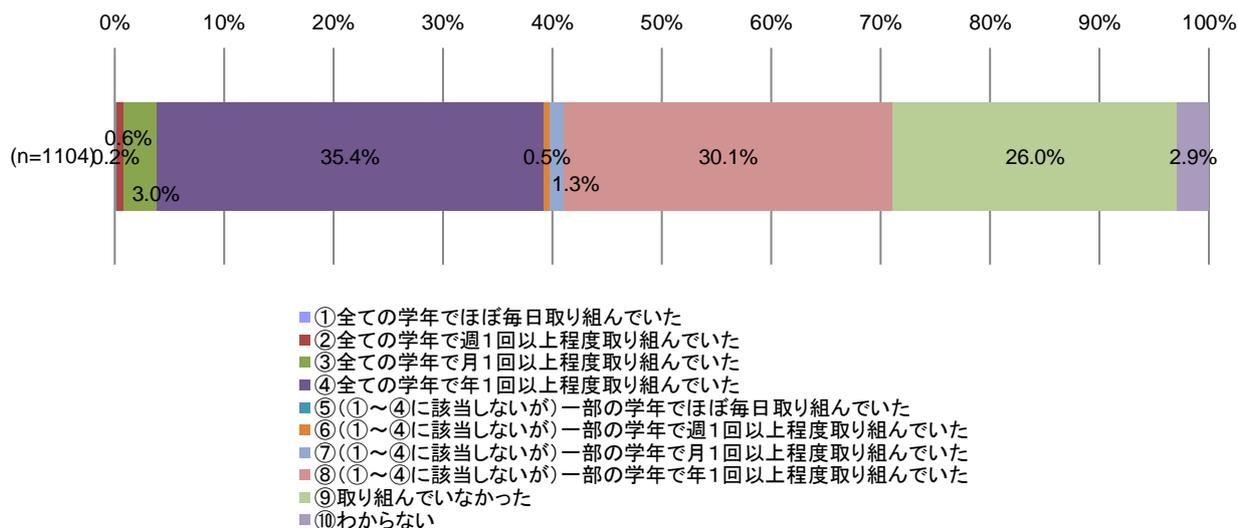


	合計	①全 ての 学年 でほ ぼ毎 日取 り組 んで いた	②全 ての 学年 で週 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	③全 ての 学年 で月 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	④全 ての 学年 で年 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	⑤ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年間 でほ ぼ毎 日取 り組 んで いた	⑥ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年間 で週 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	⑦ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年間 で月 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	⑧ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年間 で年 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	⑨取 り組 んで いな かつ た	⑩わ から ない
合計	1104	16	15	85	507	2	2	3	65	373	36
	100.0%	1.4%	1.4%	7.7%	45.9%	0.2%	0.2%	0.3%	5.9%	33.8%	3.3%

2-29 貴校が、令和4年度に地域の方々と交流しながら行う学習活動を、組織的に取り組んでいた頻度をお答えください。

「④全ての学年で年1回以上程度取り組んでいた」の割合が最も高く35.4%である。次いで、「⑧(①～④に該当しないが)一部の学年で年1回以上程度取り組んでいた(30.1%)」、「⑨取り組んでいなかった(26.0%)」である。

図表 2-29 貴校が、令和4年度に地域の方々と交流しながら行う学習活動を、組織的に取り組んでいた頻度をお答えください。

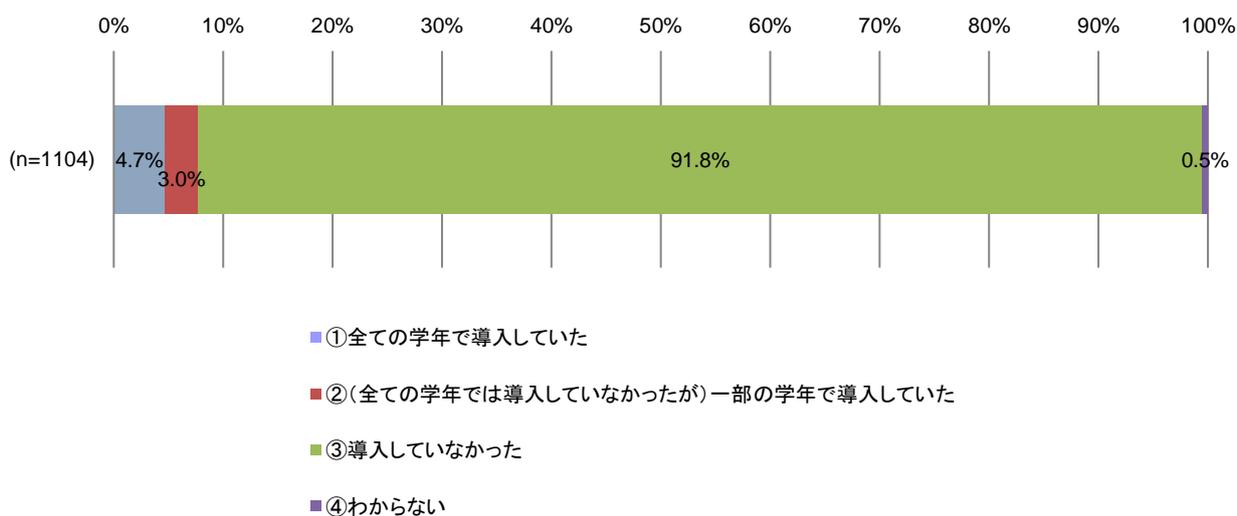


	合計	①全 ての 学年 でほ ぼ毎 日取 り組 んで いた	②全 ての 学年 で週 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	③全 ての 学年 で月 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	④全 ての 学年 で年 1回 以上 程度 取り 組ん でい た	⑤ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年で ほぼ 毎日 取り 組ん でい た	⑥ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年で 週1 回以 上程 度取 り組 んで いた	⑦ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年で 月1 回以 上程 度取 り組 んで いた	⑧ (① ～④ に該 当し ない が) 一部 の学 年で 年1 回以 上程 度取 り組 んで いた	⑨取 り組 んで いな かつ た	⑩わ から ない
合計	1104	2	7	33	391	0	6	14	332	287	32
	100.0%	0.2%	0.6%	3.0%	35.4%	0.0%	0.5%	1.3%	30.1%	26.0%	2.9%

2-30 貴校では、令和4年度に一つの学級を複数の教員が担任として受け持つ仕組み（学年担任制・チーム担任制等）を導入していましたか。

「③導入していなかった」の割合が最も高く91.8%である。次いで、「①全ての学年で導入していた(4.7%)」、「②(全ての学年では導入していなかったが)一部の学年で導入していた(3.0%)」である。

図表 2-30 貴校では、令和4年度に一つの学級を複数の教員が担任として受け持つ仕組み（学年担任制・チーム担任制等）を導入していましたか。

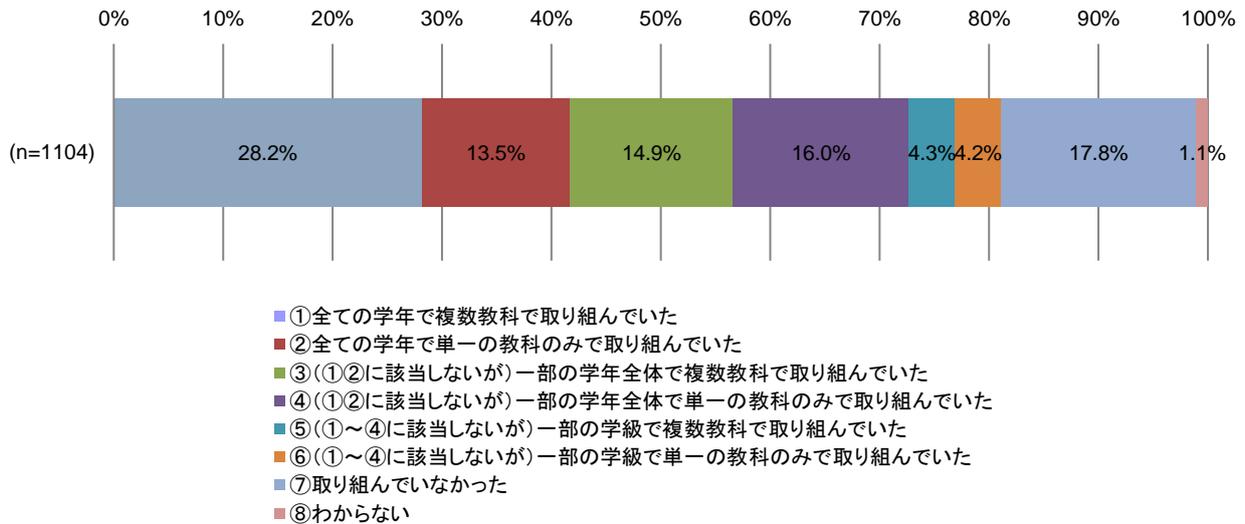


	合計	①全ての学年で導入していた	②(全ての学年では導入していなかったが)一部の学年で導入していた	③導入していなかった	④わからない
合計	1104	52	33	1013	6
	100.0%	4.7%	3.0%	91.8%	0.5%

2-31 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／チーム・ティーチング

「①全ての学年で複数教科で取り組んでいた」の割合が最も高く28.2%である。次いで、「⑦取り組んでいなかった(17.8%)」、「④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた(16.0%)」である。

図表 2-31 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／チーム・ティーチング

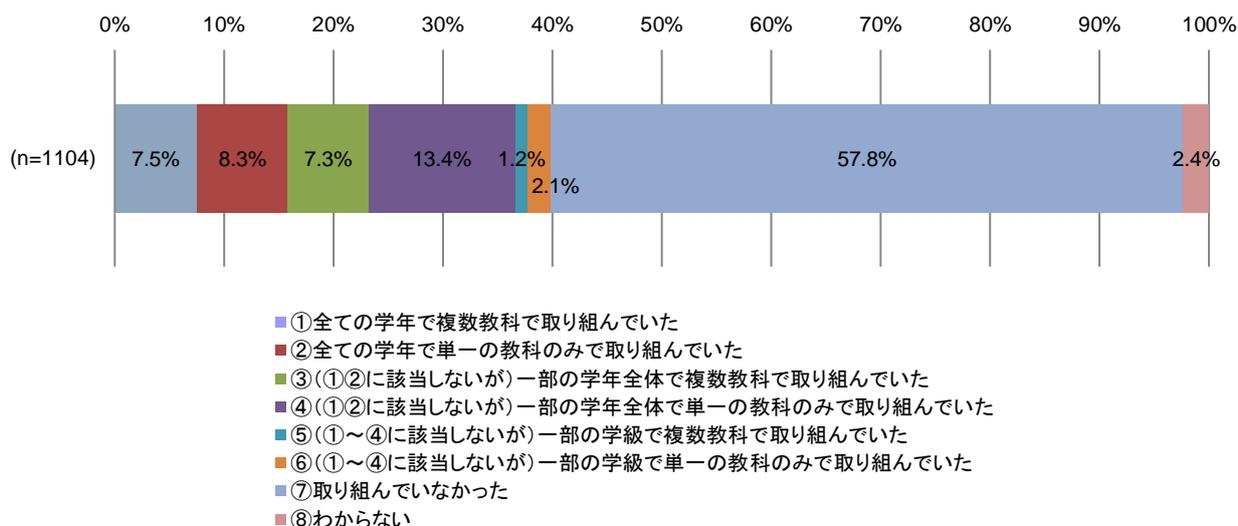


	合計	①全ての学年で複数教科で取り組んでいた	②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた	⑤(①～④に該当しないが)一部の学級で複数教科で取り組んでいた	⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた	⑦取り組んでいなかった	⑧わからない
合計	1104	311	149	165	177	47	46	197	12
	100.0%	28.2%	13.5%	14.9%	16.0%	4.3%	4.2%	17.8%	1.1%

2-32 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／習熟度別指導

「⑦取り組んでいなかった」の割合が最も高く57.8%である。次いで、「④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた(13.4%)」、「②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた(8.3%)」である。

図表 2-32 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／習熟度別指導

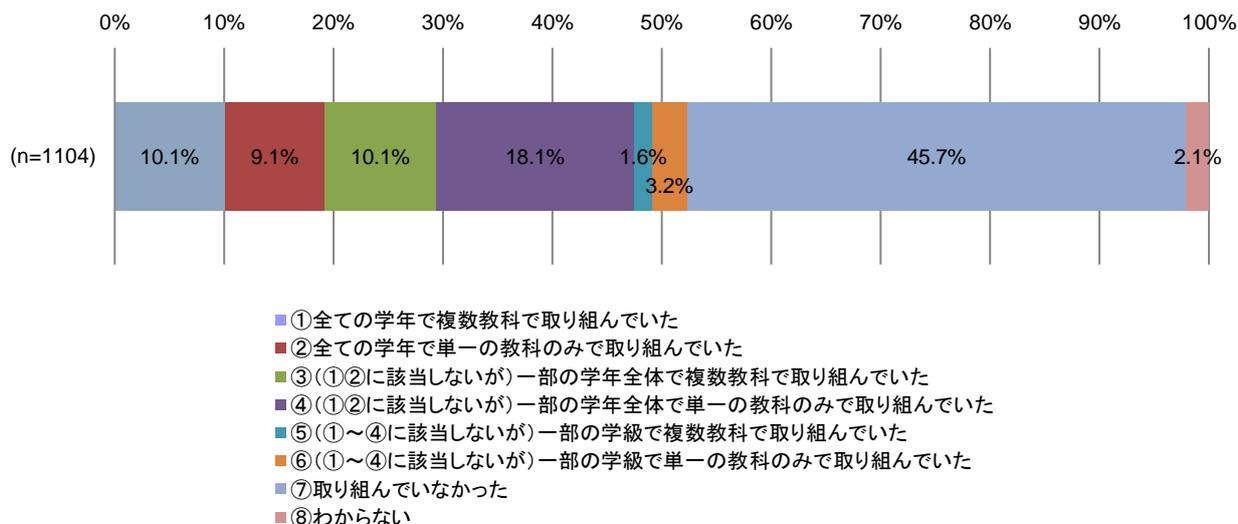


	合計	①全ての学年で複数教科で取り組んでいた	②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた	⑤(①～④に該当しないが)一部の学級で複数教科で取り組んでいた	⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた	⑦取り組んでいなかった	⑧わからない
合計	1104	83	92	81	148	13	23	638	26
	100.0%	7.5%	8.3%	7.3%	13.4%	1.2%	2.1%	57.8%	2.4%

2-33 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／少人数指導

「⑦取り組んでいなかった」の割合が最も高く45.7%である。次いで、「④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた(18.1%)」、「①全ての学年で複数教科で取り組んでいた(10.1%)」、「③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた(10.1%)」である。

図表 2-33 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／少人数指導

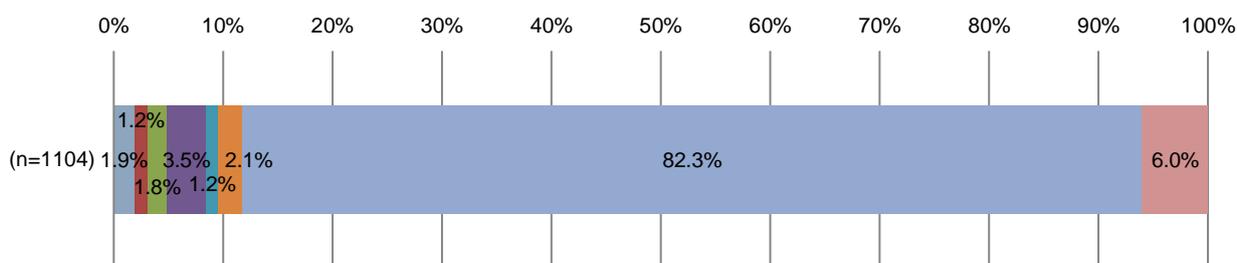


	合計	①全ての学年で複数教科で取り組んでいた	②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた	⑤(①～④に該当しないが)一部の学級で複数教科で取り組んでいた	⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた	⑦取り組んでいなかった	⑧わからない
合計	1104	111	101	112	200	18	35	504	23
	100.0%	10.1%	9.1%	10.1%	18.1%	1.6%	3.2%	45.7%	2.1%

2-34 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／自由進度学習

「⑦取り組んでいなかった」の割合が最も高く82.3%である。次いで、「⑧わからない(6.0%)」、「④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた(3.5%)」である。

図表 2-34 貴校では令和4年度に、以下の取組をそれぞれどのように取り組んでいましたか。／自由進度学習



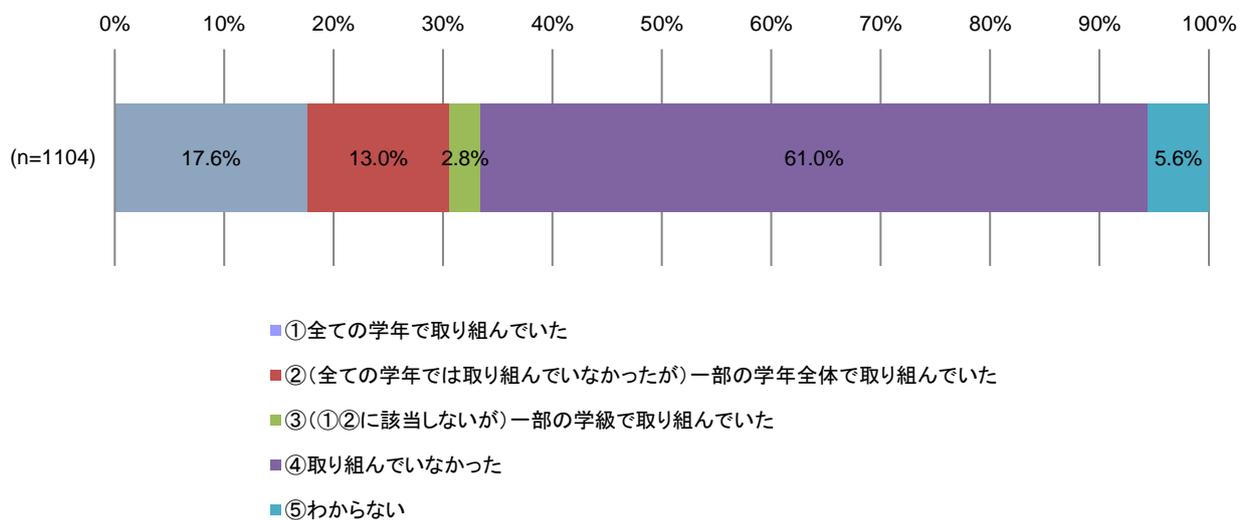
- ①全ての学年で複数教科で取り組んでいた
- ②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた
- ③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた
- ④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた
- ⑤(①～④に該当しないが)一部の学級で複数教科で取り組んでいた
- ⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた
- ⑦取り組んでいなかった
- ⑧わからない

	合計	①全ての学年で複数教科で取り組んでいた	②全ての学年で単一の教科のみで取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学年全体で複数教科で取り組んでいた	④(①②に該当しないが)一部の学年全体で単一の教科のみで取り組んでいた	⑤(①～④に該当しないが)一部の学級で複数教科で取り組んでいた	⑥(①～④に該当しないが)一部の学級で単一の教科のみで取り組んでいた	⑦取り組んでいなかった	⑧わからない
合計	1104	21	13	20	39	13	23	909	66
	100.0%	1.9%	1.2%	1.8%	3.5%	1.2%	2.1%	82.3%	6.0%

2-35 貴校では、令和4年度に自由課題学習に取り組みましたか。

「④取り組んでいなかった」の割合が最も高く61.0%である。次いで、「①全ての学年で取り組んでいた(17.6%)」、「②(全ての学年では取り組んでいなかったが)一部の学年全体で取り組んでいた(13.0%)」である。

図表 2-35 貴校では、令和4年度に自由課題学習に取り組みましたか。

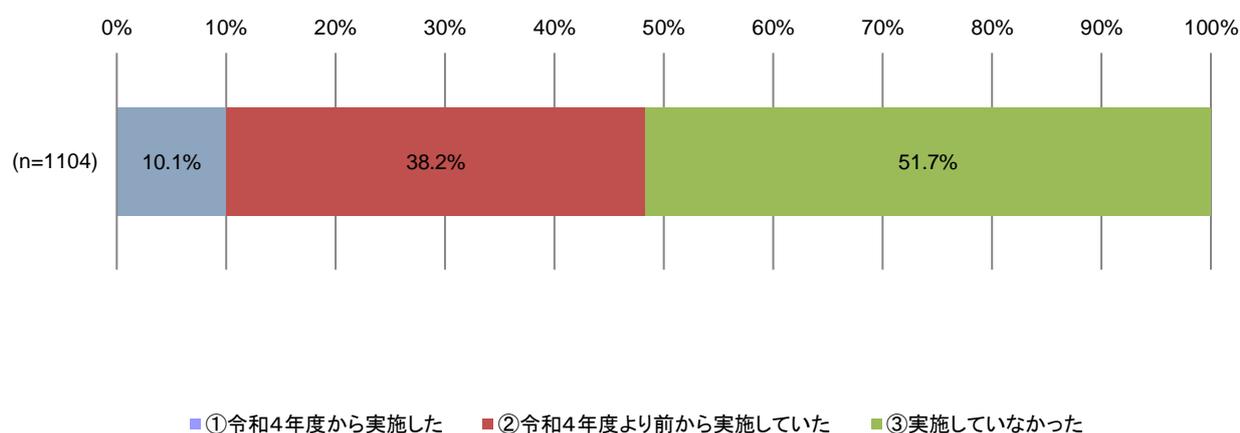


	合計	①全ての学年で取り組んでいた	②(全ての学年では取り組んでいなかったが)一部の学年全体で取り組んでいた	③(①②に該当しないが)一部の学級で取り組んでいた	④取り組んでいなかった	⑤わからない
合計	1104	194	144	31	673	62
	100.0%	17.6%	13.0%	2.8%	61.0%	5.6%

2-36 貴校では、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を実施していましたか。

「③実施していなかった」の割合が最も高く51.7%である。次いで、「②令和4年度より前から実施していた(38.2%)」、「①令和4年度から実施した(10.1%)」である。

図表 2-36 貴校では、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を実施していましたか。

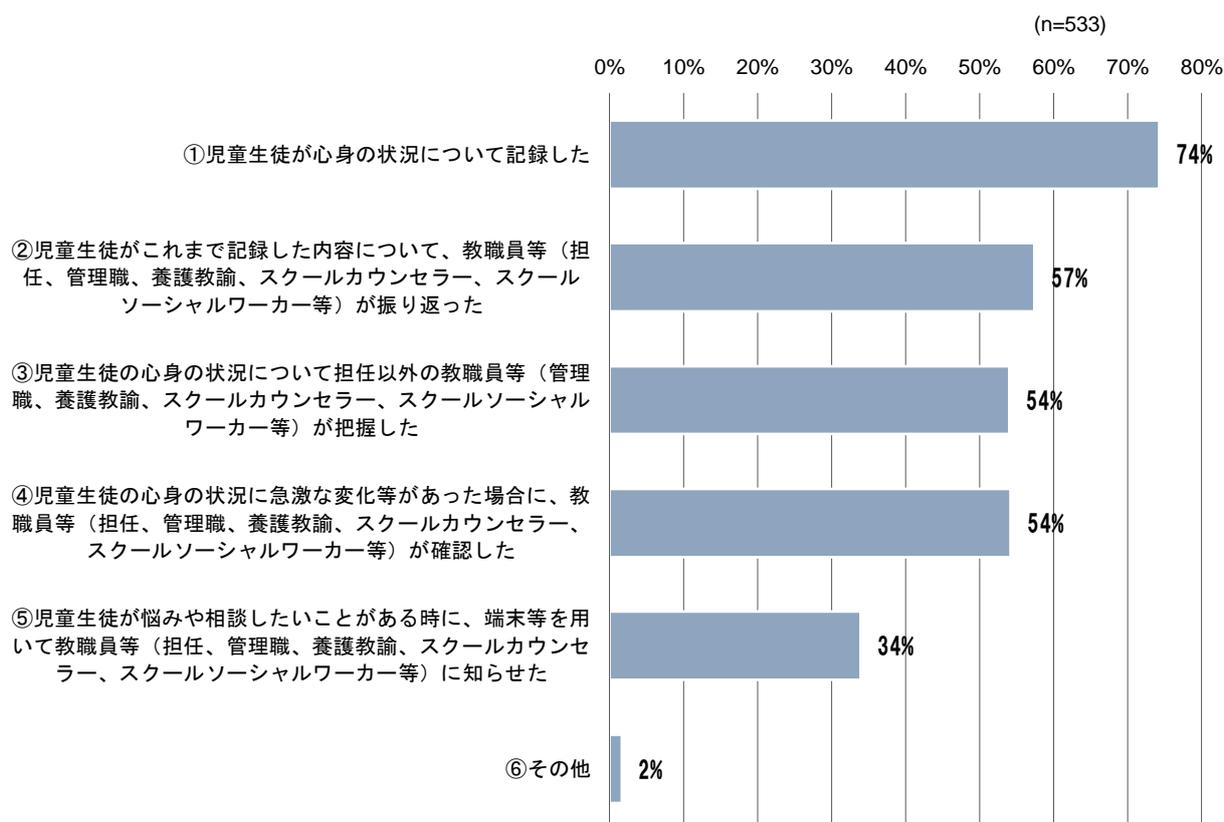


	合計	①令和4年度から実施した	②令和4年度より前から実施していた	③実施していなかった
合計	1104	111	422	571
	100.0%	10.1%	38.2%	51.7%

2-37 貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。¹

「①児童生徒が心身の状況について記録した」の割合が最も高く74%である。次いで、「②児童生徒がこれまで記録した内容について、教職員等(担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が振り返った(57%)」、「③児童生徒の心身の状況について担任以外の教職員等(管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が把握した(54%)」、「④児童生徒の心身の状況に急激な変化等があった場合に、教職員等(担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が確認した(54%)」である。

図表 2-37 貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。



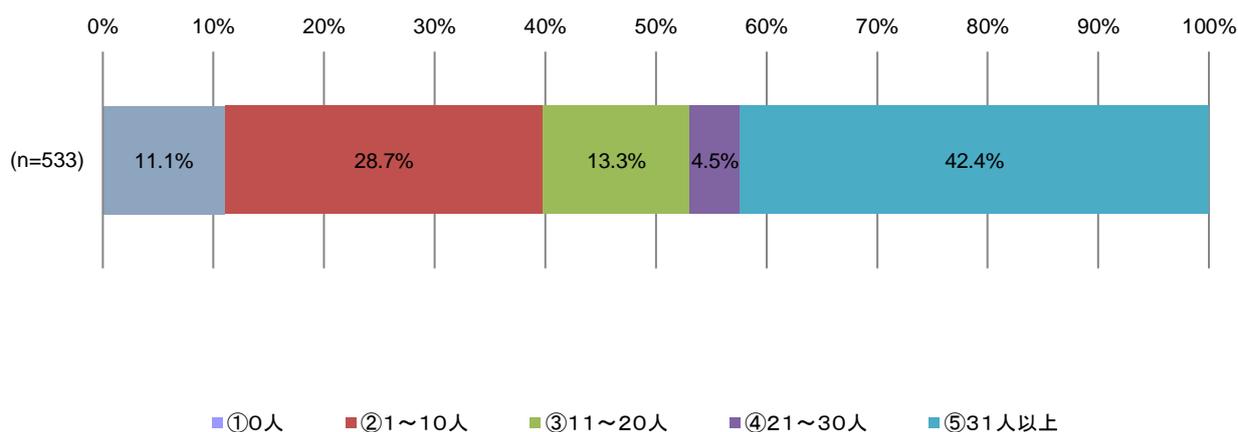
¹ 一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を「令和4年度から実施した」、「令和4年度より前から実施していた」と回答した533校のみの回答。

	合計	①児童生徒が心身の状況について記録した	②児童生徒がこれまで記録した内容について、教職員等(担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が振り返った	③児童生徒の心身の状況について担任以外の教職員等(管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が把握した	④児童生徒の心身の状況に急激な変化等があった場合に、教職員等(担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)が確認した	⑤児童生徒が悩みや相談したいことがある時に、端末等を用いて教職員等(担任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)に知らせた	⑥その他
合計	533 100%	396 74%	306 57%	288 54%	289 54%	181 34%	9 2%

2-38 貴校では、一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察によって、児童生徒に個別に生徒相談を実施していましたか。令和4年度に個別に生徒相談を実施した人数をお答えください。¹

「⑤31人以上」の割合が最も高く42.4%である。次いで、「②1～10人(28.7%)」、「③11～20人(13.3%)」である。

図表 2-38 貴校では、一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察によって、児童生徒に個別に生徒相談を実施していましたか。令和4年度に個別に生徒相談を実施した人数をお答えください。



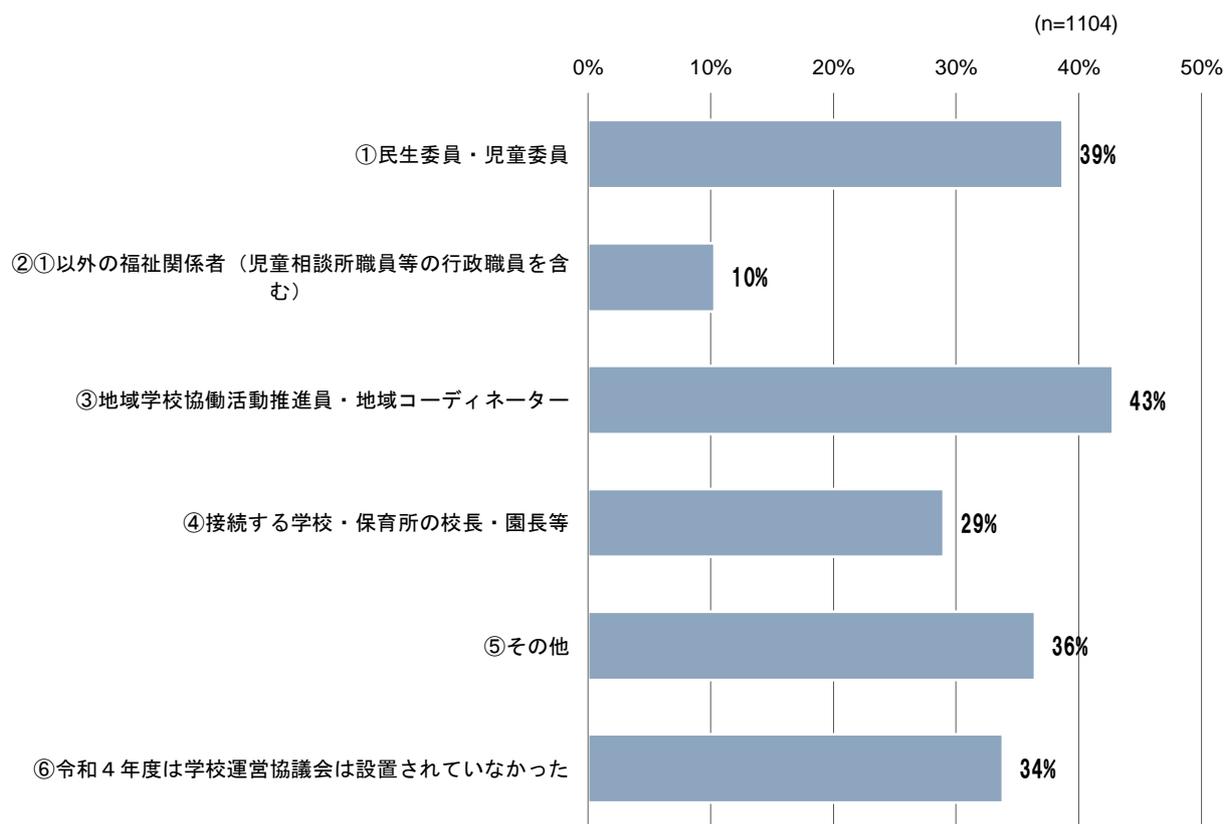
	合計	①0人	②1～10人	③11～20人	④21～30人	⑤31人以上
合計	533	59	153	71	24	226
	100.0%	11.1%	28.7%	13.3%	4.5%	42.4%

¹ 一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察を「令和4年度から実施した」、「令和4年度より前から実施していた」と回答した533校のみの回答。

2-39 令和4年度に、貴校には、学校運営協議会が設置されていきましたか。学校運営協議会が設置されていた場合、その委員の属性について、当てはまるものを全てお答えください。

「③地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター」の割合が最も高く43%である。次いで、「①民生委員・児童委員(39%)」、「⑤その他(36%)」である。

図表 2-39 令和4年度に、貴校には、学校運営協議会が設置されていきましたか。学校運営協議会が設置されていた場合、その委員の属性について、当てはまるものを全てお答えください。

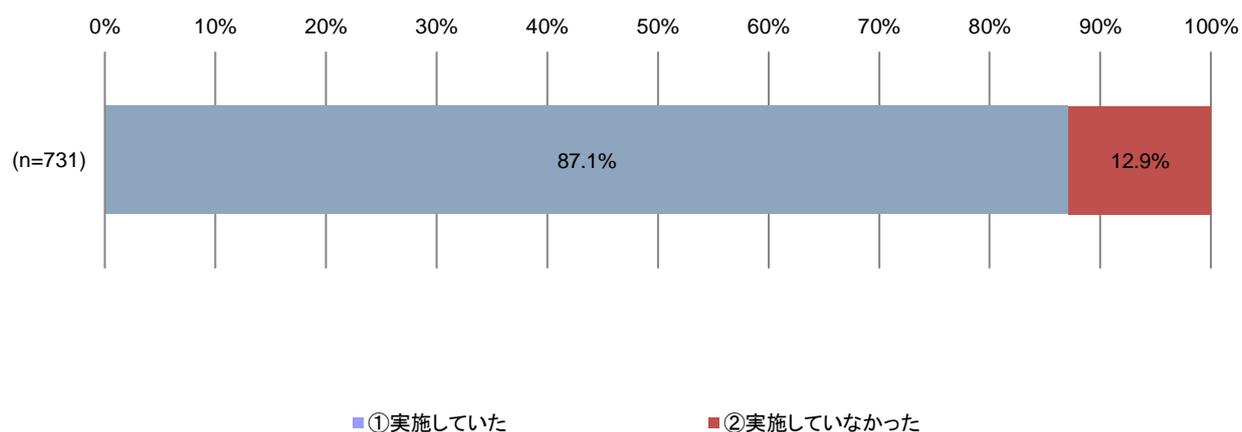


	合計	①民生委員・児童委員	②①以外の福祉関係者（児童相談所職員等の行政職員を含む）	③地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター	④接続する学校・保育所の校長・園長等	⑤その他	⑥令和4年度は学校運営協議会は設置されていなかった
合計	1104	427	114	472	320	402	373
	100%	39%	10%	43%	29%	36%	34%

2-40 令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／A：学校全体の発生・対応状況等の報告¹

「①実施していた」の割合が最も高く87.1%である。次いで、「②実施していなかった(12.9%)」である。

図表 2-40 令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／A：学校全体の発生・対応状況等の報告



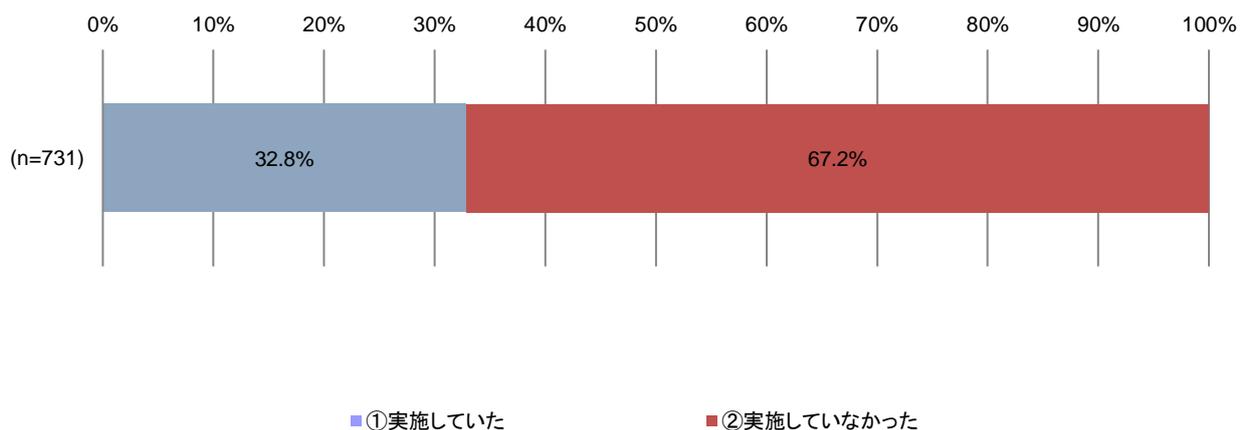
	合計	①実施していた	②実施していなかった
合計	731	637	94
	100.0%	87.1%	12.9%

¹ 「令和4年度は学校運営協議会は設置されていなかった」と回答した373校を除いた回答。

2-41 令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／B：個別の事案の報告¹

「②実施していなかった」の割合が最も高く67.2%である。次いで、「①実施していた(32.8%)」である。

図表 2-41 令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／B：個別の事案の報告



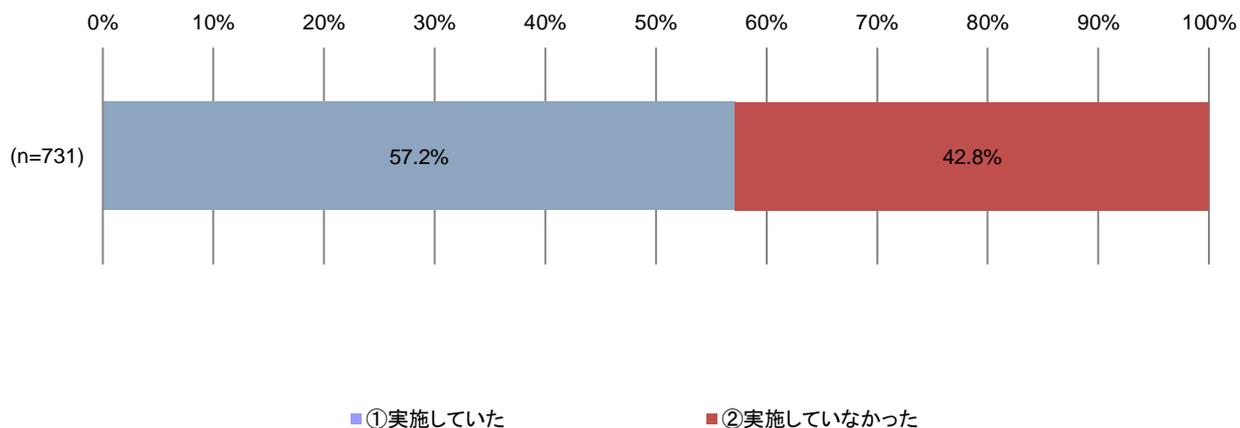
	合計	①実施して いた	②実施して いなかった
合計	731	240	491
	100.0%	32.8%	67.2%

¹ 「令和4年度は学校運営協議会は設置されていない」と回答した373校を除いた回答。

2-42 令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／C：課題解決に向けた協議¹

「①実施していた」の割合が最も高く57.2%である。次いで、「②実施していなかった(42.8%)」である。

図表 2-42 令和4年度の学校運営協議会において、不登校やいじめについてどのように取り扱っていましたか。以下のA～Cについて、それぞれ当てはまるものをお答えください。／C：課題解決に向けた協議



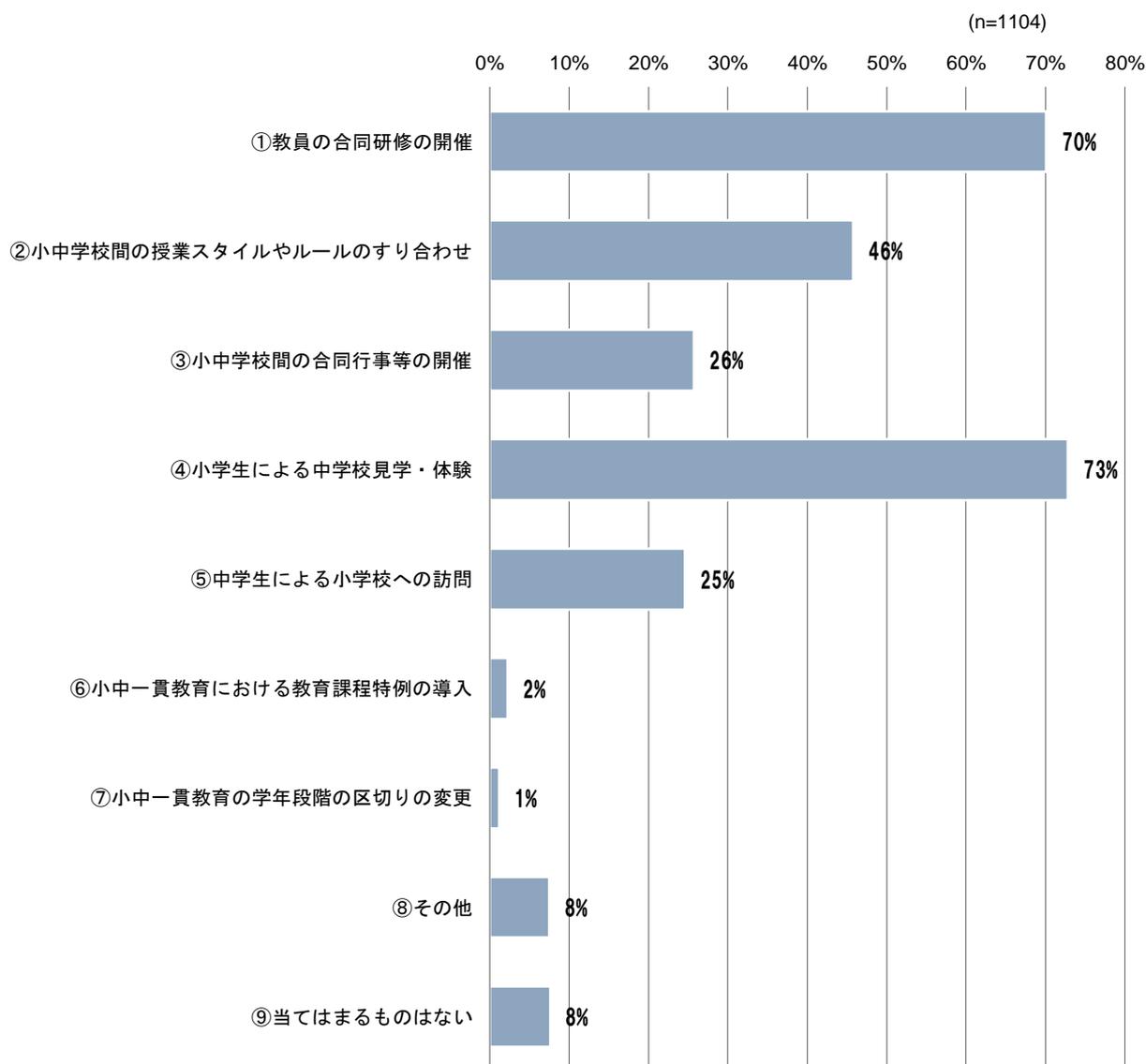
	合計	①実施していた	②実施していなかった
合計	731	418	313
	100.0%	57.2%	42.8%

¹ 「令和4年度は学校運営協議会は設置されていない」と回答した373校を除いた回答。

2-43 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの

「④小学生による中学校見学・体験」の割合が最も高く73%である。次いで、「①教員の合同研修の開催(70%)」、「②小中学校間の授業スタイルやルールのすり合わせ(46%)」である。

図表 2-43 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの

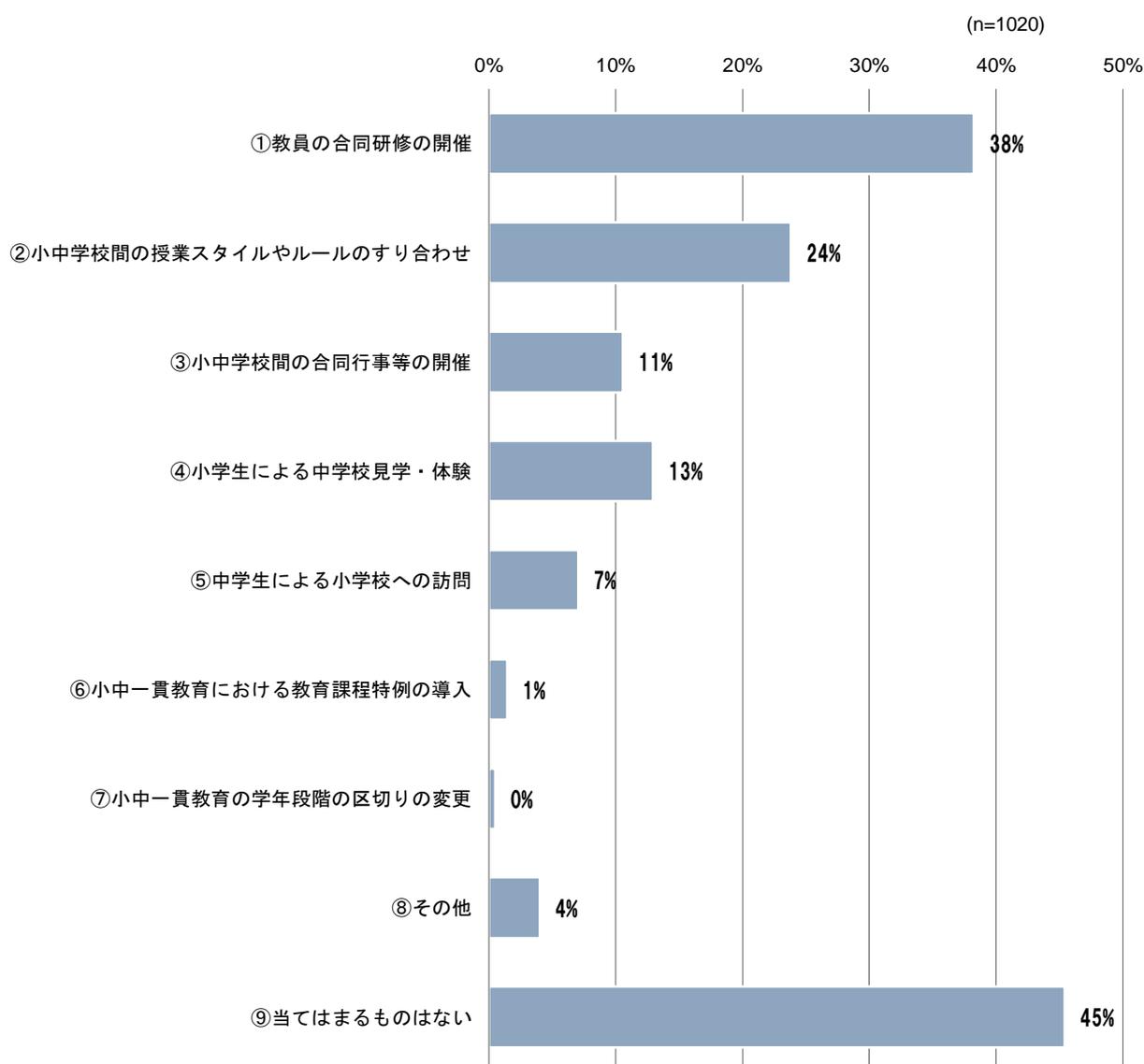


	合計	①教員 の合同 研修の 開催	②小 中学 校間の 授業ス タイル やルー ルのす り合わ せ	③小 中学 校間の 合同行 事等の 開催	④小 学生 による 中学 校見 学・体 験	⑤中 学生 による 小学 校へ の訪 問	⑥小 中一 貫教 育に おけ る教 育課 程特 例の 導入	⑦小 中一 貫教 育の 学年 段階 の区 切りの 変更	⑧そ の他	⑨当 ては まる もの はな い
合計	1104	774	505	284	804	271	25	13	83	84
	100%	70%	46%	26%	73%	25%	2%	1%	8%	8%

2-44 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／前問で選択した中で、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたもの¹

「⑨当てはまるものはない」の割合が最も高く45%である。次いで、「①教員の合同研修の開催(38%)」、「②小中学校間の授業スタイルやルールのすり合わせ(24%)」である。

図表 2-44 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。上記について、同一の小中学校と、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたものがあれば、当てはまるものを全てお答えください。／前問で選択した中で、年間3回以上、または、年間を通じて継続的に取り組んでいたもの



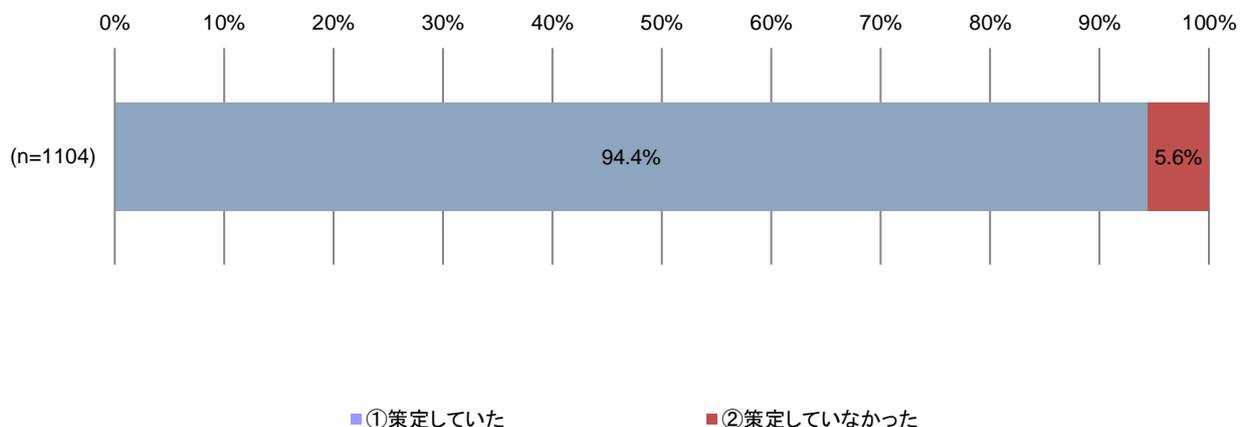
¹ 令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて「当てはまるものはない」と回答した84校を除いた回答。

	合計	①教員 の 合同 研修 の 開催	②小 中学 校間 の授 業ス タイル やル ールの すり 合わせ	③小 中学 校間 の合 同行 事等 の開催	④小 学生 による 中学 校見 学・体 験	⑤中 学生 による 小学 校へ の訪 問	⑥小 中一 貫教 育に おける 教育 課程 特例 の導 入	⑦小 中一 貫教 育の 学年 段階 の区 切りの 変更	⑧そ の他	⑨当 ては まる もの はない
合計	1020	390	243	108	132	72	15	5	41	463
	100%	38%	24%	11%	13%	7%	1%	0%	4%	45%

2-45 貴校では、重大事態が発生した場合の対応フローは策定されていましたか（令和4年5月1日時点）。

「①策定していた」の割合が最も高く94.4%である。次いで、「②策定していなかった(5.6%)」である。

図表 2-45 貴校では、重大事態が発生した場合の対応フローは策定されていましたか（令和4年5月1日時点）。

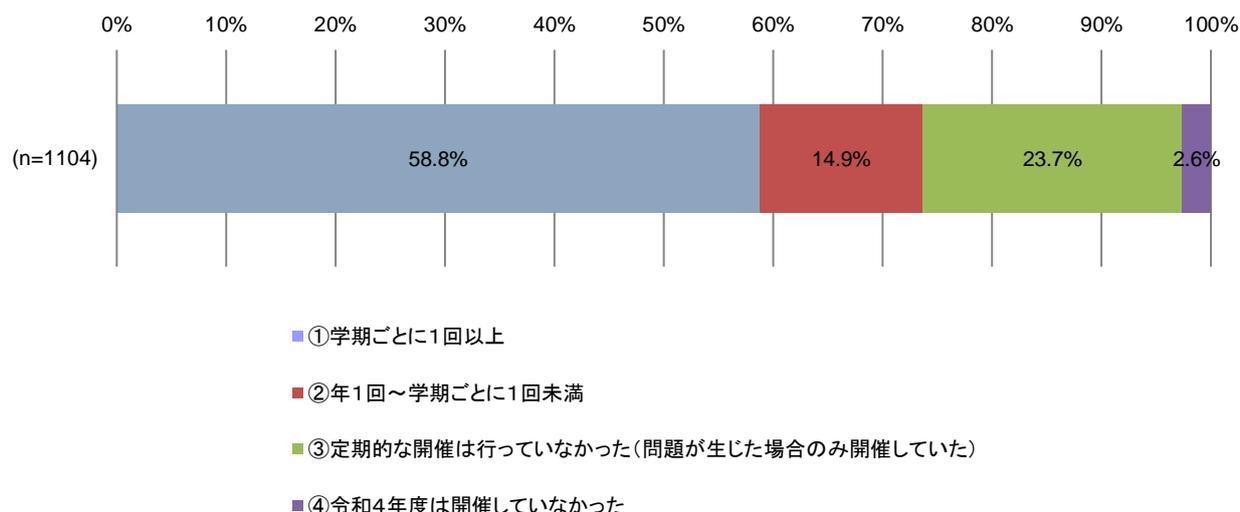


	合計	①策定していた	②策定していなかった
合計	1104	1042	62
	100.0%	94.4%	5.6%

2-46 令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、定期的に会議を行っていましたか。

「①学期ごとに1回以上」の割合が最も高く58.8%である。次いで、「③定期的な開催は行っていなかった(問題が生じた場合のみ開催していた)(23.7%)」、「②年1回～学期ごとに1回未満(14.9%)」である。

図表 2-46 令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、定期的に会議を行っていましたか。

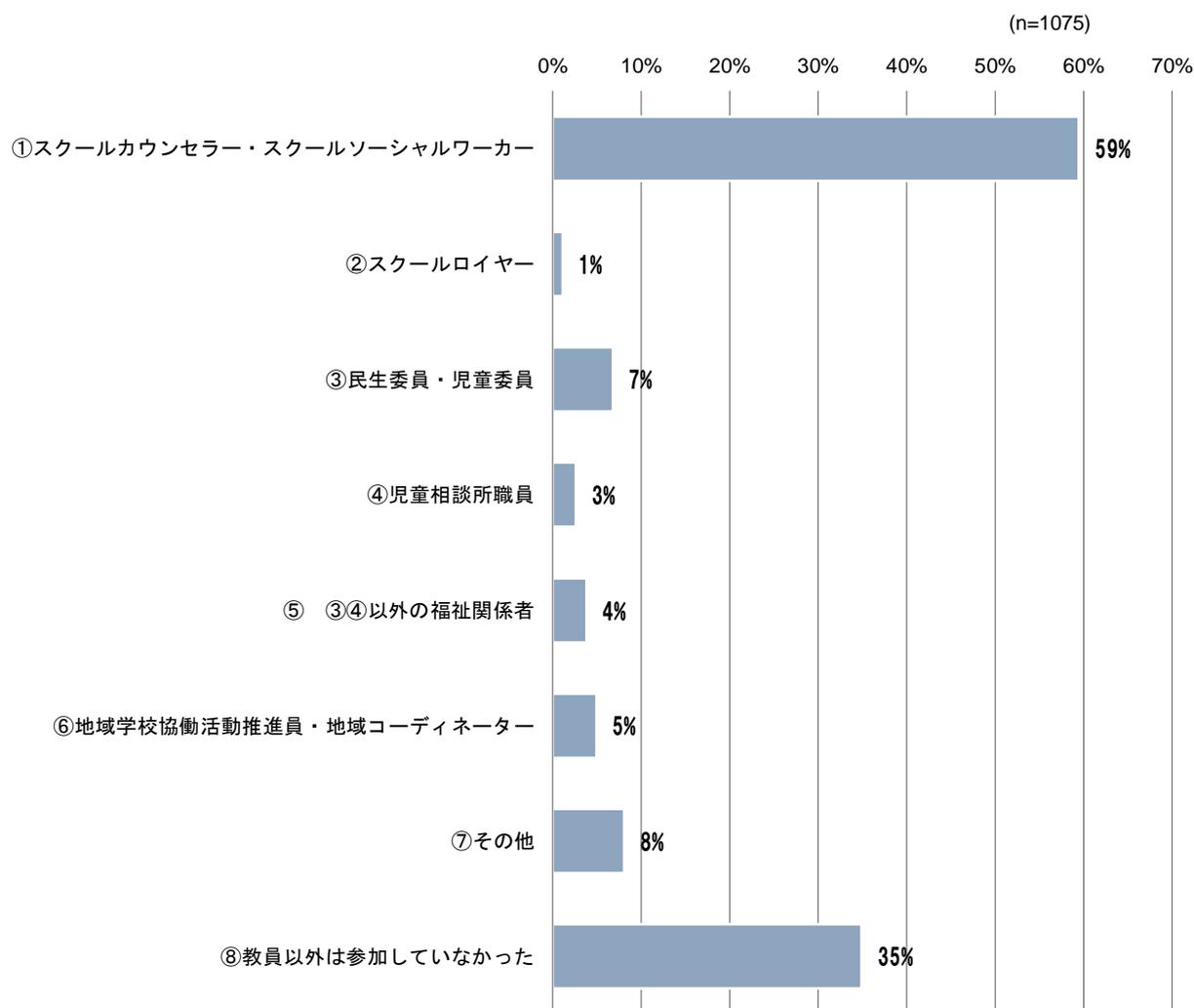


	合計	①学期ごとに1回以上	②年1回～学期ごとに1回未満	③定期的な開催は行っていなかった(問題が生じた場合のみ開催していた)	④令和4年度は開催していなかった
合計	1104	649	164	262	29
	100.0%	58.8%	14.9%	23.7%	2.6%

2-47 令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。¹

「①スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー」の割合が最も高く59%である。次いで、「⑧教員以外は参加していなかった(35%)」、「⑦その他(8%)」である。

図表 2-47 令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。



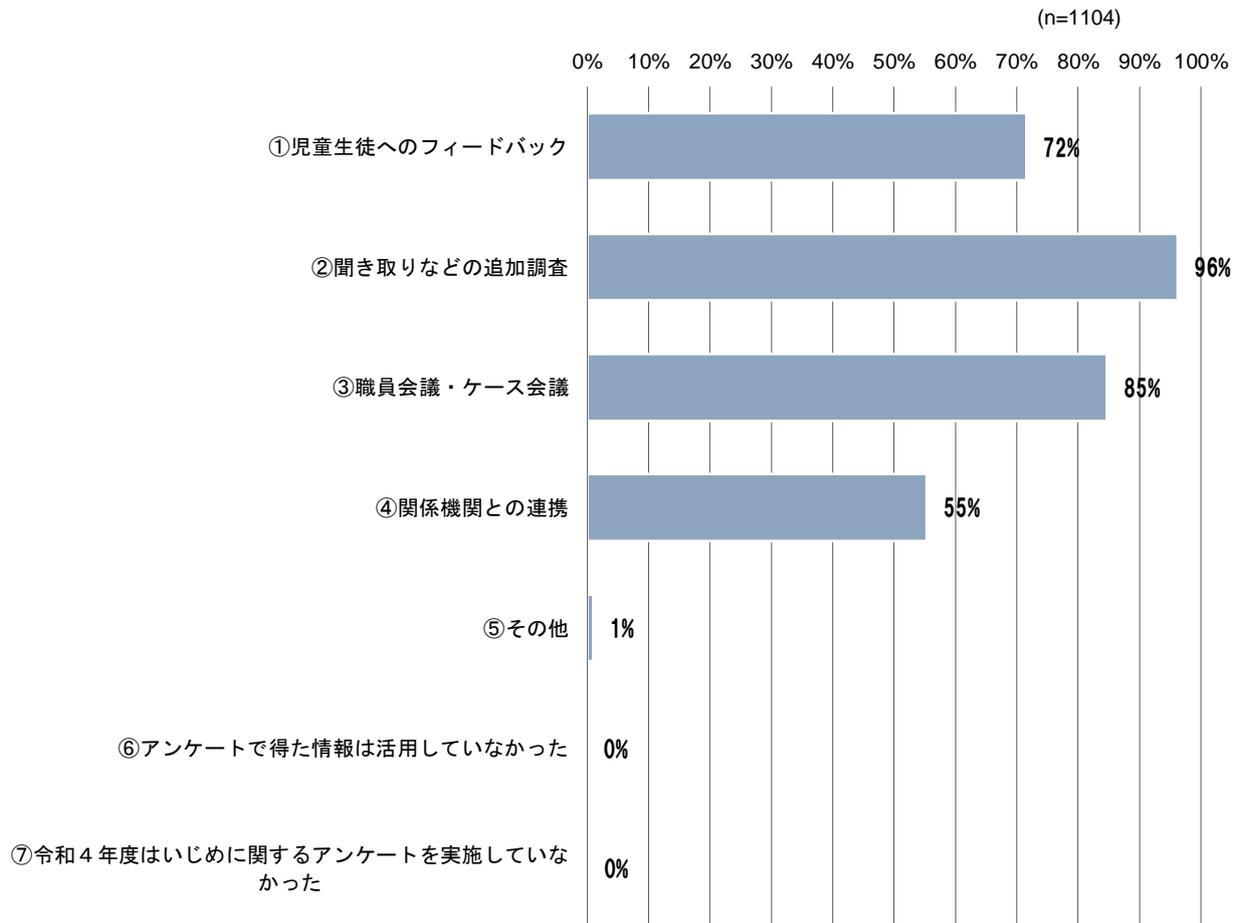
	合計	①スク ールカ ウンセ ラー・ス クール ソーシ ャルワ ーカー	②スク ールロ イヤー	③民生 委員・ 児童委 員	④児童 相談所 職員	⑤ ③ ④以外 の福祉 関係者	⑥地域 学校協 働活動 推進 員・地 域コー ディネ ーター	⑦その 他	⑧教員 以外は 参加し ていな かった
合計	1075	639	12	73	28	41	53	87	375
	100%	59%	1%	7%	3%	4%	5%	8%	35%

¹ いじめ防止対策組織について「令和4年度は開催していなかった」と回答した29校を除いた回答。

2-48 令和4年度に、貴校で実施していただきたいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。

「②聞き取りなどの追加調査」の割合が最も高く96%である。次いで、「③職員会議・ケース会議(85%)」、「①児童生徒へのフィードバック(72%)」である。

図表 2-48 令和4年度に、貴校で実施していただきたいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。

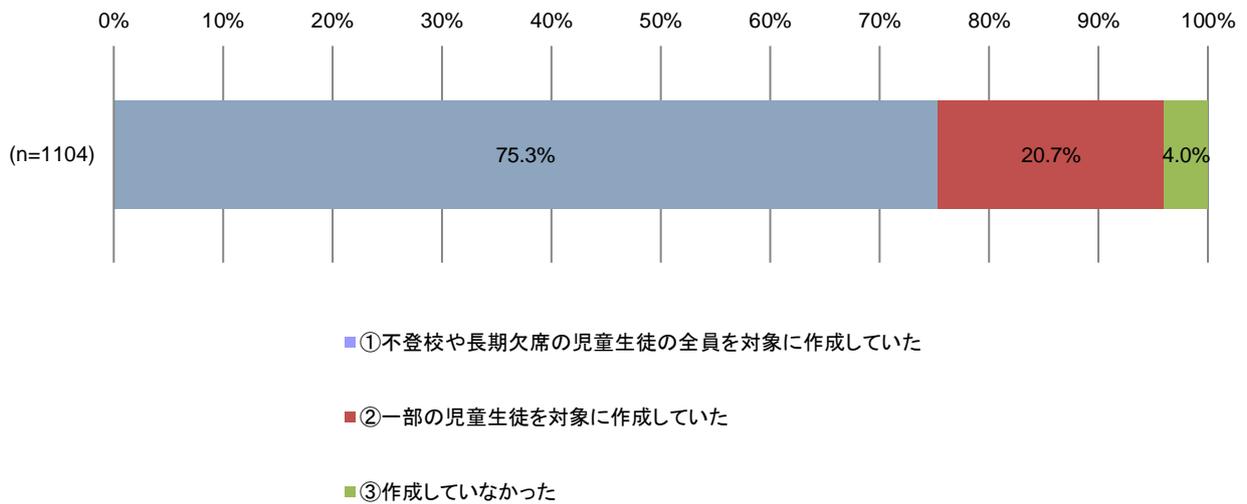


	合計	①児童生徒へのフィードバック	②聞き取りなどの追加調査	③職員会議・ケース会議	④関係機関との連携	⑤その他	⑥アンケートで得た情報は活用してなかった	⑦令和4年度はいじめに関するアンケートを実施してなかった
合計	1104	790	1062	935	611	11	0	1
	100%	72%	96%	85%	55%	1%	0%	0%

2-49 貴校では、令和4年度に不登校や長期欠席の児童生徒の情報を関係者間で共有するための資料（児童生徒理解・支援シート等）を作成していましたか。

「①不登校や長期欠席の児童生徒の全員を対象に作成していた」の割合が最も高く75.3%である。次いで、「②一部の児童生徒を対象に作成していた(20.7%)」、「③作成していなかった(4.0%)」である。

図表 2-49 貴校では、令和4年度に不登校や長期欠席の児童生徒の情報を関係者間で共有するための資料（児童生徒理解・支援シート等）を作成していましたか。

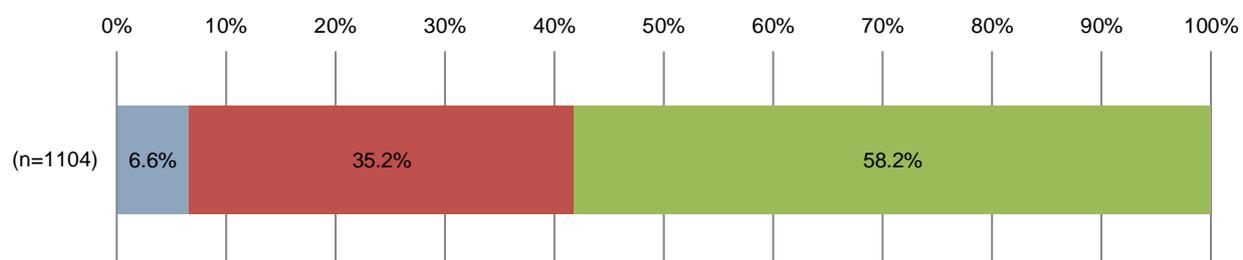


	合計	①不登校や長期欠席の児童生徒の全員を対象に作成していた	②一部の児童生徒を対象に作成していた	③作成していなかった
合計	1104	831	229	44
	100.0%	75.3%	20.7%	4.0%

2-50 貴校では、令和4年度に校内教育支援センターを設置していましたか。

「③設置していなかった」の割合が最も高く58.2%である。次いで、「②令和4年度より前から設置していた(35.2%)」、「①令和4年度に新設した(6.6%)」である。

図表 2-50 貴校では、令和4年度に校内教育支援センターを設置していましたか。



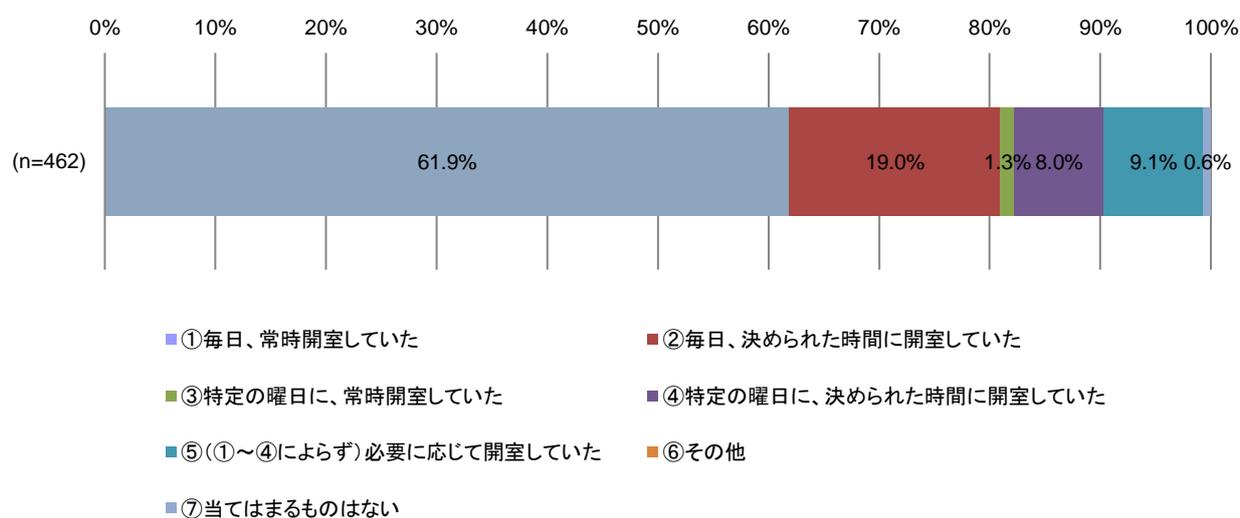
■①令和4年度に新設した ■②令和4年度より前から設置していた ■③設置していなかった

	合計	①令和4年度に新設した	②令和4年度より前から設置していた	③設置していなかった
合計	1104	73	389	642
	100.0%	6.6%	35.2%	58.2%

2-51 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの開室日時について、最も当てはまるものをお答えください。¹

「①毎日、常時開室していた」の割合が最も高く61.9%である。次いで、「②毎日、決められた時間に開室していた(19.0%)」、「⑤(①～④によらず)必要に応じて開室していた(9.1%)」である。

図表 2-51 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの開室日時について、最も当てはまるものをお答えください。



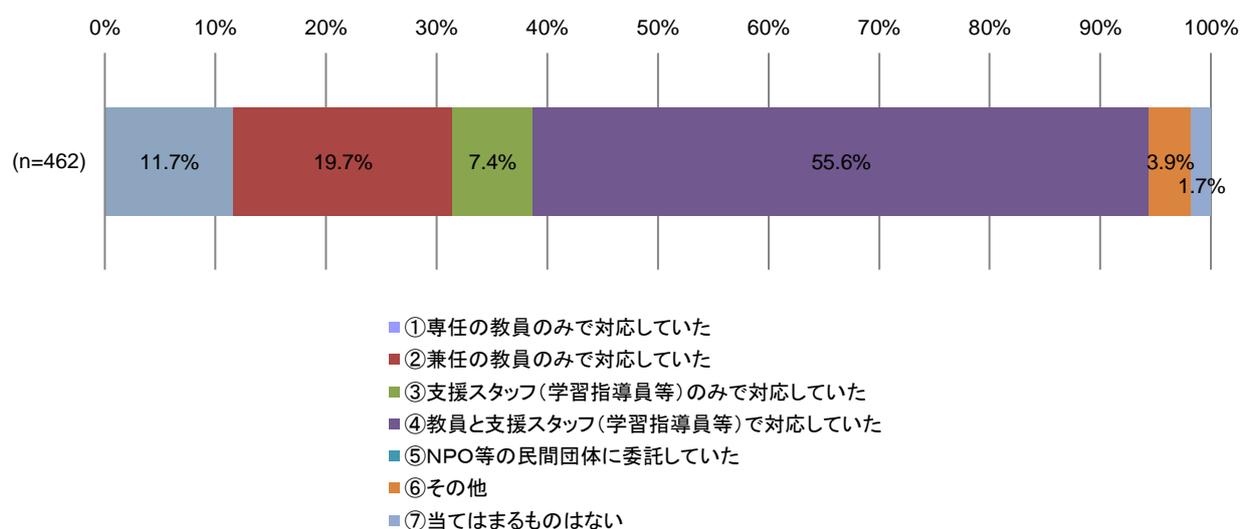
	合計	①毎日、常時開室していた	②毎日、決められた時間に開室していた	③特定の曜日に、常時開室していた	④特定の曜日に、決められた時間に開室していた	⑤(①～④によらず)必要に応じて開室していた	⑥その他	⑦当てはまるものはない
合計	462	286	88	6	37	42	0	3
	100.0%	61.9%	19.0%	1.3%	8.0%	9.1%	0.0%	0.6%

¹ 校内教育支援センターを「令和4年度に新設した」、「令和4年度より前から設置していた」と回答した462校のみの回答。

2-52 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。¹

「④教員と支援スタッフ(学習指導員等)で対応していた」の割合が最も高く55.6%である。次いで、「②兼任の教員のみで対応していた(19.7%)」、「①専任の教員のみで対応していた(11.7%)」である。

図表 2-52 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。



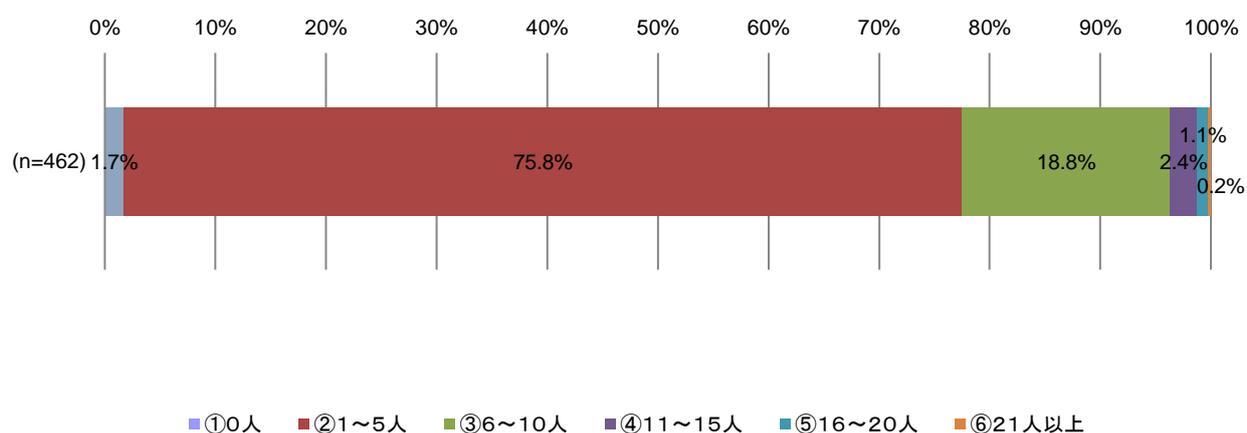
	合計	①専任の教員のみで対応していた	②兼任の教員のみで対応していた	③支援スタッフ(学習指導員等)のみで対応していた	④教員と支援スタッフ(学習指導員等)で対応していた	⑤NPO等の民間団体に委託していた	⑥その他	⑦当てはまるものはない
合計	462	54	91	34	257	0	18	8
	100.0%	11.7%	19.7%	7.4%	55.6%	0.0%	3.9%	1.7%

¹ 校内教育支援センターを「令和4年度に新設した」、「令和4年度より前から設置していた」と回答した462校のみの回答。

2-53 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの1日当たりの平均的な児童生徒利用数をお答えください。¹

「②1～5人」の割合が最も高く75.8%である。次いで、「③6～10人(18.8%)」、「④11～15人(2.4%)」である。

図表 2-53 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの1日当たりの平均的な児童生徒利用数をお答えください。



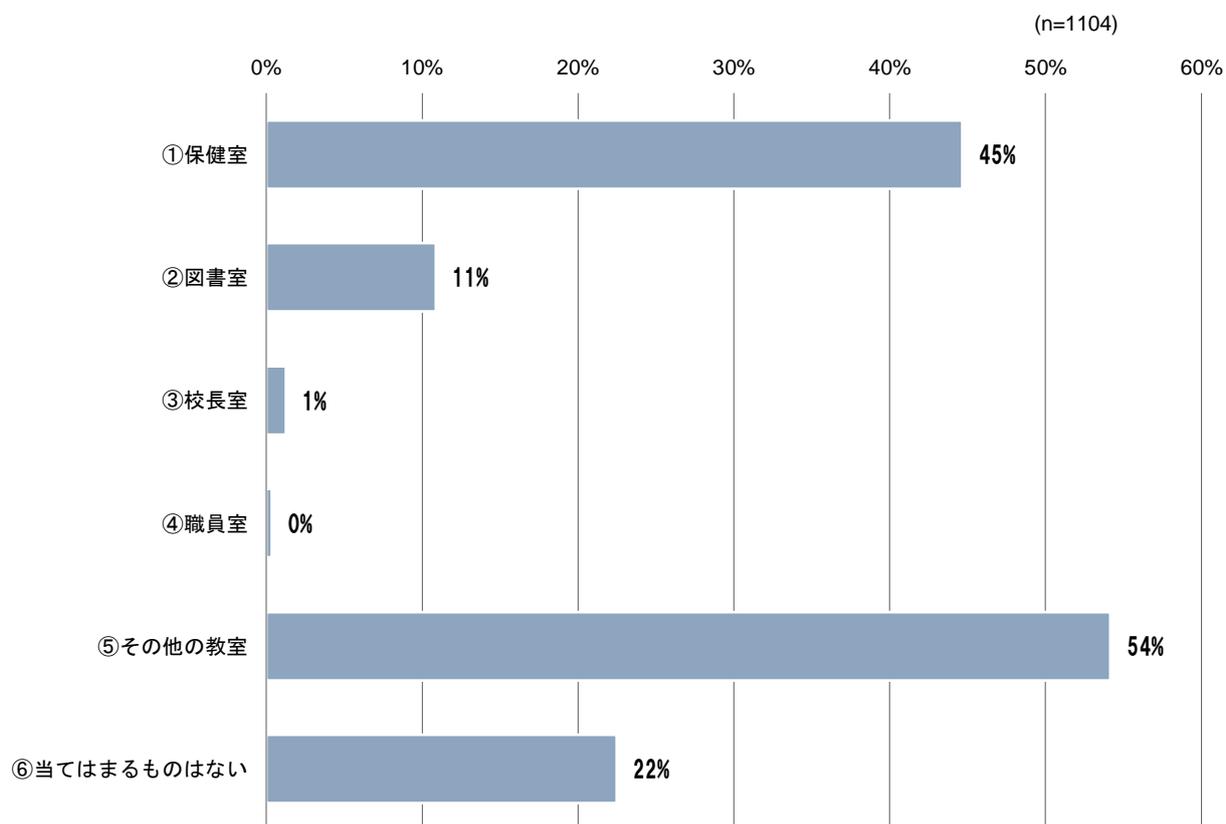
	合計	①0人	②1～5人	③6～10人	④11～15人	⑤16～20人	⑥21人以上
合計	462	8	350	87	11	5	1
	100.0%	1.7%	75.8%	18.8%	2.4%	1.1%	0.2%

¹ 校内教育支援センターを「令和4年度に新設した」、「令和4年度より前から設置していた」と回答した462校のみの回答。

2-54 貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。

「⑤その他の教室」の割合が最も高く54%である。次いで、「①保健室(45%)」、「⑥当てはまるものはない(22%)」である。

図表 2-54 貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。

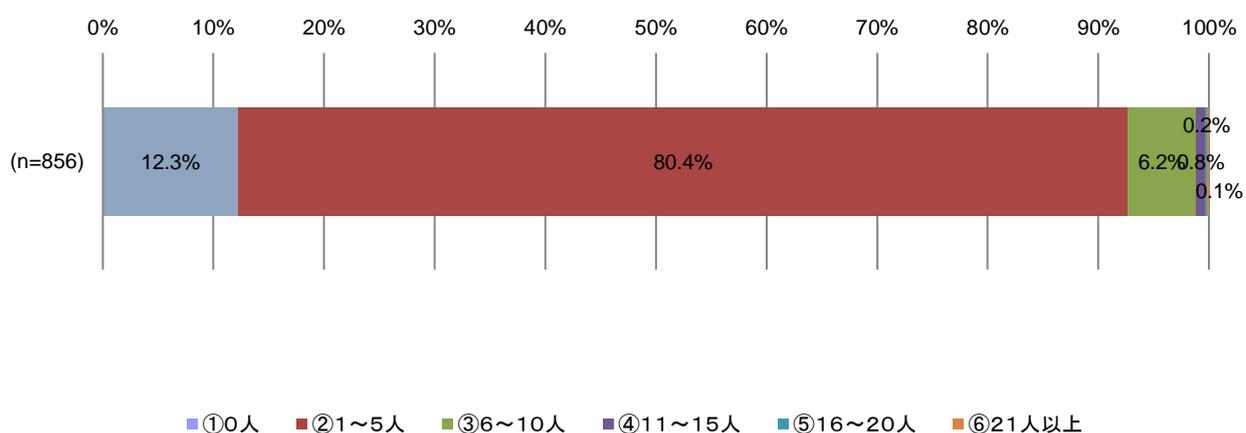


	合計	①保健室	②図書室	③校長室	④職員室	⑤その他の教室	⑥当てはまるものはない
合計	1104	493	120	14	4	598	248
	100%	45%	11%	1%	0%	54%	22%

2-55 貴校の、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外の学校内の居場所で日中過ごしていた1日当たりの平均的な児童生徒数をお答えください。¹

「②1～5人」の割合が最も高く80.4%である。次いで、「①0人(12.3%)」、「③6～10人(6.2%)」である。

図表 2-55 貴校の、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外の学校内の居場所で日中過ごしていた1日当たりの平均的な児童生徒数をお答えください。



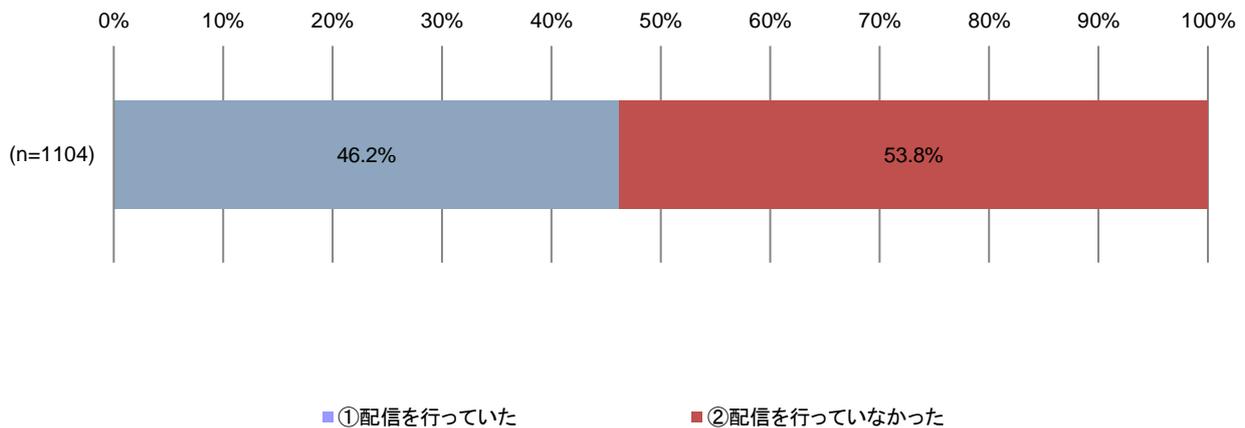
	合計	①0人	②1～5人	③6～10人	④11～15人	⑤16～20人	⑥21人以上
合計	856	105	688	53	7	2	1
	100.0%	12.3%	80.4%	6.2%	0.8%	0.2%	0.1%

¹ 令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について「当てはまるものはない」と回答した248校を除いた回答。

2-56 貴校では、令和4年度に不登校の児童生徒が、学校外（自宅や教育支援センター等）で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信を行っていましたか。

「②配信を行ってなかった」の割合が最も高く53.8%である。次いで、「①配信を行っていた（46.2%）」である。

図表 2-56 貴校では、令和4年度に不登校の児童生徒が、学校外（自宅や教育支援センター等）で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信を行っていましたか。

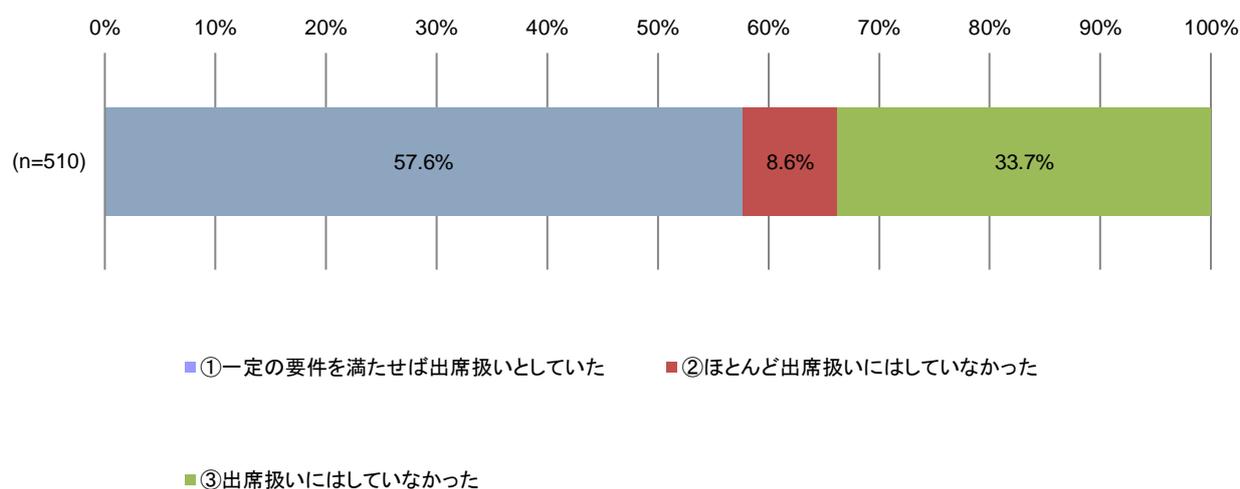


	合計	①配信を行っていた	②配信を行ってなかった
合計	1104	510	594
	100.0%	46.2%	53.8%

2-57 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。¹

「①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた」の割合が最も高く57.6%である。次いで、「③出席扱いにはしていなかった(33.7%)」、「②ほとんど出席扱いにはしていなかった(8.6%)」である。

図表 2-57 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。



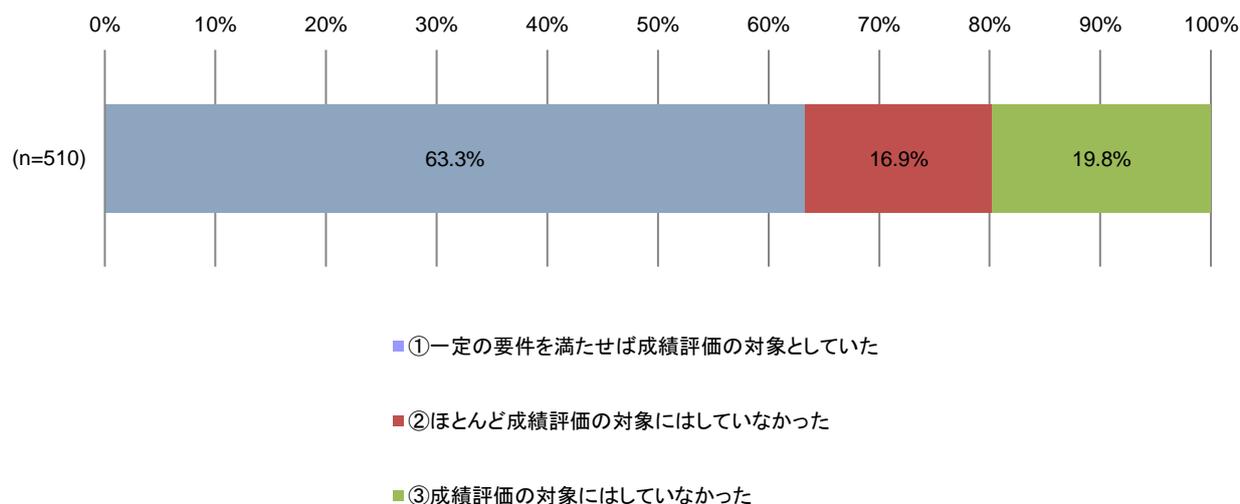
	合計	①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた	②ほとんど出席扱いにはしていなかった	③出席扱いにはしていなかった
合計	510	294	44	172
	100.0%	57.6%	8.6%	33.7%

¹ 不登校の児童生徒が、学校外(自宅や教育支援センター等)で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信について「配信を行っていた」と回答した510校のみの回答。

2-58 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。¹

「①一定の要件を満たせば成績評価の対象としていた」の割合が最も高く63.3%である。次いで、「③成績評価の対象にはしていなかった(19.8%)」、「②ほとんど成績評価の対象にはしていなかった(16.9%)」である。

図表 2-58 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、学校外で教室等から配信された授業に参加した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。



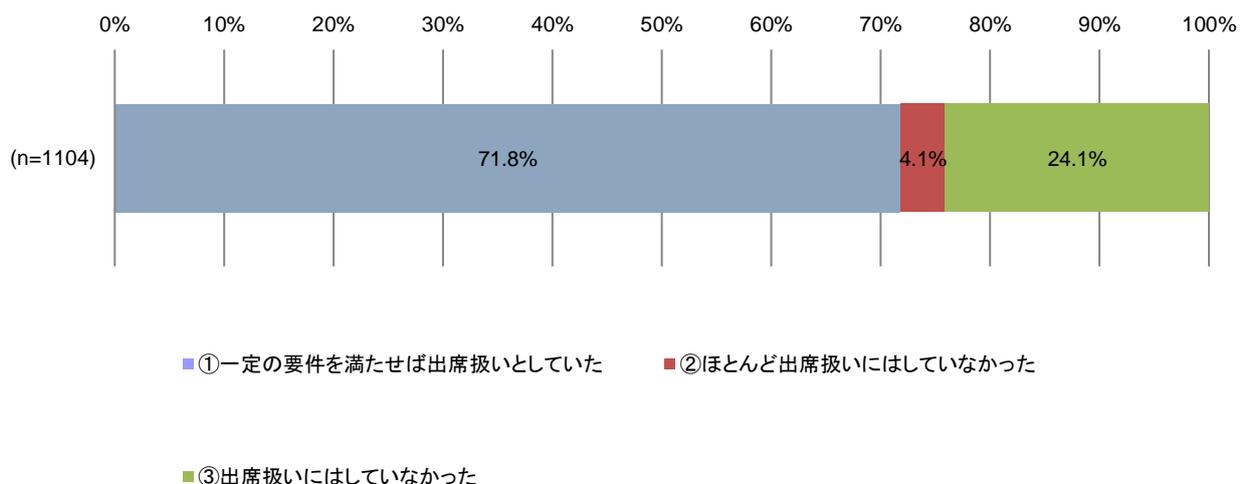
	合計	①一定の要件を満たせば成績評価の対象としていた	②ほとんど成績評価の対象にはしていなかった	③成績評価の対象にはしていなかった
合計	510	323	86	101
	100.0%	63.3%	16.9%	19.8%

¹ 不登校の児童生徒が、学校外(自宅や教育支援センター等)で教室等から配信された授業を受講できるよう、オンライン配信について「配信を行っていた」と回答した510校のみの回答。

2-59 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等（オンライン含む）で学習した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。

「①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた」の割合が最も高く71.8%である。次いで、「③出席扱いにはしていなかった(24.1%)」、「②ほとんど出席扱いにはしていなかった(4.1%)」である。

図表 2-59 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等（オンライン含む）で学習した場合の出席の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。

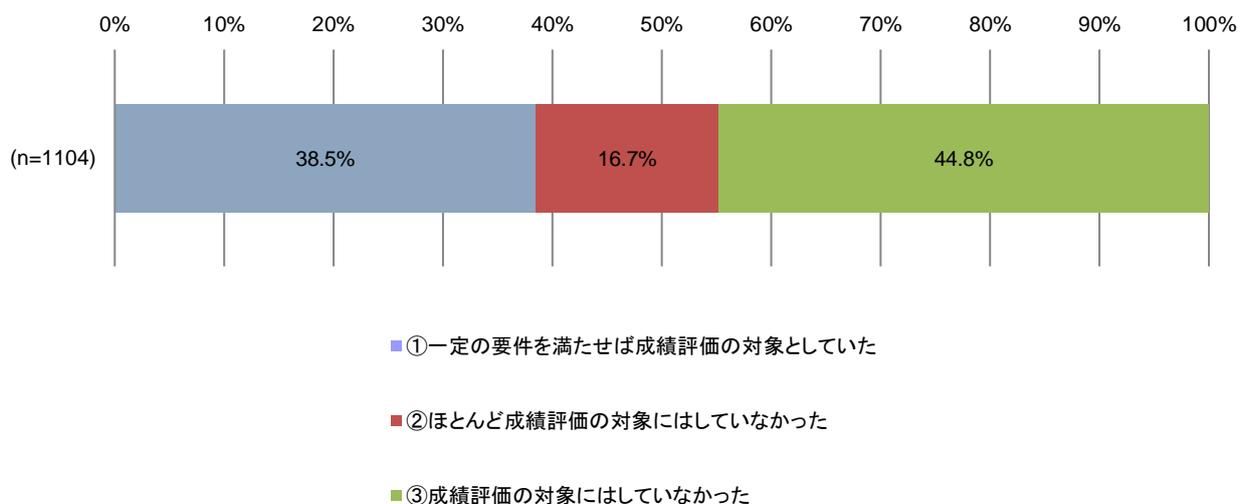


	合計	①一定の要件を満たせば出席扱いとしていた	②ほとんど出席扱いにはしていなかった	③出席扱いにはしていなかった
合計	1104	793	45	266
	100.0%	71.8%	4.1%	24.1%

2-60 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等（オンライン含む）で学習した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。

「③成績評価の対象にはしていなかった」の割合が最も高く44.8%である。次いで、「①一定の要件を満たせば成績評価の対象としていた(38.5%)」、「②ほとんど成績評価の対象にはしていなかった(16.7%)」である。

図表 2-60 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒が、民間業者等が運営するフリースクール等（オンライン含む）で学習した場合の成績評価の扱いについて、最も当てはまるものをお答えください。

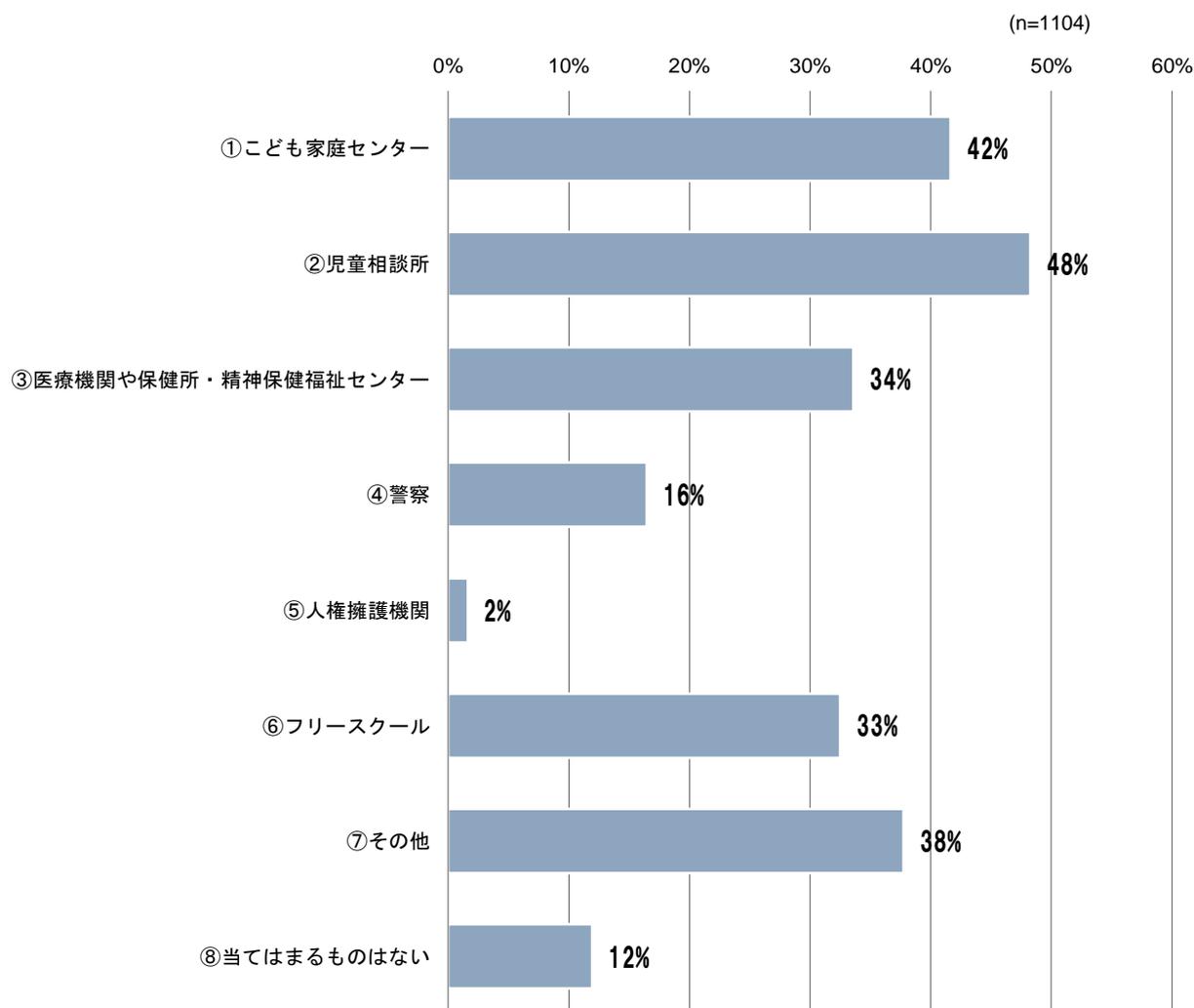


	合計	①一定の要件を満たせば成績評価の対象としていた	②ほとんど成績評価の対象にはしていなかった	③成績評価の対象にはしていなかった
合計	1104	425	184	495
	100.0%	38.5%	16.7%	44.8%

2-61 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。

「②児童相談所」の割合が最も高く48%である。次いで、「①こども家庭センター(42%)」、「⑦その他(38%)」である。

図表 2-61 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。

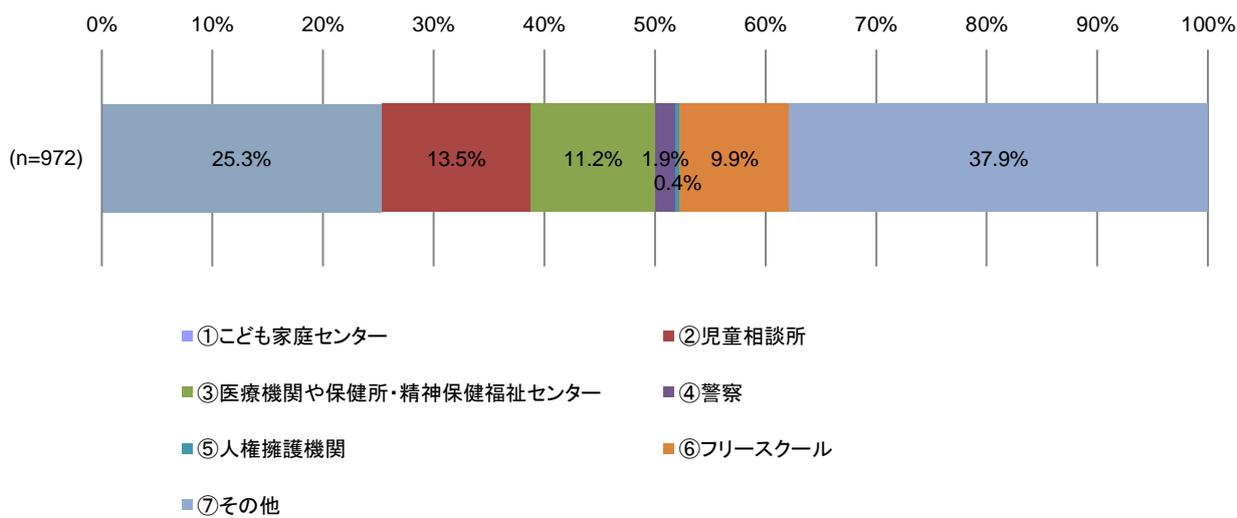


	合計	①こども家庭センター	②児童相談所	③医療機関や保健所・精神保健福祉センター	④警察	⑤人権擁護機関	⑥フリースクール	⑦その他	⑧当てはまるものはない
合計	1104	460	533	371	182	18	359	417	132
	100%	42%	48%	34%	16%	2%	33%	38%	12%

2-62 上記の質問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／前問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携をお答えください。¹

「⑦その他」の割合が最も高く 37.9%である。次いで、「①こども家庭センター(25.3%)」、「②児童相談所(13.5%)」である。

図表 2-62 上記の質問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／前問に関して、連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携をお答えください。



	合計	①こども家庭センター	②児童相談所	③医療機関や保健所・精神保健福祉センター	④警察	⑤人権擁護機関	⑥フリースクール	⑦その他
合計	972	246	131	109	18	4	96	368
	100.0%	25.3%	13.5%	11.2%	1.9%	0.4%	9.9%	37.9%

¹ 不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について「当てはまるものはない」と回答した 132 校を除いた回答。

2-63 貴校のスクールカウンセラーの令和4年度の具体的な職務内容について、当てはまるものを全てお答えください。／2-4 ⑪その他

スクールカウンセラーの具体的な職務内容の「その他」について、授業参観や教室巡視、心理検査や面談などといった回答が得られ、それらを通して生徒の状態を観察・把握していることがうかがえた。また、「カウンセラー便り」といった形で定期的に情報発信を行っていたことが分かる。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • 自殺防止教育等に係る授業参画 • カウンセラー通信の発行 • 便り作成 • 生徒を語る会 • 教職員へのコンサルテーション • 学級活動での協力 • 関係機関との調整 • 全校生徒を対象とした一言面談 • 生徒の観察 • 箱庭、コラージュ等の心理療法の実施 • 授業での生徒の観察 • 授業参観 • SSWとの情報共有 • 教育支援センターとの情報共有 • 教室巡視 • 講演の代わりに紙面で保護者からの質問に答える通信を配布 • 気になる生徒の授業参観・観察 • 授業見学等による生徒理解 • ケース会議等の間接的助言 • 性加害生徒、性被害生徒の治療ケアプログラム • 心理教育、入学前の教育相談 • 保護者の会の運営 • 心理検査 • いじめ防止対策委員会への参加 • 授業参画 • 学校保健委員会で講話 • 不登校の保護者と進路について語る会の開催 • 授業

※重複のあった回答や個別の自治体・学校が特定できる回答は掲載していない。以降の自由記述も同様。

2-64 生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員について、当てはまるものを全てお答えください（令和4年5月1日時点）。／ 2-10 ⑥その他

生徒指導上の諸課題への対応の充実に向け追加的に配置された教員の「その他」について、不登校対応や生徒指導、教育支援センターを担当していたという回答が得られた。また、業務量の観点で配慮がなされていたことも分かった。

自由回答
<ul style="list-style-type: none">• 校内全体で業務量のバランスをとっていた• 養護教諭• 小中連携で毎週学区の小学校に授業等を行いにっていた• 教育支援センターの授業を行っていただいた• 生徒指導担当の授業コマ数を軽減及び担任免除を行った• 不登校対応、適応指導教室担当• 校内適応教室指導員• カウンセリング指導員• 不登校支援(会計年度)• 学年担任として生徒指導を補助した• 非常勤講師• 生徒支援主任兼生徒支援加配• 生徒指導主事の授業軽減のための非常勤講師の加配• 生徒指導補助員として、追加配当されていた• 校内教育支援センターを担当していた• 担当授業なし• 校内での居場所づくり、家庭訪問、自宅にいる生徒とオンラインでの個別学習• 生活補導主事• 教育相談担当

2-65 前問（2-11）の質問に関して、令和4年度の独自のスタッフやボランティアの業務内容についてお答えください。

独自のスタッフやボランティアの業務内容について、不登校支援や対応、別室での学習支援などの回答が多く得られた。相談員として、生徒の心に関わる相談や教育相談を行っていたという回答も多かった。また、特別支援学級での支援も挙げられた。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • SCの活用計画作成、別室指導運営、別室での個別学習等の支援 • 個に応じた学びの支援(日本語サポート、授業中の個別支援等) • 不登校生徒の居場所(登校時の)を担当・困り感のある生徒への授業中の学習支援 • 心の教室に来室した生徒の対応を中心とした業務 • 不登校対応(学習支援含む) • 教室に入れない生徒への支援活動を行った • 学習支援や居場所活動 • 心の相談員として、悩み相談等 • 特別支援学級での学習の支援 • 授業支援や各種校務分掌業務、不登校・特別支援生徒への対応、部活動支援等 • 市教育委員会が配置している心の教室相談員が、不登校傾向生徒や悩みを抱える生徒等を対象に、教育相談や見守り等を行う • 校内教育支援センターへ登校した生徒への支援 • 生徒との個別面談 • 教室以外の別室利用生徒への声がけ • 学び支援教室専任教員1名、特別支援学級支援員2名、学習支援員1名、心のケア支援員1名 • TT(ティーム・ティーチング)による学習支援 • 不登校生徒の別室学習支援 • 不登校生徒支援 • 生徒の学習支援 • 学校生活支援員として、別室登校の生徒の自学自習や学校での生活支援を行っている • 心の教室相談員 • 生徒の学校生活の見守りや校舎内外の巡回 • 困り感のある生徒への個別対応 • 生徒相談員として生徒の悩み相談を行う・家庭訪問や相談室で、不安定な生徒への支援を行う • 家庭訪問相談員 • 学級担任や教科担任と協力して不登校傾向等学校生活に悩みを持っている生徒への支援を行う • 教育相談業務 • 担任の支援等 • 特別支援学級学習支援 • 生徒指導嘱託(県費会計年度職員)が配置されており、相談室における不登校傾向の生徒の対応や、問題行動を起こした生徒への対応について支援を行っている • 教室へ行けない生徒が自習を行う学習室での生徒の見守り • 教育相談支援員

- 個別の学習支援
- 不登校・長期欠席生徒の教室復帰のための支援・教室復帰前のアプローチルームの経営・学習指導
- 市費の職員で相談員・ボランティア相談員2人・スクールサポーターとなりますが、相談室の経営、生徒の悩み相談、生徒の活動時の見届け、学年業務の支援など多岐にわたります
- 学習支援として、外国語の授業に参加
- 相談員として相談室の運営にあたる
- 相談室登校の生徒の対応(生徒及び保護者面談、教育相談部会への出席等)
- 相談室対応生徒保護者との面談
- 特別支援学級の補助、校内支援教室の補助、採点補助、事務補助
- 支援室の生徒への対応
- 不登校の生徒が通室する支援室での学習支援
- チームティーチング
- 教育相談
- 教育支援教室の運営
- 生徒との話し相手
- 別室に登校した生徒の見守り
- 配慮が必要な生徒への対応
- 居場所作りの運営、生徒指導補助など
- 別室登校生徒の寄り添い支援、学習支援ボランティアが別室登校の生徒への学習支援を行っていた
- 別室登校の支援及びお迎え支援
- 校内サポートルームでの学習支援
- 学校支援指導員(生活指導)として生徒の個別指導や不登校生徒の対応を行った
- 校内教育支援センターでの生徒対応
- 学習支援、自主学習の見守り
- 配慮を要する生徒の見守り・学習支援・別室登校生徒の対応
- 特別支援学級の学習支援
- 別室指導における学習支援、生活支援
- 不登校傾向にある生徒への電話連絡や家庭訪問、学校に登校してきた際の個別指導
- 教室に入れない生徒の支援
- 別室での学習支援や入り込みによる支援等
- 個別支援級補助
- 学習活動以外の居場所づくり
- 特別支援教室の運営
- 特別支援教育
- 生徒の見守り、交流
- 教室で過ごすことが難しい生徒のための別室指導
- 特別支援級の学習補助
- 別室登校生徒の心や学習の支援
- 学習支援員介助員
- 生徒の居場所づくりと相談
- 特別支援学級生徒の見守り、通常学級における学習支援
- 学級活動や総合的な学習の時間における担任の補助や、休み時間における生徒の見守り活動

- 学生ボランティアによる寄り添い・見守り等・学習支援
- 生徒との個別面談、保護者との個別面談、教職員との個別面談、ケース会議等の会議への参加
- 適応指導学級での相談並びに学習支援業務
- 適応支援教室の運営教育支援部会への参加・情報共有
- 不登校生徒の対応や心理的支援
- 適応指導教室にいる生徒への対応
- 生徒、保護者との相談
- 相談室登校や不登校生徒への対応や保護者からの相談対応
- 不登校生徒への学習支援室での見守り
- 別室登校支援
- 派遣相談員
- 相談室での支援
- 学力支援スタッフ自学室の支援生徒の見守り
- 相談室経営
- 不登校支援
- 校内中間教室(相談室)担当
- 市費支援員として勤務していただき、登校支援、校内中間教室担当業務をお願いした
- ケース会議への参加、生徒や保護者との個別面談
- いじめ対策の教員を配置し、いじめに該当する問題が起きたときの相談、対応をしている・月に1回学校全体でいじめ未然防止に関わる活動を仕組む
- 相談室登校生徒の指導、不登校生徒宅への家庭訪問
- 校内教育支援センターで、学級に入るのに抵抗を感じている生徒の指導、支援を行った
- 配慮の必要な生徒との個人懇談、ケース会議への参加
- 別室登校での対応(学習支援・教育相談等)と家庭訪問
- 別室で学習している生徒の教育相談
- 特別支援を要する生徒のサポート
- 校務支援員
- 登校支援室支援員
- 相談活動、学習支援
- 通訳、日本語指導
- 保護者及び生徒からの相談業務
- 教室を巡視したりして、気になる生徒について教職員と情報共有など行った
- 不登校支援の教室に登校している生徒の対応補助
- 個別の支援を必要とする生徒の学習支援など
- 放課後学習支援
- 課題のある生徒に対する学習支援など
- 授業支援
- 相談業務
- 校内適応指導教室での個別支援
- 訪問相談員
- 直接指導ではなく、指導で対応している間の補充や日常観察
- 配慮を要する生徒への学習支援
- いじめ不登校対策委員の教員として生徒・保護者に周知し、いじめや不登校に関する生徒や保護者の相談窓口を担っていた

- 不登校傾向にある生徒の心の居場所として、個別の対応にあたった
- 不登校生徒に対する別室指導
- 学習支援、悩み相談や話し相手
- 登校しにくい子どもの送迎等
- 別室登校生徒の学習支援や相談対応等
- 校内巡視や生徒見守り
- 教室に入ることができない生徒に対する学習支援
- 授業の入り込み、個別の学習ルームでの生徒対応
- 登校指導・下校指導・校内巡視・不登校生への家庭訪問等
- 別室での補助、昼食指導の補助
- 校内適応指導教室にて生徒対応(校区小学校でも同様)、個別の相談対応、ケース会議の参加
- 日本語支援、支援教育補助員、不登校支援協力員
- 不登校生への支援
- 生徒の見守り、行事のサポート
- 学校現場での教育活動における子ども支援の補助を行う
- 登校渋りのある生徒への家庭訪問や別室での学習指導
- 登校を渋る生徒への校内教育支援センター運用
- 校内教育支援センターにて生徒への学習支援
- 学校に足が向きにくい生徒の家庭訪問や登校支援
- 登校しづらい生徒の家庭に訪問し、交流をはかる・登校できても教室に入りづらい生徒に対し、校内支援ルーム等で学習指導等を行う
- 昼休み等の居場所づくり、授業の入り込み支援
- 生徒の学習支援(同室複数授業)
- 不登校生や人権諸課題、家庭環境などがある生徒への対応
- 適応支援教室生の対応登下校指導
- 不登校生徒の支援、校内フリースペースでの指導、授業相談の補助、不登校生徒や問題行動傾向性との個別支援、別室指導補助、校内巡回など
- プリントなどの印刷、生徒や保護者向けの配付物の仕分け、清掃活動の補助
- 生徒指導主任補助、支援の必要な生徒への対応
- 市内の NPO 法人より、日本語指導のサポーターの方を派遣していただき、授業の補助や学校からの配布物の翻訳、面談での通訳等を依頼していた
- 所属学級に入れたい生徒への支援
- 配布物の作成補助、印刷、配布
- 生徒の教育相談
- 支援を要する生徒への支援用務
- 特別支援生徒の支援生徒指導に課題がある生徒の支援カウンセリング
- 訪問支援員
- 校内に市立適応指導教室の分室があり、登校はできるが教室に入れたい生徒の支援を行っていた
- 不登校及び不登校傾向の別室対応
- 不登校生との対応
- 自立応援室へ来室する生徒への対応
- 保健室、相談室で教室に入れたい生徒の学習を支援した
- 不登校生徒を生み出さないための授業等での支援活動

- 別室専属教員1名(教諭)、登校支援員2名
- 自立応援室の担当支援員
- 不登校生徒の学習・生活支援等
- 環境整備、コロナ対応(消毒等)、スクールサポートスタッフの補助
- 適応指導教室での指導
- 校内見回り、いじめの早期発見
- 生徒の見守り、警察連携など関係機関連携時のアドバイス
- 教室に入りにくい生徒への対応
- いじめ対策委員会に参加し意見を述べる・学校と保護者の間に入ってアドバイスをする
- 生徒と保護者の相談
- 特別支援学級の支援
- 生徒指導体制の強化に関する支援業務
- 校内教育支援センターにおける ICT 支援
- 不登校生徒家庭への連絡
- 不登校等対策支援
- 授業のオンライン配信、サポートルーム利用生徒への個別指導など
- 中1ギャップを中心とした不登校生徒への支援
- 不登校生徒の対応、別室生徒の対応
- 生徒支援、問題行動等への対応
- 校内教育支援教室の助手
- 教室に入れにくい生徒の見守り
- 特別支援学級支援員
- 特別支援教育支援員として特別支援学級の生徒の支援
- 特別支援学級の生徒の支援
- 心的な理由で教室に入ることができない生徒の一時的な居場所や学習の場に常駐し、支援を行ったり、担任と連携して不登校生徒の家庭訪問を行ったりした
- 通常学級における学習支援、特別支援学級における学習支援・生活支援
- 心(メンタル)の相談員(3名)、学習支援(4名)
- 普通学級における学習支援や、特別支援学級における学習支援や生活支援
- 心の教育相談員
- 相談活動、個別学習の見守り
- 教室に入れにくい生徒の心のストレスを軽減し、学力保障につなげる業務
- 悩みを抱えている生徒の相談を受ける・場合に応じて助言等を行う・生徒の情報を学級担任等と共有し、生徒の悩み解消を支援する
- 小学校との情報交換や不登校生徒宅への家庭訪問等
- 不登校・不登校傾向生徒や保護者、教職員との面談や家庭訪問など
- 学習支援、教育相談、生徒の集団活動や体験活動等への支援
- 特別ヘルパー
- 居場所づくり
- 登校時に生徒を迎えに行く
- 校内巡視
- スクールサポートスタッフとして配置・生徒の登校支援等に従事

2-66 貴校では、令和4年度に生徒指導上の課題（不登校・いじめ等）が生じた場合のケース会議等に、どなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／
2-18 ⑧その他

ケース会議等への参加者の「その他」として、指導主事、学年主任、相談員、特別支援教育コーディネーター、教育委員会、市区町村の担当課などが挙げられ、校内の多様な職員に加え、校外の様々な関係者が関わっていることがうかがえた。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • 主幹教諭 • 心の教室相談員 • 教育委員会 • 教育相談担当 • 状況に応じて学級担任 • 部活動顧問、通級学級担当 • 市教育委員会指導主事 • 主治医、家庭児童相談員 • 教育相談員 • 生徒支援加配教員 • 警察 • 市こども課 • 相談員 • 市教育研究所専門員 • 特別支援教育支援員 • 教育相談主任 • 部活動顧問 • 学年主任 • 市外部機関職員 • 学校支援アドバイザー • 教育支援担当 • 市教委生徒指導担当 • 日本語学級主任 • 分掌主任(運営委員会参加者) • 子ども家庭支援センター • 関係諸機関職員 • 各学年主任 • 支援コーディネーター • 教育相談コーディネーター • 区健康福祉課、区教育相談室 • 福祉関係機関 • カウンセリング指導員 • 指導主事 • いじめ対策の教員 • 教務主任 • こども家庭課 • 児童相談所の職員

- 支所職員
- 生活サポート主任
- 登校支援コーディネーター
- 福祉関係者
- 子ども支援コーディネーター
- 小学校教員、福祉機関
- 補導主任
- 人権教育主担
- 特別支援担当代表
- 児童生徒支援コーディネーター
- 関係諸機関
- 当該学年の主任
- 学年総務
- 教育委員会家庭児童相談課
- 不登校対策指導員
- 不登校担当
- 家庭相談センター職員及び市子育て相談課職員
- 関係する生徒の学年主任
- 医師
- 特別支援教育コーディネーター
- 町教委宇委員会指導主事
- 市子育て支援課
- こども総合相談
- 不登校対策の教員
- 青少年育成指導員
- 関係機関・放課後デイ等
- 市子ども未来課
- 人権教育担当
- 適応指導教室職員
- 福祉課担当者

2-67 貴校の、令和4年度に一人一台端末やその他日々の健康観察用紙等を用いた心の健康観察で利用した機能について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-37 ⑥その他

心の健康観察で利用した機能の「その他」について、一部の学校において、学校や日常生活、教育相談に関わるアンケートを実施していることが分かった。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の心身の状況について教育相談アンケートを使って担任等が把握していた • 学校・日常生活アンケート • 月末アンケート用紙から知らせた • 生活・教育相談アンケート

2-68 貴校での、令和4年度の小中連携や小中一貫教育の実施状況について、貴校で取り組んでいたものについて、当てはまるものを全てお答えください。／令和4年度に、貴校で小中連携や小中一貫教育として取り組んでいたもの／ 2-43 ⑧その他

小中連携や小中一貫教育として取り組んでいた「その他」のものとして、中学校教員による小学校への出前授業や乗り入れ授業、説明会を行っていたという回答が見られた。また、情報交換や合同研修などを通して交流を図っていたことも分かった。一方、新型コロナウイルスの感染防止のため、令和4年度には実施しなかったという学校やオンラインを活用したという学校も見られた。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • オンラインで小学校6年生に対しての中学校説明会を実施した • 教員による小中相互の授業参観 • 委員会活動の交流 • 検定の合同実施 • 中学校の教諭による乗り入れ授業 • 定例小中管理職会議(月1回) • 小・中オンライン交流(中1ギャップ解消) • 活動計画あったがコロナウイルス感染症防止のため書面会議のみの総会を実施したのみ • 事務支援 • 新入生保護者説明会 • R4年度はコロナ禍において実施できなかった • 中学校教諭による小学校の図工授業 • 学区の校長会議 • 中学校教員の小学校への出前授業 • 確かな学力向上小中連携研修 • 教員の一日交流 • 1年間、小学校へ兼務し授業を行い小中連携(英語)を実施 • 合同生徒指導部会、合同学力向上部会 • 教育相談部会等への参加 • 校区内の校長による情報交換 • 教務主任が学区の小学校へ毎週出向き、児童へ授業等を行った • 生徒指導の引き継ぎ • 福祉体験

- 特別支援学校との交流
- 小学校への職場体験学習
- 授業公開
- 小学校に訪問して生徒会役員による学校の説明
- オンラインの活用(コロナ禍による)
- 中学校区スタンダードの作成
- 中学職員による中学説明会
- 中学校紹介動画
- 小学校教員の中学校参観・情報交換
- あいさつ運動
- 議題を決めての協議
- 読み聞かせ会、特別支援学級交流会
- 保護者・児童を対象とした学校説明会
- オンラインで授業見学・中学校説明会
- 不登校の会議・管理職・生徒指導主事が集まる会議
- 情報交換
- 中学校教諭による小学生へのガイダンス
- 小中の教員の交流(参観・情報共有・研修)
- 教務・生徒指導・学習指導部の連絡会
- 校長会や主任会の実施
- 人権学習などの相互授業参観、中学校紹介型訪問授業、中学校説明会
- 児童会・生徒会のコラボ企画
- 体験入学
- 挨拶運動など
- 毎年、中学生が部活動等の指導に1回程度訪問している
- リモートによるオープンスクール
- 小学校への週1回の授業観察
- 中学校教員による小学校への訪問授業
- チームズを使った小学校への中学校紹介、説明会
- 自主学習ノート
- 代表職員の打ち合わせ
- 小・中学生を対象にしたいじめ防止の取り組み
- 入学説明会
- 生徒指導に関する情報交換(小中連絡会)

2-69 令和4年度に、貴校におけるいじめ防止対策組織について、教員以外にどなたが参加していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／ 2-47 ⑦その他

いじめ防止対策組織について、教員以外の参加者の「その他」として、学校運営協議会、教育委員会、PTA 会長、相談員、警察、学校支援や生徒支援に関わるアドバイザーやスーパーバイザーなどが挙げられ、多岐にわたる関係者が関わっていることがうかがえた。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • 保護者 • 教育委員会 • 交番 • 学校運営協議会委員 • 町会長 • 教育相談員 • 警察 • 町教育委員会、学び支援教室コーディネーター • 学校評議員 • 事務長 • 指導主事 • 市費相談員 • 学校支援アドバイザー • PTA 会長 • 特別支援教育専門員 • 心のふれあい相談員、学校生活支援員 • 支援教育支援員 • 地域コミュニティ協議会、青少年育成協議会 • 地域の育成団体長、会社役員 • いじめ対応アドバイザー • 生徒指導サポーター • 市教育委員会の指導主事、指導官 • PTA 正副会長 • PTA 校外生活部員 • 人権擁護委員 • 市生徒指導担当指導主事 • 所轄警察少年課 • 小学校校長・教務主任 • 区政協力委員長、小中学校 PTA 会長、PTA 顧問 • 警察署少年係 • 警察署、中学校ブロック PTA 役員 • 保護司 • いじめ問題相談員 • スクールカウンセラー • 社会福祉協議会 • 学校支援サポーター • 学校警察連絡室

- 警察署生活安全課課長
- 生徒指導支援員
- 学校運営協議会会長
- 非行・被害防止活動を行う警察官 OB
- 不登校スーパーバイザー
- 公民館長、青少年育成連合会
- 保護者代表
- 青少年育成課指導員
- PTA 役員・子供会指導者協議会・子育て支援センター
- SSV
- スクールサポーター
- 学校評議委員
- 警察官 OB
- 教育委員会関係者
- 警察署職員

2-70 令和4年度に、貴校で実施していたいじめに関するアンケートで、児童生徒から得た情報をどのように活用していましたか。当てはまるものを全てお答えください。／
2-48 ⑤その他

いじめに関するアンケートを通して児童生徒から得た情報の「その他」の項目について、保護者への周知、共有することで保護者との連携に活用したり、教員や SC・SSW との共有に活用したりしていたことが分かる。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • 保護者連携 • 生徒指導部会、教育相談部会 • 保護者への周知・情報提供 • 全教職員で共有 • SC、SSW との共有 • 保護者との懇談 • 問題解決に向けての対応

2-71 貴校の、令和4年度の校内教育支援センターの人員等について、最も当てはまるものをお答えください。／ 2-52 ⑥その他

校内教育支援センターの人員等の「その他」の項目について、専任の教員と回答した学校と、教員の割り当てや当番制、教員のみという学校が見られた。教員以外には、スクールカウンセラーという回答も得られた。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • 専任が中心 • スクールアシスタント • スクールカウンセラー • ボランティア • 全教職員 • 教育相談担当教員が中心となり対応していた • 養護教諭 • 専任教員(1名)と登校支援員(2名) • 教員割り当て • 教員の当番制 • 登校ナビゲーター、ICT 支援員 • 専任+他の教員 • 空き時間の教員

2-72 貴校で、令和4年度の教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-54 ⑤その他の教室

教室や校内教育支援センター以外に不登校傾向の児童生徒が日中過ごす居場所の「その他」について、相談室の回答が多く、この他、学習室、別室、空き教室、会議室、支援教室、パソコン室、多目的室など、既存の施設を用いた様々な居場所がある様子が見えてきた。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • ふれあいルーム • 心の教室 • 会議室 • スクールカウンセラーの部屋を共用 • LL 教室 • 教育相談室 • 旧パソコン室 • 個別相談室 • 空き教室 • 特別支援学級教室 • 自習室 • 小会議室 • 生徒会室、和室 • 特別活動室 • コンピュータ室 • 小規模教室 • ふれあい教室 • 学習室 • 心の相談室 • スタジオ • 別室 • 被服室 • カウンセリング室 • 談話室 • スペシャルサポートルーム • SSR(スペシャルサポートルーム)教室 • 普通教室 • 学年室 • 各学年の学習室 • 通級指導教室 • 保健室 • カウンセリングルーム • 少人数教室 • コミュニティールーム • PC 室 • 未使用の特別教室 • 生徒相談室

- 学習支援室
- 生徒支援室
- カウンセラー室
- 多目的室
- 校内支援教室
- 不登校支援教室
- 図書準備室
- 応接室
- ランチルーム
- 職員室に一番近い多目的室
- 専用の空き教室
- パソコン室
- 個別学習教室
- 不登校生徒自習室
- 保健相談室
- 学年ごとに空き教室
- 保健・教育相談室
- 理科室
- 学習相談室
- 別室登校専用教室
- 個別支援室
- 個別学習室
- 校内適応教室
- 特別教室
- 自学室
- 校内中間教室
- 多目的教室
- 学校図書館
- 学年職員室
- 登校支援教室
- 校内適応指導教室
- 適応教室
- 登校支援室
- サポートルーム
- 和室
- 支援学級
- 特定の部屋はなく、生徒に応じて空いている教室等
- 小教室
- 学年別室
- 生活指導室等
- 必要に応じて増室
- フリースクール
- 校内支援ルーム
- 放送室
- アシスト教室

- 市教育支援センター
- 和室
- 不登校傾向生徒が過ごす専用の空き教室
- 学級教室の近くにある空き教室
- 不登校対応教室
- 保健室の隣の部屋
- 体育館ミーティングルーム
- ふれあい相談室
- 自治体の教育研究所
- 市との共有施設を活用
- 自主学習室
- リフレッシュルーム
- 心の相談教室
- 学年ごとの学習ルーム
- 学習ルーム
- 談話室を作りかえた
- 総合教室
- 休憩室

2-73 貴校での、令和4年度の不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関について、当てはまるものを全てお答えください。／ 2-61 ⑦その他

不登校の児童生徒への支援に関して、平時から連携していた機関の「その他」について、教育支援センター(適応指導教室)、総合教育支援センター、相談・支援センター(室)、自治体の関係部署など、多くの学校で公的機関と連携していたことがうかがえた。また高校段階との接続を意識した施設や、NPO 法人等との連携をしている学校もあった。

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> • 学習支援センター • 若者支援センター • 教育支援センター • 放課後等デイサービス • 家庭児童相談室 • 市特別支援教育サポートチーム • 子ども総合相談センター • 自治体の子育て支援課 • 市役所子ども未来部子ども支援課 • 教育委員会 • 自治体の適応指導教室 • 市教育支援室 • 自治体の健康福祉課・福祉センター • 学校教育センター • 自治体のこども支援センター • 教育相談室 • 適応指導センター • 子どもの心のケアハウス • 県立高等学校 • 家庭相談所 • 障害者相談支援センター • 総合教育支援センター • 市教育センター生涯学習課 • 自治体のこども政策課 • 児童養護施設 • 教育支援教室 • 青少年会館 • 自治体の子育て相談課 • 自治体の社会福祉課等 • 社会福祉協議会 • 自治体の福祉課 • 市立総合教育センター • 教育研究所 • 市役所生活支援課及びこども支援課 • 教育相談所 • 本市教育センター内の通級指導教室 • ふれあい教室

- 青少年センター
- 教育相談センター
- 市適応支援センター
- 不登校適応教室
- 区学校支援チーム
- 不登校支援施設
- 学校教育支援センター
- 市が主催する不登校生徒対象の教室
- 市の不登校支援施設
- 区が主催している不登校支援施設
- 青少年相談センター
- 教育相談指導学級
- 教育研究相談センター
- 特別支援サポートセンター
- 市教育委員会生活指導係
- 市教委運営による学習支援教室
- 市子ども家庭相談課
- 市の子ども相談室
- 市子どもサポート
- 村内の中間教室
- 市が運営する子ども若者相談センター
- 教育委員会家庭・子ども支援課
- 登校支援教室
- NPO 法人
- 子ども適応相談センター
- 民生子ども課
- 市運営の不登校児童生徒教育支援センター
- ひきこもり支援センター
- 市教育委員会不登校支援室
- 市役所子育て世代包括支援センター
- 適応支援教室
- 市役所子ども若者支援課
- 校外適応指導教室
- こども発達相談センター
- 市民生活相談課
- ふれあい教育相談センター、発達支援センター
- 不登校相談支援センター
- 教育委員会生徒指導課
- こども相談センター
- 市子ども政策室
- 教育委員会が設置する不登校相談センター
- デイサービスセンター
- 要保護児童対策地域協議会
- 子ども未来室
- 区役所こども支援室

- 子ども家庭支援課
- 市教委の相談センター
- 市福祉総務課
- 市教育委員会関係課
- 教育支援施設
- 町こども未来課
- 少年センター
- こども支援センター
- 市教委主催の居場所
- 通信制高等学校の中学生サポートコース、町保健課
- 他自治体の教育相談センター
- ネウボラ推進課
- 分教室
- 大学
- フードバンク、自立生活支援センター
- 市少年育成センター
- こども総合相談所
- 心の教育センター
- 教育支援室
- 少年支援室
- 青少年支援センター
- 青少年教育センター
- 病院
- 児童家庭課

2-74 連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容をお答えください。／
2-61 連携の具体的内容

連携していた機関のうち最も効果的な機関との連携の具体的内容について、生徒の様子や学習状況、家庭の状況について情報共有を行っていたという回答が多かった。また、学校だけでは対応が難しいと思われるケースに対して、関係機関と連携することで具体的な対応策の検討や問題解決につながったことがうかがえた。

①こども家庭センター 連携の具体的内容

自由回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有により、定期的な家庭訪問等実施につながり、家庭の支援となった(結果的に生徒の支援となる) ・ 家庭状況や登校状況の継続した確認 ・ 生徒の支援にかかわる情報共有及び保護者との連携等にかかわる対応について ・ 学校とこども支援課で連携し、家庭への連絡や支援を継続して実施した ・ 定期的な情報交換と対応への指導・助言、適応指導教室等の居場所の確保 ・ 不登校生徒本人と保護者とのカウンセリング・学習支援 ・ 学校の授業で使用したプリント等の学習教材を支援室で生徒が取り組むことができた・支援室職員が指導助言を行ったことで、生徒が学習への意欲を維持することができた ・ 教育相談、学習支援、登校の促し ・ 市教育支援センターと本人や保護者の教育相談、校内研修での助言等 ・ 家庭教育相談室の生徒の利用 ・ 教員が定期的に訪問し、情報交換や支援を行った ・ こども未来課と連携をとり、複雑な家族関係など、話し合いをして、SSW と連携を取り解決策を探しています ・ 生徒の精神的安定と登校を促すための手立てを講じてくれた ・ 保護者が学校に様々な依頼をしてきた際に、子育てセンターが間に入り、連絡調整を行った ・ 教育相談における家庭支援 ・ 生徒の面談を相互に行い、その様子を共有できた ・ スクールソーシャルワーカーに保健センターや児相、子育て支援課などに働きかけケース会議を定例的に開いた事 ・ 教育センターと連携をしていた・主に支援教室に通う生徒についての情報交換を実施 ・ 市地域包括ケア課(こども支援課)と市の支援サービスの利用状況や支援状況から、学校はどのようにかかわるべきかを相談できた ・ こども家庭センターからの情報提供や定期的な訪問等により家庭や生徒理解に努めることができた ・ 課題のある家庭への支援(訪問相談など) ・ 学校の様子などの情報交換 ・ 児相案件以前の家庭への介入・ネグレクト、ヤングケアラーへの対応 ・ 担当者と該当生徒との学校での面接、家庭訪問などを実施してもらい、学校との情報共有を行い方向性を考えた ・ 定期的な家庭訪問とその結果を学校と共有した ・ 家庭環境や家庭内での保護者・当該生徒の様子や当該生徒の学校外での生活の様子についての情報交換

- スクールソーシャルワーカーを挟んで家庭への健康福祉面の指導や虐待やネグレクトへの指導や児相への連絡等
- 家庭の状況が心配な生徒の安全確認、家庭状況の把握、面談の実施など
- 教育相談での発達検査のフィードバック及び適応指導教室への接続
- 子ども家庭センターの家庭訪問による生徒や家庭の様子把握
- 虐待が疑われる案件について連携
- 他の諸機関とのつながり作り
- 家庭への連絡等が困難な場合に、本人確認や保護者との面談を行ってもらった
- 不登校や家庭の養育の心配事案が発生した場合に情報提供を行い、相互に理解をしておく・事態が深刻化した場合に対応を協議する
- 家庭の支援を含めて連携することで、不登校生徒への効果的な支援につなげることができた
- こども家庭センターの職員による一定程度定期的な家庭訪問と、登校できない期間が続いた際に学校からこども家庭センターへの電話等での連絡・また、その家庭訪問状況の学校へのフィードバックおよび学校職員が家庭訪問した際のこども家庭センターへの情報提供
- 家庭訪問により、生徒の安否確認を行うとともに、生徒の状況や家庭環境等について情報を共有する
- 家庭環境のサポート
- ケース会議の開催や医療機関への連携
- 学校で家庭訪問して会えなくても、対応して頂き生徒の確認等して頂いた
- お互いのもっている情報を交流していくことで、その生徒に対する理解が深まる
- 子どもへの適切な監護要請と学校への協力要請
- スクールカウンセラーが学校と区役所の両方に所属しているので、双方の有効な手立てを結合することができた
- 児童生徒の特性や状態に応じ、個別最適な学びと安心できる居場所の提供を実現できるよう支援している
- 保護者も含め、学校以外の方からの支援やアドバイスを受けることができ、保護者と学校と連携が深まるから
- 家庭が原因で、不登校となっている場合、一緒に家庭訪問に行った
- 各関係機関による不登校生徒の実態に応じた家庭訪問
- 性同一性障害のケースについて連携
- 情報交換をふくむケース会議や日々のきめ細かい連絡・役割を決めた、保護者や生徒への対応
- 個別のケース会議を定期的に関くことができた
- 出席扱いとした
- 家庭に入り、保護者の悩みに寄り添っていただいた
- 子供の対応より、保護者の心の拠り所となった
- 不登校生徒の情報交換や、支援方法の相談
- 不登校生徒の状況について、有効な支援についての助言をいただいたり、必要なサービスの提供等を行ってくれる
- 市の教育支援センターに不登校生徒が通い学習指導を行っていた
- 継続的な家庭の支援
- 家庭内不和や自傷行為等に対し、本人やその家庭を支えるという部分で、一緒に家庭訪問をしたり、学校でケース会議を行うなど、連携を密に取り対応することができた
- 丁寧な面談があり、自分の生活リズムに沿って計画を立て、自分なりの方法で登校にチャレンジできた

- 保護者への対応を、色々な窓口から同一步調で関わる事ができた
- 相談機関や医療機関、保護者情報の共有
- 定期的な学校の訪問での情報共有
- 生存確認
- 家庭への福祉的な支援
- 公認心理士との連携
- 学校への登校ができない生徒が、こども家庭センターに登校して、勉強していた
- 市の子ども政策室に不登校生徒や要対協生徒の対応を相談した際、ケース会議の計画・実施、またその後の各関係機関との連携も含めて対応が早かった・不登校生徒や要対協生徒の情報交換や今後の対応などを相談することが多い
- センターに登校する
- こども家庭センターは家庭の状況にも詳しいので、学校は家庭の状況を教えて貰い、学校からは子どもの状況を伝え、互いに協力して支援を進める事ができた
- 本市に設置されている教育支援センターに来所し、自立支援活動を行った
- 教員以外でかかわってもらえるところ
- 生徒、保護者との関係づくり
- 生徒の状況を共有してつながりを増やす
- 不登校の生徒において、子育て支援室にかかる生徒が多く、家庭・保護者を含めた対策をすることがある
- ケース会議を開き、本人の家庭状況、福祉的な支援の情報共有を行えた
- 家庭内などのトラブルでの保護機関
- 関係機関が定期的な面談を実施・必要な場合の一時保護などを実施してくれていた
- ネグレクト状態にある家庭に対し、養育状況の改善に向けて連携した対応
- 家庭訪問を実施してもなかなか会うことができない家庭に訪問してもらったり、情報共有をしたりしていた
- 発達検査をしてもらい、個人に応じた支援を教えてもらった
- 家庭での本人の様子や、保護者の様子などの共有
- 長期不登校生徒に対して定期的にリモートや他施設での支援につながることでスムーズに進学につながった
- 不登校となった要因が複雑化しており、それらを整理(発達検査など)していくための情報が得られた
- 気になる生徒の情報交換、支援の方法についての打合せ
- 貧困や虐待、ヤングケアラー等の様々な課題を抱えた生徒の支援に役立った
- 不登校生徒の中で、保護者とは会えるが、生徒とは会えないケースがあり、SSW や子ども家庭センターの職員と連携することで、年度の後半に、生徒と直接、会って話をする事ができた
- 情報共有できたことと対応や支援について助言をいただいたこと
- ふれあい教室との連携
- 学習や行事への参加、テストの受験、親子で面談など、学校外の居場所となっていた・また、その時々様子を記録したものを共有していた
- こども家庭センターから、当該生徒及び家庭の、現在及び過去の情報提供を受けた
- 要対協の定期開催による情報共有と打ち手の検討
- 生徒の心理面接の実施
- 他県から転向してきた生徒に関する連携
- 不登校生徒の家庭に対する支援
- 主に問題を抱える生徒についての情報を共有した

- 子どもの現認と保護者への子育て支援
- 家庭と学校とをつなぐための情報共有
- 生徒の家庭の状況や保護者の状況についての情報提供・児童相談所や保健所等との連携する際の窓口・要対協との連携の窓口
- 授業内容の伝達、テスト問題の提供・採点、チャレンジ給食、担任等が入ったケース会議
- SSWと連携し、生徒宅を家庭訪問し、家庭での状況等の確認を行った
- 不登校生徒の居場所づくり
- 家庭への支援ができた・子どもが安心して暮らせる
- ケース会議を実施し、センターの保健師、SSW、SC 学校がそれぞれ保護者と生徒にアプローチする方法を考えた・これまでのつながりをもとに、役割分担して、生徒が登校意欲を持てるよう支援した
- 家庭への支援も含めた情報交換
- 日々の家庭の様子等の情報共有で生徒の背景をつかむことができた
- 教育支援センターにおける個別の対応(学習支援・体験活動など)
- 市子ども家庭支援課職員が月1回の家庭訪問と月1回のケース会議を行い、生徒や家庭の状況を把握できた
- ケース会議を定期的に関き、家庭との連携を深められた
- 保護者への支援方法を検討や共有を連携していた

②児童相談所 連携の具体的内容

自由回答

- 虐待家庭の対応及び心的に不安定な生徒や保護者対応に効果的
- 生徒の一時保護
- 家庭の情報共有
- 不登校家庭の母親との関わり方(児相とのケース会議)
- 家庭環境等の情報共有
- 定期的に情報交換を行いながら支援を行った
- 「学び支援教室」の運営について、専任の指導主事が週に一度来校し、情報交換を行い助言などをいただいていた
- 保護等の相談
- 相談内容および支援方針の共有
- 配慮を要する生徒と配慮を要する保護者の支援・学校外での生徒や家庭の状態の把握やその支援・情報の連携
- 対象生徒に対する情報共有
- 児童相談所における面談内容と本人や保護者の状況の情報交換ができ、指導に役立った
- 本人と保護者との面談と指導
- 対象生徒への支援や家庭状況等の情報共有
- ケース会議行うことができた
- 職員の方が、学校に定期訪問をしてくださり、該当生徒の面談・支援を実施してくれた
- 情報共有、相互支援
- 家庭環境に係る不登校傾向生徒についての相談
- 母子面談により登校日が増えた
- 精神疾患のある生徒の対応について連携を取り合いながら教育活動の推進にあたった
- 家庭問題への連携、ネグレクト、虐待
- 生徒や家庭環境に関する情報共有

- 生徒の相談を受けての連携と家庭への指導
- 児童虐待等があったケースなどはその情報の共有や一時保護を行ってくれた
- 電話連絡での情報共有
- 家庭内の問題がある生徒の対応
- 出欠状況
- 電話、ケース会議
- 保護者・本人への説諭、学校との連絡の共有
- 連絡のつきづらい保護者との連絡・調整
- ケース会議を開催した
- 課題のある生徒や保護者の情報共有
- 生徒、家庭の情報共有
- 日常生活の過ごし方
- 保護者支援・生徒の保護
- 一時保護中の子どもの学習やテスト等
- 本人が一時保護を望み児相と連携して動いた
- 担当者との直接連絡・相談
- 家庭の状況把握
- 情報交換個人情報
- 児相の方と情報共有を行ったり、実際に学校でスタッフの方と面談を行った
- 家庭訪問や情報共有
- 一時保護されていた生徒との面会・学習内容提供・保護所退所後の連携等
- 一時保護終了後の登校について細かい打ち合わせを行い、児童相談所職員が付き添って登校した
- 学区内の児童養護施設との連携、情報交換
- 生徒の状況の共有
- ネグレクト傾向の生徒の相談
- 生徒の様子についての情報交換
- 児童相談所による子育て相談
- 情報共有と具体的な対応策の決めだし
- 生徒宅への家庭訪問に同行していただき、保護者へのアドバイスを児相職員が行った
- 本校職員と保護者と連携し、安全面や保護者との関係性について相談にのってもらえた
- 要体協生徒の関わりや家庭訪問、ヒアリング
- 問題行動対応
- 学習指導
- 虐待対象生徒について、対処法を共有し、今後の接触について役割分担をした
- 学校ではわからない情報を知ることができる
- 家庭状況の情報
- いじめや虐待が疑われることが直接に起因してくる案件
- 一時保護など学校では踏み込めない部分の対応等児童相談所から関係諸機関への情報共有
- 家庭との連携
- 市教委の生徒指導担当、課長補佐実態把握、対応策を共有できたこと
- 情報共有による具体的な手立ての相談
- 不登校生徒を対象としたケース会議
- ケース会議

- 不登校の要因として家庭の問題が大きく、その改善につながる働きかけを行うことができた
- 一時保護対応
- 生存確認と学習支援
- 不登校の状態が続いた際に家庭訪問等で協力をいただいた
- 本市の家庭児童相談所が従来より繋がりのあった当該生徒の家庭へ訪問し、安全確認を行った
- 情報共有、手立ての検討
- 家庭背景のアセスメントを行うケース会議の実施
- 不登校の背景に家庭状況の困難さがあると考えられる場合、保護者に相談可能な機関があることを紹介し、つながってもらう
- 家庭の状況も含めた情報共有
- 希死念慮の高い生徒に放課後、家庭への送迎
- 情報交換、訪問指導
- 生徒、保護者が抱える悩み相談、アドバイス等
- 生徒が危険と判断される場合、すぐに動いて対応してくれる
- 個々に応じた相談や働きかけ
- 情報交換、指導方針等
- 家庭訪問、面談、教員の相談
- 必要性に応じた情報交換
- ネグレクトや家庭内暴力等の早期発見と、継続的、多角的な支援
- 学校では見えてこない家庭の状況が見えてくる
- 本人の安否確認
- 生徒の保護
- 生徒の家庭環境等に働きかけを行っていている
- 出席状況や家庭、面談での様子などの情報共有
- 生徒の安全な居場所の確保ができたこと
- 日常的な情報交換
- 児童相談所と市の関係機関(児童家庭課等)との連携、役割分担
- 性的虐待の疑いがある生徒の支援

③医療機関や保健所・精神保健福祉センター 連携の具体的内容

自由回答

- 心身の状態の専門的見解
- 医療機関などとの情報共有により、支援の方向性が見えてきやすくなったと感じた
- 生徒の現状と対応について指示をいただいた
- 乳幼児の時期から保護者・子どもと対応してきた保健師が多く、学校の対応策について助言いただけた
- 保健福祉課との定期的な情報交流
- 病院による診断
- 健康状態の把握
- 医学的支援
- 薬の服用に関する情報提供
- 対象生徒の特性やかかわり方等について理解し、職員で共有することができた
- ケース会議、薬の処方カウンセリング
- カウンセリングの状況の情報共有 生徒への具体的な指導の在り方の検討

- 保健センター保健師との情報交換
- 受診結果の共有
- 医療従事者とのケース会議と経過観察
- ケース会議への参加
- 学校での対応を助言していただいた
- 学校生活の様子の情報共有、指導助言
- 医師の診断・検査
- 医療的見地からの生徒及び保護者との連携
- 通院時医学的な所見や生活や学習についてのアドバイスをいただいた
- 生徒の状況に関する情報共有、具体的な対応の在り方、保護者支援等に関する助言等
- 学校に来た時の様子や家庭での過ごし方について情報提供し、対応についてアドバイスをもらった
- 生活支援
- 受診結果の共有、具体的対処方法の共有
- 病院内での学習支援
- 生徒についての情報の共有
- 医師や病院内の SW と担任や管理職が定期的に電話や面談などで情報交換を行うことで、登校に向けた配慮事項などを確認することができた
- 医療診断結果及び今後の対応について、保護者・生徒・学校で共通理解を図ること
- 対象生徒の現状分析や効果的な支援について
- 卒業時に情報提供を行い、卒業後も支援をしてもらえるように依頼した
- 命に係わるケースでの情報共有
- 病状や対応について相談
- 医師の助言に基づいて支援を行うことができた
- 原因の究明
- 医療機関を利用したことで、保護者の安心感が深まった
- 生徒、保護者の定期カウンセリング・該当期間と学校職員の情報交換
- 医療機関と連携できたことで、学校側の負担が軽減された
- 不登校の生徒の身体的な見立てを医療機関で診断していただき、支援について情報共有することができた
- 本人の精神安定
- 医療機関との生徒の情報交換
- 健康上の症状を把握し登校支援に活用した
- 学校では何とか母子分離をしなくてはと考えていたところ、医療機関では生きていてくれたという確認で十分な状況と聞き、ゆっくり見守る方針に変更できた
- 不登校支援の方法のアドバイスを受けた
- 希死念慮生徒の医療連携
- パニック症状のある生徒さんの指導の方向性について助言をいただいた
- 生徒にどんな言葉掛けをすることが大切かを専門的な視点で教えていただいた
- 不登校支援について
- 生徒の様子や状況について専門的見地から診断してもらった
- クリニックで母親がカウンセリングを受けた
- 本人の診断、薬の処方
- 生徒の心理状況の把握と、今できる支援の検討と助言をいただいていた
- 生徒が医療機関に受診した際の様子などを医師と共有を図りながら、生徒の実態把握に役立つ

てたこと

- 発達障がい起因とする二次障害としての不登校生徒への医療的な服薬等の指示
- 本人の現状について、医療的アプローチの中で支援をいただいた
- 医療連携をすることにより、専門的な見地から助言をいただいて、生徒本人への指導に生かすことができた
- 生徒の様子や対応の共有やアドバイス
- 学校や家庭でできる支援についての助言・生徒の情報共有
- 子供の心身の健康状態の共有と理解
- 生徒に対する適切な支援の在り方について、医療的な見地から意見をいただいた
- 保健所の方の家庭訪問と情報交換
- 医療機関において、該当生徒の現状を把握してもらう
- 毎日連絡を取り合い、出席状況や様子などを共有し協力し合い生徒の支援ができた
- 病院の主治医との情報交換
- 特別な支援の必要性の有無を判断
- 不登校支援センターふれあいの杜で生徒の様子や状況を把握してくれるのはもちろんのこと学習支援や定期テスト補助を行ってくれた
- 生徒とどのように接したら良いかについて連携した
- 医療の見地からのアドバイス
- 該当生徒のケース会議
- 学校が知り得ない情報など共有できたこと
- 医療機関本人の特性について、対策をアドバイス受けていた
- 様々な発達の課題を抱えた生徒に対してのアドバイス、また保護者や教員に対してのサポートをしてもらった
- 診断情報を生かして教育実践
- 生徒の状態について、医療機関と連携を図ることでより具体的な支援につながった
- 生徒個人の相談を機関のSSWと直接することができた・学校での対応の仕方など詳しくうかがうことができた
- 発達検査の結果から具体的な対応方法の助言を受けた
- 健康面、学校生活や行事に参加する際の注意事項、発症時の対応について
- ゲーム依存の不登校生徒を入院させて、改善を図った
- 適応指導教室との情報交換
- 通院同行等で支援対策の共有を図った
- 支援を必要とする不登校の生徒で病院受診をきっかけに登校することができたケースがあった
- 専門的なアドバイスを受けていた
- 医療機関からのカウンセリング結果の共有や対象生徒・保護者への働きかけについて指導助言をいただいた
- 生徒の心身の状況把握等
- 臨床心理士との連携
- 心理、発達等の検査及び情報交換
- 生徒への具体的な対応や配慮すべきことなどについての助言
- 生徒の状況に応じた医学的知見から支援と情報の提供
- 医学的なサポートやケア
- 養護教諭や担任が保護者の承諾を得て、可能な範囲で情報共有をすることができた
- 家庭内の様子や学校の様子について、情報を共有していた

④警察 連携の具体的内容

自由回答

- いじめや SNS 案件の相談
- 定期的なカウンセリングや面談
- 行方不明生徒の把握
- スクールサポートスタッフからの情報共有
- 問題行動の多い生徒について、少年サポートセンターと連携し対応について協議した
- スクールサポーターの方に学校を回ってもらったり、放送で全校に注意することを伝えてもらったりと助かっています
- 生徒指導に関する情報交換
- 問題行動の情報共有
- 対象生徒の生活指導における連携を深めた
- 生徒を警察署に呼び、指導を行ってくれた
- 窃盗や私有地での迷惑行為事案に対する協力要請
- 非行傾向の生徒への指導促進
- 事実の把握
- 生徒指導や交通安全指導
- 触法行為に関して、警察署でも指導をしてもらう
- 問題行動等の把握や所在確認など

⑤人権擁護機関 連携の具体的内容

自由回答

- 定期的な家庭訪問
- 食事
- 相談支援、授業参観を終えてのケース会

⑥フリースクール 連携の具体的内容

自由回答

- 放課後等デイサービスに登校し、学習等を行った
- 対象生徒の出欠状況や学習の様子など、成長について共有し、生徒と保護者への対応が適切に行われた
- 連絡が密であり、登校状況や活動内容の報告をもらっている・互いに情報共有しながら効果的な支援を行おうと協力している
- 学びの保障にかかわる自宅学習状況の把握
- 学習や家庭生活、保護者の考え方についての情報交換
- 生徒の対応や保護者との接し方の指導
- 外部とのつながりや登校への意欲づくり
- 活動内容の共有、支援内容の共有
- 適応教室との出席の確認及び活動内容
- 家庭生活の内容、学習の進度も含めた情報交換
- 生徒の学習の様子の把握
- フリースクールへの登校、出席日数への加算
- 出席状況の確認
- 個別の学習支援
- フリースクールでの活動の情報を共有し、評価評定に生かすことができた
- フリースクール担当者から学習等行っていた内容を詳細に記載していただいたものを郵送、メ

- ールで送っていただいた
- 学習支援
- フリースクールから毎月報告書が届き、学校への登校はできていないが、学校外での取り組み内容を把握できる
- 月1回以上メールや電話で連携し、生徒の状況について情報共有を行い、対応策について共有した
- 実際に子どもが通っていて情報共有ができたので
- 生徒の課題を細かく共有
- 毎月の生徒の状況を FAX で送ってもらっていた
- 生徒にあった対応
- はじめにフリースクールの方針ならびに目的を聞き、その後定期的に電話やメールでのやりとりを行った
- 不登校生徒の居場所としてフリースクールを捉え、そこでの活動内容を学校でも把握し当該生徒の励みとなるよう働きかけを行った
- 不登校生の居場所づくりとなって、自分のペースで学習を進めることができた
- 本人の特性に応じた支援を行っていたので、共有しながら対応していた
- 学習支援、進路相談
- 学年スクリーニング会議に参加してもらい、本校生徒の情報共有及び登校が滞っている生徒の連携対応に有効であった
- その日の様子をメール等で報告し合う
- 文書での情報共有
- 出席状況や活動状況の連絡
- 生徒理解の為に知り得た情報を常に電話やメールで共有
- 基本的な生活習慣の確立
- フリースクールへの登校とそのときの状況の共有
- 生徒の学習活動報告生徒の精神状況報告担当者の相互訪問
- 子どものペースで通っていた
- 学習内容等の情報共有
- 登校状況、学習状況の連携
- 学校での様子、フリースクールでの様子を共有することでそれぞれの生徒への声かけに役立った
- 生徒の状態や学習内容の共有について
- 月ごとの情報共有
- フリースクールの学習や生活等の状況について、情報共有を行った
- 定期的な訪問をし、情報共有を行う
- 出席状況の確認と出席時の様子の連携
- 学校と福祉機関とが連携しての家庭の見守り
- 生徒の状況や取り組みについて書面にて共有していた
- 学習内容のすり合わせや生徒の状態の情報共有
- 登校へのきっかけづくりや居場所づくりとして効果的であった
- フリースクール内で話した本音や悩みなどを共有し、家庭訪問時の声かけや話題づくりに活用した
- テストの実施、登校状況の確認
- 活動内容の共有により学習成績の反映ができた
- ケース会議を行った

- 不登校生徒への学習支援・不登校生徒の情報共有
- 多様な事情を抱えている生徒・保護者に対し、個に応じた支援をいただいている
- 生徒の居場所づくり
- 出席状況と学習内容の確認
- 普段、学校ではつかめない登校状況、学習進度、生徒理解などにつながった
- 出欠の情報提供や学習内容の記録などを学校に提出いただいている
- 市の教育支援センターとの連携で、不登校生徒がそちらに通ったりしている
- 出欠状況や学習した内容を定期的にメールで連絡
- 出欠、学習進度の情報共有
- 生徒の学習面や生活面を含めた情報提供
- フリースクールに登校できたら出席扱いとしていた・フリースクールでの様子を知らせてもらった
- 適応指導教室に通室している本校生徒の様子を、連絡する体制が整っている
- フリースクールの出席状況の確認と将来の進路についての支援
- 活動の状況がフリースクールより送られてくるので参考になった
- 生徒がフリースクールの活動に参加した日を定期的に報告してもらい、該当する日を出席扱いとしていた
- 個別学習
- 毎月の出席状況や学習内容等の情報共有を行っていた
- 通級した日の学習内容や活動時間について情報連携(提供)を行っていた
- 定期的な情報交換会の実施
- 子どもの第三の居場所づくりとして開設した所に学校に行けない生徒が登校し自習を行うことができた

⑦その他 連携の具体的内容

自由回答

- 市教委担当課及び区役所担当課とは、各支援機関との連絡や連携を主として担っていただいた
- 卒業後の家庭以外での居場所づくり
- ケース会議への参加、日常的な情報交流
- 教育支援センターでの活動状況や生徒の考えや発言についての情報共有
- 教育上特別な配慮を要する生徒の適切な支援の在り方について専門的な意見の提示や助言
- 適応指導教室に通うことを選択し、毎月出席状況や本人の様子を連携しながら様子を見守っているうち、登校意欲が増し高校には問題なく通えている
- 他校から不登校の生徒が転入し、その生徒の家庭環境などを確認することができた
- 学校復帰に向けた進捗状況の確認ができ、生徒の進路について共有したりすることができた
- 学校外での居場所と学習保障の場
- 生徒、保護者の状況を担当支援員と連携して情報共有を図ることができた
- 市の適応指導教室の職員との定期的な情報交流など、生徒の実態や変容をつかむために非常に効果的であった
- 情報交流適応指導教室を活用した定期テストの受験等
- 適応指導教室に通級し、担当者と情報交換を行った
- 自治体の保健師と繋がりを持ち、保護者と不登校生徒の両方面からのアプローチを行った
- 生徒や保護者の悩みへの対応・生徒が関係機関で勉強などの指導を受ける
- 町役場福祉給付課や健康推進課、町教育委員会、学校の三者で開催する要対協

- 役場(子育て支援課)不登校生徒の家庭環境や虐待等の有無など、学校ではなかなか知りえない情報を共有することができた
- 保護者、本人との面談・家庭での生活や学校生活を送る上でのアドバイス及び指導
- 学校訪問等で生徒の情報交換や今後の指導についての共通理解
- 通級生徒についての情報交換
- 不登校生徒への支援について、定期的に文書や面談等で情報交換した
- 情報共有・対人スキルの向上
- 巡回相談、適応指導教室への通室、教育相談
- 市教委の管轄の教育相談室・適応指導教室で、出席扱いにした・また、指導・支援について学校との共有が容易で生徒個々に応じた対応が可能だった
- 不登校生徒が学校以外の場所で自分の居場所をつくることができる・また、通室しながら学習支援や教育相談が行われることで、学校復帰へつながっていた
- 生徒との面談、保護者との相談、授業中の見取り
- 定期的な情報共有と方向性の確認ができた
- 情報を共有しながら、生徒の居場所を確保した
- 教育委員会が運営する、ケアハウスとの連携による、訪問や学習支援
- 教育支援センターへの通所と学校の登校を併用した生徒がおり、完全な不登校には至らなかった
- 学校には登校できない生徒に対する第三の居場所・学習支援及び自立支援
- 生活リズムの改善と学習習慣の確立
- 適応指導、集団活動、保護者対象の相談、学習活動(自学)、活用の様子を学校情報提供
- 県教育委員会の生徒指導担当指導主事、SSW に相談して、助言をいただいた
- 生徒の状況の共通理解
- 保護者との面談結果を情報共有
- 生徒の居場所が増えて、通うことができた
- 適応教室の本校担当者と、学期1回程度、担任等が面談を行い情報交換した・また、学期の初日と終日に担任や学年主任が適応教室を訪れ、担当者や本人と面談を行った
- 障害者相談支援センターとケース会議の実施による具体的支援策の検討を行った
- 自治体が運営している機関で、多様な学習形態で生徒に合った学びを実践してもらっている
- 適応指導教室への通級と通級日数や内容の共有適応指導教室の分室(近隣の公民館)の開設方部巡回相談員の定期的な訪問と情報提供等
- 市こども支援課、児童相談員の家庭訪問
- SSW が学校と家庭との架け橋になり、生徒への支援を行っていた
- 不登校生徒の学校復帰の手助け
- 通級することができた際の本人の状況を毎月文書で報告を受けている・また、学校での支援状況を伝えた
- 生徒の連携機関での生活の様子に関する情報共有
- 情報交換(適応指導教室での生活について等)
- 学習支援、学校への登校に向けた支援
- 生徒の心に寄り添った対応をとってくれた
- 市教育センターに保護者や本人が直接教育相談に行き、学校以外の学習機関への対応等を具体的に検討してくれた・また学校への連絡もしてくれた
- 情報共有をしながら、学校と行政の役割分担を明確化して、該当家庭に対する支援を様々な角度から行えるようにした
- 登校支援、独自の行事への参加、定期テストの受験、個別の配慮

- 適応指導教室における、生徒の状況や学習面について情報交換が行いやすい・定期テストや実力テストの受験への配慮
- 生徒、保護者への支援の内容検討と教育支援センターとの連携
- 該当の生徒が行っているときに、担任等が様子を見に行っていた
- 生徒の出席状況や学習状況の様子の情報交換を行った
- 適応指導教室での不登校生徒の支援
- 市の適応指導教室にいった場合出席扱いとしており、適応指導教室の職員の方が遅れている学習を支援してくれたり、適応指導教室での様子を教えてくれたりした
- 子ども支援課職員による家庭訪問、学校訪問
- 不登校生徒の支援、居場所の確保など
- 退職した管理職の先生が、登校できない生徒の対応をしてくれる機関であり、生徒や保護者の気持ちに寄り添って対応してくれるとともに、学校の実情にも理解がある
- 生徒と保護者の双方と面談し、支援・指導にあたっていた
- 引きこもりを減らす・コミュニケーション能力の育成・悩みやストレスの相談
- 生徒の情報共有と対応方法の検討及び助言等
- 子育て相談課と連携し家庭訪問を行った
- スクールソーシャルワーカーの派遣や教育支援センターの活用、保護者対応の助言等
- 学校へ行けないため、担任や養護教諭以外の大人と関わる機会が得られ、引きこもりにはならず済んだ
- 教育研究所においてカウンセリングや検査
- 本人や保護者対象の希望面談
- 保護者の相談窓口がある
- 不登校生徒が該当機関で、自主学習をするなどして過ごし、その様子を学校と共有する
- 担当者と定期的に連絡を取り合い情報交換をした
- 市の教育相談所保護者、生徒との面談や対応について学校と家庭との橋渡し役を担っていた
- 情報交換及び支援方法の相談と共有
- 市教育センターの相談員との保護者を含めたカウンセリング
- 市家庭児童相談室と不登校生徒の出欠状況、家庭の状況を情報共有し、家庭と連絡を取ることができた
- ヤングケアラーの疑いや、保護者の不和による精神的虐待案件など
- 教育センターや適応指導教室における集団活動や学習指導および個別相談
- 近隣に不登校支援学級開設
- 教育支援センターにて活動した場合は出席扱い・また、月に一回のセンターと学校の情報共有の場が設けられていた
- 居場所作り学習の確保
- 市適応支援センター教育的支援活動、社会的自立のための発達支援を行うとともに、学校復帰のための支援
- 学校での様子と、適応指導教室での様子を共有できたことで、本人や家庭が安心して進路開拓に気持ちが向けられた
- 不登校生徒への教育支援
- 学校訪問相談員と保護者との定期面接
- 適応指導教室での学習の状況について、定期的に報告をいただくことで、学習進度や生活の様子などの共通理解につながった
- 通級時の情報共有、進路指導

- 家庭訪問と本人へ心理相談支援
- 不登校生徒で、学校以外の期間での学習を希望する生徒に紹介し、体験をしてもらう・その後、センターと本人、保護者との面談を経て入室が決定・学習支援等を実施しながら登校意識を高めていく・学校とは定期的に情報交換をするほか、対象生徒についての担任や管理職との訪問情報共有の機会もある
- 学校教育支援センターと連携をし、SSW の派遣等をお願いし、不登校生徒への家庭訪問等、連携をして行った
- 教室に入れない生徒に対して、市の不登校支援の教室を紹介して入室を促した
- こども家庭支援センターによる保護者支援
- 不登校生徒の学校以外の居場所づくりと諸機関へのパイプ役としての連携
- 課題を抱える生徒・保護者との対応のため、市教委・区役所子ども家庭支援課・児相と連携しながら対応している
- 保護者に丁寧に進路についてのアドバイスをもらった
- なかなか外出ができない生徒の買い物に同行してくれた
- 青少年相談センターのカウンセラー、青少年相談センター所管の相談指導教室と連携し、家庭へのアプローチの方法などを確認しながら支援にあたった
- 学校以外での生徒や家庭の状況などについて情報を共有しながら、中学校卒業後の進路選択を心理、学習の双方から支援できた
- 不登校生徒・保護者との相談や、適応指導教室(教育支援センター)への紹介、学校への巡回相談などを行っていただき、支援の方策について助言をいただいた
- 教育相談センターの指導主事から指導・助言をもらい支援につなげた・通室や心理士と連絡を取り、連携を取っていた
- 市支援センターとの情報連携
- スクールソーシャルワーカーによる、必要に応じた医療機関の紹介・保護者への的確な助言
- 毎月、生徒が通室した日数や学習内容等を連絡して頂いていた・登校日数や学習評価を決める際に大変参考になった
- 校外適応指導教室不登校生徒の通級
- 不登校生徒の情報共有
- 学校から全く連絡が取れない家庭との間に入り、連絡や調整を行っていただいた
- 学習面(テスト)の取組み
- 定期面談による情報交換や月毎の報告書
- 適応指導教室において、学校の授業に合わせた個別の学習支援を行う
- 不登校生や保護者の思いを共有し、支援に当たる
- 生徒・保護者への定期的な悩み調査や個別面談等の情報共有
- 一人一人に応じて、コミュニケーションをとり、必要な支援をしていただけた
- 生徒の様子や状況についての報告、保護者との定期的な面談から、学校としての支援内容・計画の作成に有意義であった
- 通室したときの様子や担任が掴んでいる情報を毎月、情報交換することで本人、保護者の様子をお互いに知ることができ、その後の対応に活かすことができた
- 生徒の様子や保護者との懇談内容の情報共有や助言をいただいた
- 通所時の生徒の様子保護者・本人への同方向の支援体制
- 生徒の学習支援に有効・連携した登校刺激を行い、学校に復帰できた
- 生徒の様子や保護者への対応等毎日の情報交換
- 生徒の学習の様子を含む状況把握及び情報交換生徒と保護者の関係性の情報交換
- 家庭・保護者との連携

- 定期的な生徒の様子の情報交換必要に応じて関係者会議、支援会議
- 生徒の状況の確認、学校職員が行って支援
- 情報の共有と指導のサポート、支援会議への出席、外部との連携サポートなど
- 校内支援会議における情報共有および指導の一体化
- 市が開設している適応指導教室へ通所あるいはオンラインで参加している生徒についての情報交流を行っていた
- 学習支援の他、集団での体験活動等を実施している
- 不登校生徒が学校へ復帰するための、登校習慣をつけ、他者と関わる場所